

史跡出雲国府跡

- 8 -

2013年3月

島根県教育委員会

史跡出雲国府跡

- 8 -

2013年3月

島根県教育委員会

題字：勝部 昭

序

出雲国府は、昭和 43～45（1968～1970）年の松江市教育委員会、奈良国立文化財研究所、島根県教育委員会による発掘調査で所在地が確定されました。昭和 46（1971）年には約 42 万 m²におよぶ広大な範囲が国史跡に指定されています。この一部が史跡公園として整備され、今日まで市民の憩いの場として親しまれています。また、出雲国府跡のある意宇平野には条里制を残した美しい水田地帯が広がっています。古代から現代まで、ひとびとの営みの中で残されてきた全国的にも貴重な景観といえます。

島根県教育委員会では、この史跡出雲国府跡を保存・活用するため、平成 11（1999）年度から継続的に発掘調査を実施しています。

平成 19（2007）年度からは、「国司館」の一角と推定されている、史跡公園北寄りの範囲を対象に調査を実施しています。本書はこのうち平成 22（2010）～23（2011）年度に実施した発掘調査の成果を取りまとめたものです。この調査では、「国司館」の西側を区画する溝のほか、平安時代の井戸、整地作業の痕跡などが見つかりました。こうした成果を積み上げていくことで、出雲国府跡の施設配置や変遷が徐々に明らかになっていくものと考えています。

本書が、今後の出雲国府跡に関する研究はもとより、当地域の歴史像を解明する上で一助になれば幸いに存じます。

最後になりましたが、調査にあたっては多大な御支援と御協力を賜りました地元の皆様をはじめ、関係各位に心より感謝申し上げます。

平成 25 年 3 月

島根県教育委員会
教育長 今井 康雄

例 言

1. 本書は島根県教育委員会が平成 22（2010）年度から平成 23（2011）年度に国庫補助事業として実施した風土記の丘地内遺跡発掘調査事業の報告書である。
2. 本書に掲載した遺跡の所在地は、下記のとおりである。

松江市大草町 509-1 番地外 史跡出雲國府跡
3. 本書に収録した内容は、つぎのとおりである。
 - 平成 22（2010）年度 宮の後地区発掘調査
 - 平成 23（2011）年度 宮の後地区発掘調査
4. 掃図中の北は、国土地理院第Ⅲ座標系（日本測地系）の南北軸座標 X 軸方向を指しており、磁北より 7° 12'、真北より 0° 32' 東の方向を指している。また、レベル高は海拔高を示す。
5. 本書に掲載した遺跡分布図は国土地理院発行のものを使用した。また、遺跡周辺の地形図は島根県教育委員会で作製した風土記の丘地内の 1:1,000 地形図をもとに作製した。
6. 本調査に伴って行なった自然科学分析は次の機関に委託して実施し、その成果は第 4 章にまとめて掲載した。

C14 年代測定（文化財調査コンサルタント株式会社）
7. 本書に掲載した写真は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センター調査員が撮影し、実測図の作成は調査員・調査補助員が行なった。遺構・遺物の浄書は調査補助員が行なった。
8. 本書の執筆・編集は稲田が行なった。
9. 本書の編集にあたっては DTP 方式を採用し、Adobe 社の PhotoshopCS4、IllustratorCS4 を用いてトレース等を行ない、IndesignCS4 で編集を行なった。
10. 著は各章ごとに連番を振り当該頁下に配置した。参考文献は各章末にまとめて示した。掃図及び表の番号は、第 4 章を除く各章は全体の通し番号により表示し、第 4 章については各節ごとに番号を振っている。
11. 本書に掲載した出土遺物、実測図及び写真などの資料は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターで保管している。
12. 本書で用いた遺物の分類及び年代観は基本的に下記の論文・報告書を参考にした。

(須恵器) 松江市教育委員会 1970『出雲國庁跡発掘調査概報』
大谷晃二 1994『出雲地域の須恵器の編年と地域色』『島根考古学会誌』第 11 集
島根県教育委員会 2003『史跡出雲國府跡 1』
(瓦) 島根県教育委員会 2009『史跡出雲國府跡 6』
(陶磁器) 太宰府市教育委員会 2000『太宰府条坊跡 X V』

調査組織

史跡出雲国府跡発掘調査指導委員会

蓮岡法暉（元島根県文化財保護審議会委員）、金田章裕（人間文化研究機構長）、井上寛司（島根大学名誉教授）、佐藤信（東京大学大学院人文社会系教授）、大橋泰夫（島根大学法文学部教授）、花谷浩（出雲市文化環境部学芸調整官）、清水重敦（京都工芸繊維大学准教授）

指導助言 平成 22 年度

水ノ江和同（文化庁文化財部記念物課文化財調査官）

平成 23 年度

林正憲（文化庁文化財部記念物課文化財調査官）

事務局 平成 22 年度

松本岩雄（教育庁文化財課長）、廣江耕史（同調整監）、池淵俊一（同企画員）、松尾充晶（同文化財保護主任）、川原和人（埋蔵文化財調査センター所長）、丹羽野裕（同調査第 1 グループ課長）

平成 23 年度

松本岩雄（教育庁文化財課長）、廣江耕史（同調整監）、今岡一三（同企画員）、松尾充晶（同文化財保護主任）、川原和人（埋蔵文化財調査センター所長）、丹羽野裕（同管理グループ課長）

平成 24 年度

祖田浩志（教育庁文化財課長）、椿真治（同調整官）、今岡一三（同企画員）、東山信治（同文化財保護主任）、廣江耕史（埋蔵文化財調査センター所長）、池淵俊一（同調査第 3 グループ課長）

調査担当者 平成 22 年度

宮本正保（埋蔵文化財調査センター企画員）、稲田陽介（同主事）、人見麻生（同調査補助員）

平成 23 年度

内田律雄（埋蔵文化財調査センター調査第 1 グループ課長）、稲田陽介（同主事）、人見麻生（同調査補助員）

平成 24 年度

稲田陽介（埋蔵文化財調査センター主任主事）、人見麻生（同調査補助員）

調査指導、協力機関・協力者

文化庁、奈良文化財研究所、島根県立八雲立つ風土記の丘、松江市教育委員会、松江市大庭公民館、松江市竹矢公民館、大草町自治会、高橋照彦（大阪大学大学院文学研究科准教授）、勝部昭（島根県文化財保護審議会委員）

本文目次

第1章 史跡出雲国府跡の位置と歴史的環境	
第1節 出雲国府跡の位置.....	1
第2節 出雲国府跡周辺の歴史的環境.....	2
第2章 調査に至る経緯と調査の経過	
第1節 調査に至る経緯.....	4
第2節 調査の経過.....	4
第3章 平成 22・23（2010・2011）年度の発掘調査	
第1節 宮の後地区の調査.....	8
第2節 第 55 トレンチの調査	65
第4章 自然科学分析	
第1節 史跡出雲国府跡（平成 22 年度）に伴う AMS 年代測定.....	67
第2節 出雲国府跡出土赤色顔料付着遺物について	70
第5章 総括	73

挿図目次

(第1章)	
第1図 史跡出雲国府跡と周辺の遺跡等位置図	1
(第2章)	
第2図 史跡出雲国府跡調査区位置図	5
(第3章)	
第3図 宮の後地区の遺構と層位の対応模式図	9
第4図 宮の後地区西調査区土層断面図	11
第5図 宮の後地区東調査区土層断面図	12
第6図 西調査区1層下面遺構配置図	13
第7図 西調査区水田畦溝実測図	14
第8図 東調査区1層下面遺構配置図	15
第9図 東調査区水田畦溝実測図	15
第10図 東調査区2層下面遺構配置図	16
第11図 東調査区水田溝実測図	16
第12図 水田溝3出土遺物実測図	17
第13図 土坑実測図	17
第14図 近世道路状遺構実測図	18
第15図 1・2層出土遺物実測図	19
第16図 西調査区3層下面遺構配置図	21
第17図 14号井戸実測図	22
第18図 14号井戸出土遺物実測図	23
第19図 74号溝実測図	24
第20図 74号溝出土遺物実測図	25
第21図 75号溝・62号・63号土坑、Pit13実測図	26
第22図 75号溝出土遺物実測図	27
第23図 59号土坑実測図	28
第24図 59号土坑出土遺物実測図	28
第25図 60号土坑実測図	28
第26図 60号土坑出土遺物実測図	28
第27図 61号土坑、Pit12実測図	29
第28図 61号土坑、Pit12出土遺物実測図	29
第29図 64号土坑、Pit10・11実測図	30
第30図 Pit14、石列1実測図	30
第31図 西調査区3層出土遺物実測図(1)	30
第32図 西調査区3層出土遺物実測図(2)	31
第33図 西調査区3層出土遺物実測図(3)	32
第34図 東調査区3層下面遺構配置図	33
第35図 70号溝実測図	34
第36図 70号溝周辺出土遺物実測図	34
第37図 76号溝、SX05実測図	35
第38図 76号溝、SX05出土遺物実測図	36
第39図 47号土坑、Pit01～06実測図	37
第40図 47号土坑出土遺物実測図	37
第41図 48号土坑実測図	38
第42図 48号土坑出土遺物実測図(1)	39
第43図 48号土坑出土遺物実測図(2)	40
第44図 48号土坑出土遺物実測図(3)	41
第45図 49号土坑実測図	42
第46図 49号土坑出土遺物実測図	42
第47図 Pit07～09実測図	43
第48図 東調査区3層出土遺物実測図(1)	43
第49図 東調査区3層出土遺物実測図(2)	44
第50図 東調査区3層出土遺物実測図(3)	45
第51図 東調査区3層出土遺物実測図(4)	46
第52図 東調査区3層出土遺物実測図(5)	47
第53図 東調査区3層出土遺物実測図(6)	48
第54図 東調査区4層下面候遺構配置図	49
第55図 73号・77号溝実測図	50
第56図 73号・77号溝出土遺物実測図	51
第57図 50号～55号土坑実測図	52
第58図 50号～53号土坑出土遺物実測図	53
第59図 55号土坑実測図	53
第60図 56号土坑、井桁状遺構実測図	54
第61図 57号・58号土坑、井桁状遺構実測図	55
第62図 57号土坑出土遺物実測図	56
第63図 58号土坑出土遺物実測図	57
第64図 井桁状遺構出土遺物実測図	58
第65図 東調査区4層出土遺物実測図(1)	59
第66図 東調査区4層出土遺物実測図(2)	60
第67図 東調査区4層出土遺物実測図(3)	61
第68図 西調査区5層上面遺物出土状況	61
第69図 西調査区5層出土遺物実測図	62
第70図 東調査区5層上面遺物出土状況	62
第71図 東調査区5・6層出土遺物実測図	63
第72図 搬乱、堆土出土遺物実測図	65
第73図 第55トレンチ実測図	66
第74図 第55トレンチ出土遺物実測図	66
第75図 大倉原・一貫院・宮の後地区主要遺構配置図	76

表 目 次

第 1 表 史跡出雲國府跡の発掘調査	7	第 7 表 出雲國府跡 47 号土坑出土	
第 2 表 出雲國府跡出土遺物観察表	77	金属器生産関連遺物集計表	87
第 3 表 出雲國府跡出土玉作関連遺物観察表	85	第 8 表 出雲國府跡出土玉作関連遺物・石器集計表	88
第 4 表 出雲國府跡出土金属製品観察表	85	第 9 表 出雲國府跡出土陶磁器集計表	91
第 5 表 出雲國府跡出土金属器生産関連遺物観察表	86	第 10 表 出雲國府跡出土瓦集計表	92
第 6 表 出雲國府跡出土金属器生産関連遺物集計表	86		

写 真 図 版 目 次

図版 1 西調査区全景（南から）	西調査区 g-h ライン土層断面（南西から）	図版 14 第 55 トレーナー（南から）	Pit 2（西から）
図版 2 平成 22（2010）年度 東調査区全景（西から）	平成 23（2011）年度 東調査区全景（東から）	図版 15 水田溝 3、1・2 層出土遺物	
図版 3 西調査区 a-b ライン土層断面（南東から）	西調査区 g-h ライン土層断面（北東から）	図版 16 1・2 層出土遺物	14 号井戸出土遺物
図版 4 土坑 1（東から）	縦敷道構（南から）	図版 17 74 号・75 号溝出土遺物	
	14 号井戸 2 層上面（西から）	図版 18 59～61 号土坑、Pit12 出土遺物	西調査区 3 層出土遺物 1
図版 5 14 号井戸 4 層上面（北西から）	74 号溝露出状況（南から）	図版 19 西調査区 3 層出土遺物 2	
	74 号溝完掘状況（南から）	図版 20 70 号溝出土遺物	76 号溝、SX05、47 号土坑出土遺物
図版 6 75 号溝、62 号・63 号土坑検出状況（南から）	59 号土坑（西から）	図版 21 48 号土坑出土遺物 1	
	59 号土坑（南から）	図版 22 48 号土坑出土遺物 2	49 号土坑出土遺物
図版 7 60 号土坑（西から）	61 号土坑、Pit12（南から）	図版 23 東調査区 3 層出土遺物 1	
	64 号土坑、Pit10、Pit11（東から）	図版 24 東調査区 3 層出土遺物 2	
図版 8 76 号溝（南から）	SX05（北から）	図版 25 東調査区 3 層出土遺物 3	
	47 号土坑（北から）	図版 26 東調査区 3 層出土遺物 4	
図版 9 48 号土坑（南東から）	48 号土坑、井桁状遺構（南西から）	図版 27 東調査区 3 層出土遺物 5	
	48 号土坑、井桁状遺構（南東から）	図版 28 73 号・77 号溝出土遺物	50～53 号土坑出土遺物
図版 10 48 号土坑 e-f ライン土層断面、51 号土坑（南東から）	48 号土坑 e-f ライン土層断面、51 号土坑（北東から）		58 号土坑出土遺物
	48 号土坑 e-f ライン土層断面、51 号土坑（北東から）	図版 29 57 号土坑出土遺物 1	
図版 11 49 号土坑（南から）	48 号土坑 c-d ライン土層断面、51 号土坑（東から）	図版 30 57 号土坑出土遺物 2	井桁状遺構出土遺物
	Pit08（北から）	図版 31 東調査区 4 層出土遺物 1	
図版 12 73 号溝 a-b ライン土層断面（北東から）	Pit09（北から）	図版 32 東調査区 4 層出土遺物 2	
	77 号溝（北から）	図版 33 東調査区 4 層出土遺物 3	
図版 13 52 号土坑（南東から）	井桁状遺構（北から）	図版 34 西調査区 5 層、東調査区 5・6 層出土遺物	
	井桁状遺構、57 号・58 号土坑（北西から）	図版 35 東調査区 5・6 層出土遺物	搅乱、耕土、第 55 トレーナー出土遺物

既 報 告 一 覧

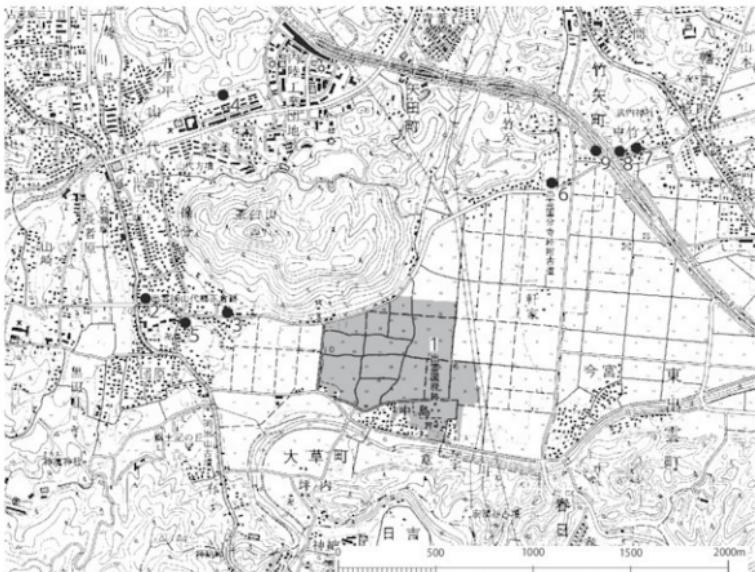
- | | |
|----------------------------|----------------------------|
| 『史跡出雲国府 - 1-』島根県教育委員会 2003 | 『史跡出雲国府 - 5-』島根県教育委員会 2008 |
| 『史跡出雲国府 - 2-』島根県教育委員会 2004 | 『史跡出雲国府 - 6-』島根県教育委員会 2009 |
| 『史跡出雲国府 - 3-』島根県教育委員会 2005 | 『史跡出雲国府 - 7-』島根県教育委員会 2011 |
| 『史跡出雲国府 - 4-』島根県教育委員会 2006 | |

第1章 史跡出雲国府跡の位置と歴史的環境

第1節 出雲国府跡の位置

史跡出雲国府跡は松江市大草町に所在し、市の東南部にある意宇平野南端に立地する。史跡の南側には、松江市八雲町熊野の山間部に源を発する意宇川が流れ、北には『出雲國風土記』に「神名樋野」と記載された標高 171m の茶臼山がそびえる。さらに北には大橋川が東流し、東側に広がる汽水湖、中海へとそぐ。

史跡出雲国府跡の立地する意宇平野は、意宇川が形成した沖積平野で、肥沃な土壌を基盤とした水田が広がっている。意宇平野の南側丘陵には、東百塚山古墳群¹や安部谷横穴墓群²、最古の石棺式石室を有する古天神古墳³などが分布する。また北東約 800m には史跡出雲国分寺跡⁴が史跡公園として整備されているほか、そのさらに東 150m には、出雲国分寺瓦窯跡⁵が保存されている。平野北西には、山代段丘が南北に延びており、山代二子塚古墳⁶をはじめ、大庭鶴塚古墳⁷などの首長墓や、山代郷北新造院跡（来美廃寺）⁸や山代郷南新造院跡（四王寺跡）⁹といった寺院跡なども知られている。



第1図 史跡出雲国府跡と周辺の遺跡等位置図 (S = 1 : 25,000)

第2節 出雲国府跡周辺の歴史的環境

1. 律令期以前の遺跡

出雲国府跡周辺の歴史は旧石器時代にまで遡る。下黒田遺跡¹⁰では、玉髓製剥片のブロックが検出されており、また古代寺院として知られる山代郷北新造院跡（来美庵寺）¹¹の造成土中からは、玉髓製のナイフ形石器が出土している。縄文時代の遺跡は少なく、いずれも土器や石器の小片が確認されているに過ぎない。才塚遺跡¹²では後期中葉の土器と打製石斧、磨製石斧が、法華寺前遺跡¹³では前期と思われる土器が採取されている。弥生時代になると、意宇平野に遺跡が急増する。建築材と考えられる木製品が多数出土した上小紋遺跡¹⁴や、水田跡が検出された夫敷遺跡¹⁵などがある。古墳時代は、大橋川沿いから大庭町にかけて多くの遺跡が分布している。出雲国府跡の周辺には東百塚山古墳群¹⁶、古天神古墳¹⁷、大草岩船古墳¹⁸、安部谷横穴墓群¹⁹などが見られる。また茶白山西麓には、山代二子塚古墳²⁰や山代方墳²¹、永久宅後古墳²²といった、出雲を代表する後期古墳が立地している。古墳時代の集落跡としては、夫敷遺跡²³が知られている。夫敷遺跡からは朝鮮系の土器が出土しており、渡来人との関係も指摘されている。

2. 律令期の遺跡

律令期の遺跡は、大きく官衙、寺院、窯跡、居館、集落、墳墓、古道に分けられる。以下、遺跡の種類ごとに記述していく。古代の官衙関連の遺跡としては、多量の炭化米と整然と配置された総柱建物群を検出した山代郷正倉跡²⁴が著名である。また、隣接する下黒田遺跡²⁵・黒田館跡²⁶では大溝と大型の掘立柱建物跡が検出されていて、山代郷正倉跡を構成する遺構の一部と推定されている。寺院としては、日置臣目烈が建立したとされる山代郷北新造院跡（来美庵寺）²⁷と出雲臣弟山建立の山代郷南新造院（四王寺跡）²⁸、出雲国分寺跡²⁹、出雲国分尼寺跡³⁰が調査されている。付近には、これららの寺院に瓦を供給した窯跡も見つかっており、山代郷南新造院の瓦を作製した小無田Ⅱ遺跡³¹では瓦窯3基、出雲国分寺の瓦生産を行なった出雲国分寺瓦窯跡³²で2基、中竹矢遺跡³³で平窯1基が検出されている。居館に関する遺跡は、台地や微高地上に立地する中西遺跡³⁴が知られている。中西遺跡では、2間×2間の総柱建物跡の他に、1辺1mを超える大型方形の柱穴で構成された庇付建物跡が検出され、出雲国造家との関連が推定されている³⁵。これに対して一般的な集落遺跡は、平坦地ではなく丘陵裾に立地することが多い。才ノ峠遺跡³⁶、中竹矢遺跡³⁷、岸尾遺跡³⁸、島田池遺跡³⁹、渋山池遺跡⁴⁰、原ノ前遺跡⁴¹では、掘立柱建物跡や加工段が見つかっている。出雲国府跡周辺の墳墓関係の遺跡はあまり知られておらず、わずかに意宇平野周縁で、八稜鏡を収めた火葬骨壺が検出された社日古墳群⁴²が確認されているにすぎない。古代道路跡としては、出雲国府跡堂田地区で確認された平安時代の道路跡がある。現在の市道に平行して南北に走り、推定十字街から国府への進入路と想定されている⁴³。山陰道については、大坪遺跡⁴⁴の発掘調査で検出が期待されたものの、遺構の確認には至っておらず、木簡の出土による間接的な推測に留まっている。1989年の上ノ免・水垣地区及び石ヶ坪・横枕地区⁴⁵では時期不明の東西溝が検出されており、山陰道の可能性が想定されている。一方、意宇平野以外では、時期不明ながら松本古墳群⁴⁶などで道路遺構が確認され、古代山陰道を復元する重要な手掛かりとなっている。

3. 律令期以後の遺跡

律令期以後の遺跡は、意宇平野を横断する送電線鉄塔建設に伴う調査で多く発見されている。意宇平野対岸の天溝谷遺跡⁴⁷では、掘立柱建物跡と共に古代末から中世の土器や陶磁器が出土した。

中竹矢遺跡⁶でも白磁類を多く伴う集落の調査が行われている。黒田館跡¹⁰では掘立柱建物跡と井戸跡、溝跡等とともに、白磁、青磁、朝鮮半島の陶器である粉青沙器が出土している。

註

- 1 島根県教育委員会 1975 「八雲立つ風土記の丘周辺の文化財」島根県教育委員会
- 2 訳1に同じ
- 3 出雲考古学研究会 1987 「石棺式石室の研究」
- 4 訳1に同じ
- 5 国崎雄二郎 1979 「出雲国分寺瓦窯について」「八雲立つ風土記の丘 No.35」島根県八雲立つ風土記の丘
- 6 訳3に同じ
- 7 訳3に同じ
- 8 島根県教育委員会 2002 「風土記の丘内地道跡発掘調査報告書 13 来美庵寺「山代郷新造院」推定地発掘調査報告書」
島根県教育委員会 2007 「山代郷新造院跡」
- 9 島根県教育委員会 1985 「風土記の丘内地道跡発掘調査報告書IV」島根県松江市山代町所在・四王寺跡一
- 10 島根県教育委員会 1988 「風土記の丘内地道跡発掘調査報告書V」島根県松江市山代町所在・四王寺跡一
島根県教育委員会 1994 「風土記の丘内地道跡発掘調査報告書VI」山代郷新造院跡
- 11 島根県教育委員会 1989 「風土記の丘内地道跡発掘調査報告書VI」
- 12 島根県教育委員会 2004 「史跡出雲国府跡2」
- 13 島根県教育委員会 1968 「島根県文化財調査報告書第 5 集」
- 14 島根県教育委員会 1987 「北松江幹線新設工事松江港絡新設工事予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書」
- 15 島根県教育委員会 1989 「国道 9 号線松江道路建設予定地内道跡埋蔵文化財発掘調査報告書VI (大敷道跡)」
- 16 訳1に同じ
- 17 訳3に同じ
- 18 訳1に同じ
- 19 訳12に同じ
- 20 訳3に同じ
- 21 島根県教育委員会 1993 「風土記の丘内地道跡発掘調査報告XI」
- 22 訳3に同じ
- 23 訳15に同じ
- 24 島根県教育委員会 1981 「史跡出雲国山代郷貯金跡」
- 25 松江市教育委員会 1988 「下原田道跡発掘調査報告書」
- 26 松江市教育委員会 1988 「黒田館跡」
- 27 訳8に同じ
- 28 訳9に同じ
- 29 訳1に同じ
- 30 島根県教育委員会 1976 「出雲国分寺第 3 次発掘調査概報」
- 31 松江市教育委員会 1997 「小無田Ⅱ道跡発掘調査報告書」
- 32 訳1に同じ
- 33 島根県教育委員会 1992 「一般国道 9 号松江道路建設予定地内道跡埋蔵文化財発掘調査報告書X (中竹矢道跡)」
- 34 島根県古代文化センター 2009 「出雲國府周辺の復元研究—古代八雲立つ風土記の丘復元の記録—」
- 35 訳34に同じ
- 36 島根県教育委員会 1993 「一般国道 9 号松江道路建設予定地内道跡埋蔵文化財発掘調査報告書XI (才ノ崎道跡)」
- 37 訳33に同じ
- 38 島根県教育委員会 1997 「岸尾道跡・島田道跡」
- 39 島根県教育委員会 1997 「島田池道跡・鶴貫道跡」
- 40 島根県教育委員会 1997 「池山池道跡・原ノ前道跡」
- 41 訳40に同じ
- 42 島根県教育委員会 1998 「社日古墳」
- 43 島根県教育委員会 2009 「史跡出雲国府跡-6」
- 44 松江市教育委員会 2002 「市道真名井神社線整備事業に伴う大坪道跡発掘調査報告書」
- 45 訳43に同じ
- 46 島根県教育委員会 1997 「松本古墳群・大角山道跡・すべりざこ古墳群」
- 47 訳14に同じ
- 48 訳33に同じ
- 49 訳26に同じ

第2章 発掘調査に至る経緯と調査の経過

第1節 調査に至る経緯

出雲国府跡の正確な所在地については長らく不明とされており、江戸時代より論争が繰り広げられてきた。これまでに東出雲町夫敷説、竹矢町三軒家説、大草町説など様々な推定地が提唱されたが、いずれも所在地を確定するには至らなかった。しかし、恩田清によって『大草村検地帳』に「こくてう」の字名が発見されると大草町説の蓋然性が高まり、昭和43（1968）年から昭和45（1970）年にかけて松江市教育委員会による発掘調査（以下、昭和の調査と呼称）が開始されることになった。この調査では、曹司と推測される整然と建ち並ぶ大型建物群に加え、政厅後殿に比定される四面庇付の掘立柱建物が検出され、出雲国府跡の位置が明らかとなった。この成果を受け、昭和46（1971）年12月13日には史跡出雲国府跡として約420,000m²が国指定史跡となり、島根県教育委員会によって中心区域である六所脇・宮の後地区が史跡公園として整備された。その後、平成3（1991）年には「八雲立つ風土記の丘構想」、平成9（1997）年には「古代文化の郷“出雲”整備構想」が策定された。いずれも島根県立八雲立つ風土記の丘を中心とした遺跡整備の必要性が唱えられ、これに基づいて史跡の公有地化や準備が進められてきた。

こうした状況を受け、島根県教育委員会では、昭和45（1970）年度以来本格的な調査が中断されていた史跡出雲国府跡を継続的に発掘調査することとし、平成11（1999）年度より風土記の丘地区内遺跡の一環として調査を開始した。調査は、昭和の調査では明らかになっていたい政厅や後方官衙周辺の諸施設の確認と、景観復元を目的として行なわれた。この結果、大倉原地区で多数の建物跡や溝跡などが検出され、建物配置や出土遺物の検討から国司館に関する諸施設と推定された。平成15（2002）年度からは、国司館の周辺状況を確認するため、大倉原地区、一貫尻地区、日岸田地区、堂田地区などの調査を行なった。これらの地区では、石敷造構や工房域、道路状造構といった多様な遺構・遺物が検出され、国司館周辺の実態が徐々に明らかになってきた。平成19（2007）年度以降は、国司館南側の遺構の広がりを確認することなどを目的として、未調査であった史跡公園内の宮の後地区的調査を開始した。その結果、礎石建物や国司館を区画する新たな溝が検出され、国司館の変遷を考える上で大きな成果が得られた。また死亡人帳と推定される漆紙文書が発見されるなど、文字資料においても重要な知見を得ることができた。加えて、昭和の調査時の遺構の正確な位置を確認するため、再発掘調査も行なっている。今回の報告は、平成22（2010）年度と平成23（2011）年度に行なわれた調査で、史跡公園内の宮の後地区北側を対象としている。

第2節 調査の経過

1 平成22（2010）年度

平成22（2010）年度は、国司館周辺の施設配置を確認することを目的として、史跡公園内の前年度調査区北側で本調査を実施した（以下、本調査区と呼称）。また、平成21（2009）年度に調査が未完であった箇所についても、併せて調査を行なった（以下、再調査区と呼称）。

調査は、6月1日から10月5日にかけて、本調査区から開始した。表土である公園整地土や真砂土を取り除くと、近世の水田層（2層）が堆積していた。この水田層の上面には、水田に伴うと思われる畑を3条検出している。水田層を除去すると、中世に堆積した疊層（3層）が調査区全面



第2図 史跡出雲国府跡調査区位置図 (S = 1:1,500)

を覆っていた。礫層上面には、水田層より掘り込まれた近世水田の溝と祭祀用と思われる土坑が掘られていた。礫層の下面には、黄灰色粘質土と浅黄色粘質土の二種類の層が地点を違えて分布していた。サブトレンドで確認した結果、両者は上下の関係にあることが判明したため、前者を4層、後者を5層と呼ぶことにした。4層は調査区西側と東側の一部にしか残っておらず、上面に47号・48号土坑や黒色土を埋土に持つピットが検出されている。調査区中央から東側は、4層が削平されており下層の5層が現れていた。5層上面には70号溝、井桁状遺構、57号・58号土坑など、多くの遺構を検出した。6月25日に、調査の前任者から4層が平成19（2007）年度調査区の「整地土」に対応するとの指摘を受けた。再調査区の調査は7月1日より行なった。埋戻し土を除去すると、本調査区と同様に複数の層位が同じ面に表されていた。再調査区の西側には4層、中央には5層、東側の48号土坑付近にはさらに下層の6層が広がっていた。7月29日に大橋泰夫委員に各遺構の調査方法について指導を受けた。9月13日には第18回史跡出雲国府跡発掘調査指導委員会を開催し、遺構の性格や今後の調査計画について指導を受けたほか、9月14日には佐藤信委員、16日には清水重敦委員に個別の指導を受けている。9月23日には現地説明会を開催し、約60名の参加があった。

2 平成23（2011）年度

平成23（2011）年度の本調査は、史跡公園内の西側と東側の二カ所に調査区を設定した。西側の調査区（調査時は西調査区と呼称）は、平成19（2007）年度に確認されている70号溝の続きを検出し、国司館の西端を確定させることを目的とする。東側の調査区（調査時は東調査区と呼称）は、国司館の東を南下するとされる国府進入路を検出することを目的として設定した。現地調査は、5月23日から10月20日までの期間で実施した。西側の調査区では表土直下の2層（近世水田層）上面に、近世水田の溝と畔を検出した。2層の下には3層（礫層）が調査区全面に堆積していたが、明確な遺構は確認できなかった。3層除去後、下面に古代の遺構面を確認した。当初、層位の堆積順序から昨年度の4層上面と考えていたが、レベルや土質の状況などから、昨年度の5層上面に対応すると判断した。5層上面では、74号・75号溝、14号井戸、土坑、ピットを検出した。このうち74号溝は南北方向に走り、南端が東へ屈折することから国司館の区画溝である可能性が生じた。東側の調査区では、2層上面に近世の道路状遺構を検出した。3層は西調査区と同様に調査区全面に広がっていたが、上面では遺構を確認できなかった。3層を掘り下げると、調査区の西側には4層が、東側には5層が堆積していた。4層上面では76号溝、49号土坑、SX05を検出した。一方で東側の5層上面では遺構は全く見つかなかった。4層は南側にトレンドを入れ、下層の状況を確認した。下層には5層が堆積しており、73号溝と77号溝を検出した。73号溝は、平成20・21（2008・2009）年度の調査でも検出されており、大倉原地区の4号溝と繋がる可能性が指摘されている。今回、73号溝が整地土の下層から検出されたことで、大倉原地区的変遷を考える上で大きな成果となった。

第19回史跡出雲国府跡発掘調査指導委員会は8月30日に開催され、9月2日は佐藤委員、12月9日には清水委員により指導を受けた。委員会では、溝や土坑、SX05の性格について指導を受けた。現地説明会は9月17日に行われ、約20名が参加した。

第1表 史跡出雲国府跡の発掘調査

年度	調査主体	調査原因	主な調査地点	報告
昭和 43（1968）年度	松江市教育委員会	学術調査	宮の後地区	
昭和 44（1969）年度	松江市教育委員会	学術調査	宮の後・一貫尻・水垣・種々口地区	島根県教育委員会 2008 年 島根県教育委員会 2009 年
昭和 45（1970）年度	松江市教育委員会	学術調査	宮の後・六所脇地区	
昭和 49（1974）年度	島根県教育委員会	史跡整備	宮の後地区	島根県教育委員会 1975 年 島根県教育委員会 2009 年
昭和 49（1974）年度	島根県文化財愛護協会	水道管理設	推定十字街ほか 第1～4地点	島根県教育委員会 2009 年
昭和 60（1985）年度	島根県教育委員会	土地改良総合整備事業		
昭和 61（1986）年度	島根県教育委員会	土地改良総合整備事業		島根県教育委員会 1988 年
昭和 62（1978）年度	島根県教育委員会	土地改良総合整備事業		
平成元（1989）年度	島根県教育委員会	道路舗装	A 地点：水垣地区 B 地点：横枕地区	島根県教育委員会 1991 年 島根県教育委員会 2009 年
平成 2（1990）年度	島根県教育委員会	道路舗装	松葉田ほか 1～11 区	島根県教育委員会 1988 年
平成 5（1993）年度	松江市教育委員会	道路拡幅	六所前	（財）松江市教育文化振興 事業団 1997 年
平成 8（1996）年度	松江市教育委員会	個人住宅改築	六所前	松江市教育委員会 1996 年
平成 8（1996）年度	松江市教育委員会	道路拡幅	前川原	松江市教育委員会 1996 年
平成 9（1997）年度	松江市教育委員会	個人住宅建設	前川原	松江市教育委員会 1997 年
平成 11（1999）年度	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	大倉原地区	
平成 12（2000）年度	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	大倉原地区	島根県教育委員会 2003 年
平成 13（2001）年度	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	大倉原地区	
平成 14（2002）年度	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	大倉原地区	島根県教育委員会 2004 年
平成 15（2003）年度	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	大倉原・一貫尻・ 日岸田地区	島根県教育委員会 2005 年
平成 16（2004）年度	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	日岸田・大倉原地区	
平成 17（2005）年度	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	日岸田地区	島根県教育委員会 2006 年
平成 17（2005）年度	島根県教育委員会	下水道工事	六所脇地区	
平成 18（2006）年度	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	堂田・宮の後・ 六所脇地区	島根県教育委員会 2008 年
平成 19（2007）年度	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	堂田・宮の後・六所脇 地区	島根県教育委員会 2009 年
平成 20（2008）年度	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	宮の後地区	島根県教育委員会 2010 年
平成 21（2009）年度	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	宮の後地区	
平成 21（2009）年度	松江市教育委員会	下水道工事	六所脇・六所下	松江市教育委員会 2009 年
平成 22（2010）年度	松江市教育委員会	個人住宅建設	六所脇	松江市教育委員会 2011 年
平成 22（2010）年度	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	宮の後地区	島根県教育委員会 2013 年
平成 23（2011）年度	島根県教育委員会	個人住宅建設	六所脇	
平成 23（2011）年度	松江市教育委員会	個人住宅建設	六所脇	松江市教育委員会 2011 年

第3章 平成22・23(2010・2011)年度の発掘調査

第1節 宮の後地区の調査

1. 宮の後地区の概要

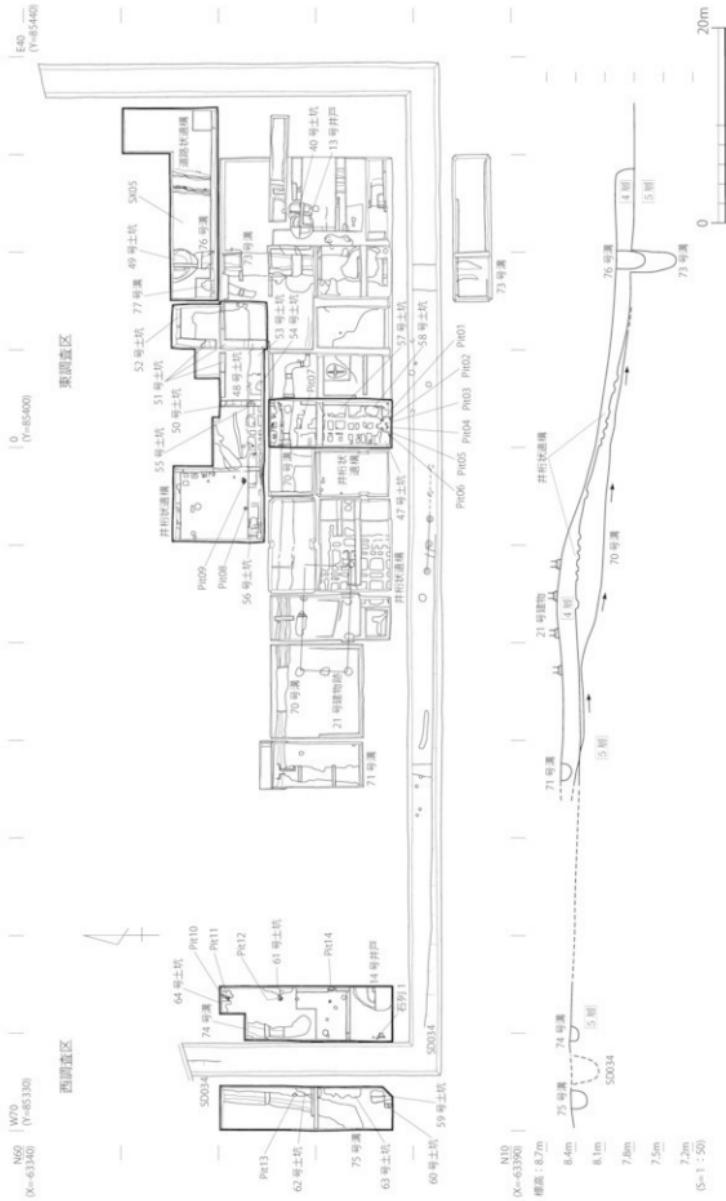
宮の後地区は、昭和の調査をもとに復元整備された史跡公園内に位置する。昭和の調査では、整然と立ち並ぶ建物群や大型の区画溝が検出され、また木簡や墨書き土器、硯、瓦といった多数の官衙的な遺物が出土していることから、曹司と想定されている。地区的南には、政庁域と推定される六所脇地区が、北には国司館に比定される大倉原地区が位置し、それぞれ素掘りの大溝で明瞭に区画されている。国司館の境界については北限は9号建物跡、東限は4号溝及び56号溝、南限はSD034と推定されている。国司館の主要建物は大倉原地区で検出されているものの、SD034との間には未調査の部分が多く残り、国司館の南側の様相が未解明のままであった。

平成における宮の後地区の調査は、平成16(2004)年度に調査された第38トレーニングに始まる。この時の調査目的は、国庁進入路の側溝の可能性がある56号溝の延長を確認することであった。56号溝は検出できなかったものの、近世の道路遺構が検出され、これが数次にわたって造りかえられていることから、古代からの地割を伝えている可能性が指摘された。平成18(2006)年度に設定された第46トレーニングでは、整地土上面より東西に走る70号溝が検出された。上記のように、これまで国司館の南を区画する溝はSD034とされていたが、その内側にも東西溝が検出されたため、国司館の南限についての見解が揺れ動くことになった。これを受け、国司館南側の施設配置を確認することを目的として、平成19(2007)年度より宮の後地区的本調査が開始された。この調査では、整地土を挟んで上下二面に遺構面があることが確認され、整地土上面では、21号建物跡と70号・71号溝、整地土下面では井桁状遺構が検出された。続く平成20・21(2008・2009)年度の調査では、70号溝の東の延長を検出するとともに、新たに南北に走る73号溝や13号井戸が検出された。また、特筆すべき成果として40号土坑より出土した漆紙文書があげられる。出雲国府跡としては2例目の出土で、平川南氏と武井紀子氏の検討によって延暦3(784)年の死亡人帳であることが判明している。

2. 調査区の設定

これまでの調査によって、国司館南側の様相がかなり明らかになってきた。その一方で、70号溝とSD034の関係、国司館の西限、国庁進入路の位置など課題も多く残った。そこで、平成22・23(2010・2011)年度は、①国司館の施設配置を明らかにすること、②70号溝の延長を確認し、国司館の西限を明らかにすること、③国司館の東側を南下するとされている国庁進入路を発見すること、を目的として調査区を設定した。調査区は、史跡公園内の西側と東側の二か所に設けた。以降、それぞれを西調査区(2011年度)と東調査区(2010・2011年度)と呼称することとする(第3図)。また、宮の後地区は昭和にも調査が行なわれており、こちらは曹司と推定されている。同じ地区名で調査年度と性格が異なるため、平成に調査された宮の後地区を「宮の後北区」、昭和に調査された宮の後地区を「宮の後南区」と呼ぶこととした。

調査区内は国土地理院第III座標系(日本測地系)の南北軸座標X=-63400mと、東西軸座標Y=85400mの交点を原点とする区割りに準拠している。原点から西にW、東にE、北にN、南にSをふり、北西交点をグリッド名とし、N○E○と呼称する。



第3図 宮の後地区的遺構と層位の対応模式図 ($S = 1:200$)

3. 調査区の層序

本年度の層序は、宮の後北区におけるこれまでの調査とおおむね対応する（第3図土層模式図）。以下、本年度の層序について、過去の調査の層序との対応関係も含めて記載する（第4図・第5図）。

0層：平成19（2007）年度調査時の埋戻し土である。黄色砂質土層で、西調査区の南側に堆積する。1c層と同じ土質である。

1層：表土で、1a層：黄褐色土（公園表土）、1b層：バラス土（公園整地土）、1c層：黄橙色砂質土（公園真砂土）に分層される。出土遺物は古墳時代から現代の遺物が出土する。

2層：近世以降の水田層である。土色より2a層：褐色灰粘質土～灰色粘質土、2b層：にぶい褐色土～明褐色土に分層できる。2a層はシルト質で粘性が高いのに対し、2b層はやや砂質である。東西調査区全面に堆積している。遺物は古墳時代から近世の遺物が混在する。

3層：水成層で、河川由来の礫や砂利が薄く堆積している。礫は人頭大から拳大、小石まで様々な大きさが見られる。礫の間から、古代の瓦を中心に多量の遺物が出土した。東西調査区全面に堆積しており、過去の調査でも大倉原地区、一貫尻地区、堂田地区で確認されている。礫層のレベルは西から東へ向けて下がっている。位置関係から国府南岸を東流する意宇川の氾濫による洪水層と判断される。堆積の時期は、過去の調査で龍泉窯系青磁IIb類や白磁皿IX類、備前焼II期が最新の遺物として確認されるため13世紀ごろと推測される。遺物は古墳時代から中世の遺物が出土し、特に瓦が多量に出土している。

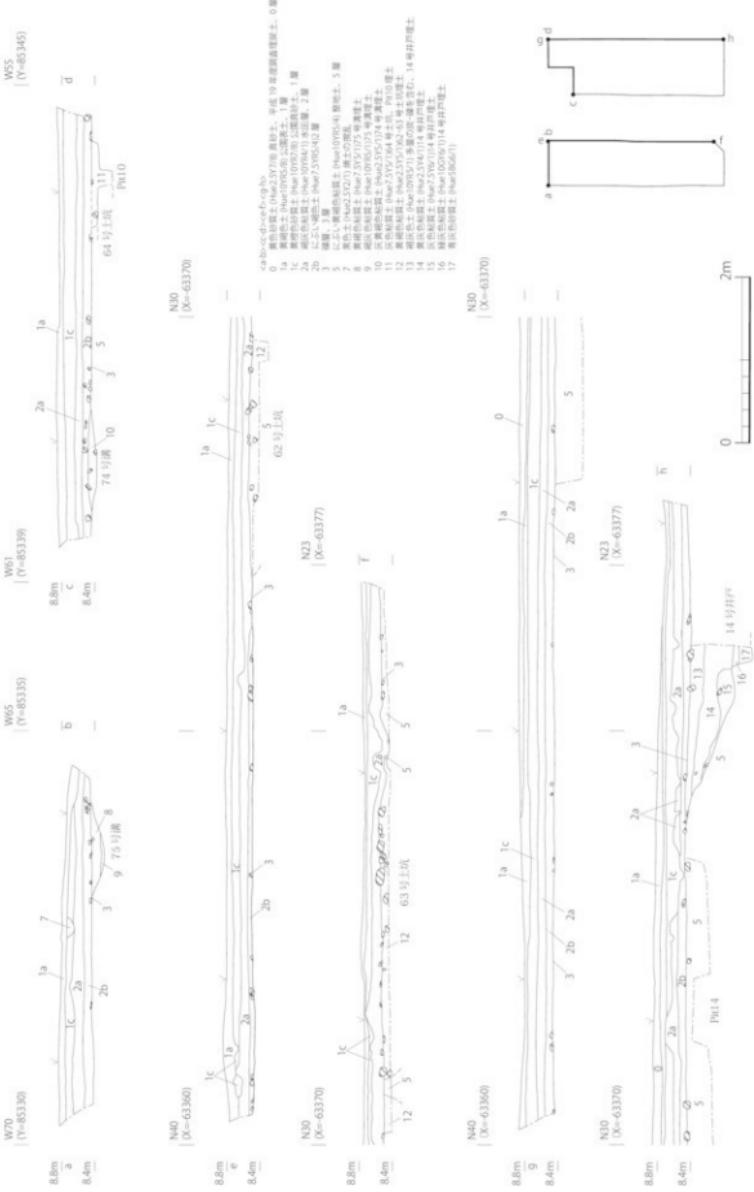
4層：古代に形成された整地土である。一部で4a層と4b層に分層できるが、平面的に分けることは困難であった。4a層：褐色土～黄灰色粘質土、4b層：褐色粘質土～灰色粘質土である。平成19（2007）年度調査区で「整地土」、平成20・21（2008・2009）年度調査で「灰色粘質土」とされた層位に対応する。西調査区では堆積しておらず、東調査区の一部に分布している。整地土の形成時期は、出土遺物より8世紀末から9世紀前葉と思われる。また出土した炭化物をAMS年代測定にかけた結果、4層が8世紀後葉から10世紀中葉、4b層が7世紀後葉から8世紀後葉の年代が得られた。遺物は古墳時代から古代の遺物が出土する。

5層：古代の整地土と思われる。にぶい黄褐色～浅黄色の粘質土で、透水性が低く粘性がとても高い。調査区のほぼ全面に堆積している。今回の調査では、西調査区の75号溝トレーニングと東壁トレーニング、東調査区の南壁トレーニングで一部を調査したのみで、面的な掘削は行なっていない。5層の形成された時期は、出遺物より8世紀前葉と判断される。

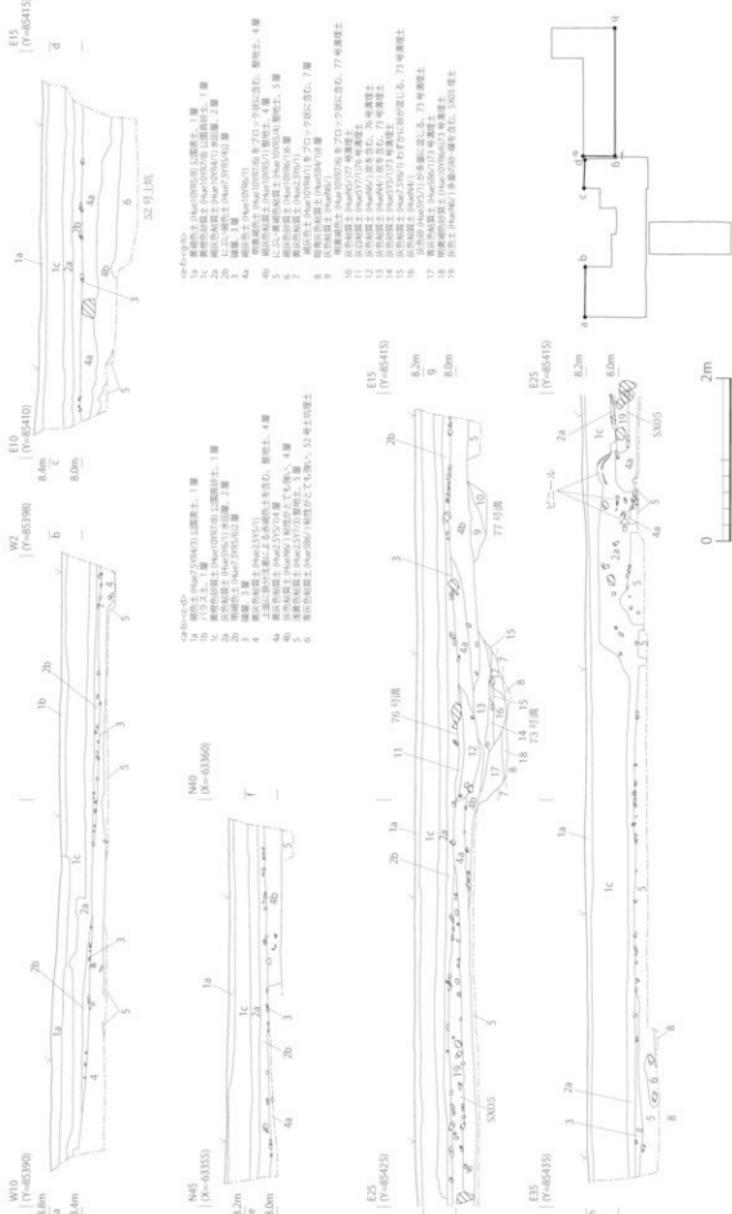
6層：褐灰色～浅黄色を呈する水成堆積の砂質土である。地元では「えごん砂」と呼ばれる意宇川起源の砂によく似ているが、正確な由来は不明である。西調査区75号溝サブトレーニング、東調査区N40E10グリッドなど一部でしか検出されていない。出土遺物は少なく、形成時期は不明である。

7層：黄灰色粘質土である。東調査区73号溝付近で検出した。掘削を行なっていないため詳細は不明である。

8層：暗青灰色粘質土である。東調査区南壁トレーニングで検出した。青灰色にグライ化していることから、水田耕作土の可能性がある。遺物は、古墳時代と思われる土師器がわずかに出土している。



第4図 宮の後地区西調査区土層断面図 ($S = 1:60$)



第5図 宮の後地区東調査区土層断面図 ($S = 1:60$)

4. 近世以降（1・2層下面）の調査

1層は表土、2層は水田耕作土である。両層の下面より、近世以降に作られた遺構を確認した。西調査区では水田溝1条と水田畔1条、東調査区では水田畔3条と水田溝2条、近世道路状遺構1基、土坑2基を検出した。水田層上面の畔や溝は、これまでの調査でも確認されていたが、近世以降の遺構である可能性が高かったため、報告されてこなかった。しかし、条里制遺構の重要性や出雲国府終焉の問題も鑑みて報告することとする。1層及び2層からは、古代から中世の土器とともに近世から現代にかけての陶磁器類が一定量出土している。近世陶磁器の時期は17世紀後半～19世紀の資料が多い。

1) 西調査区の遺構（第6図）

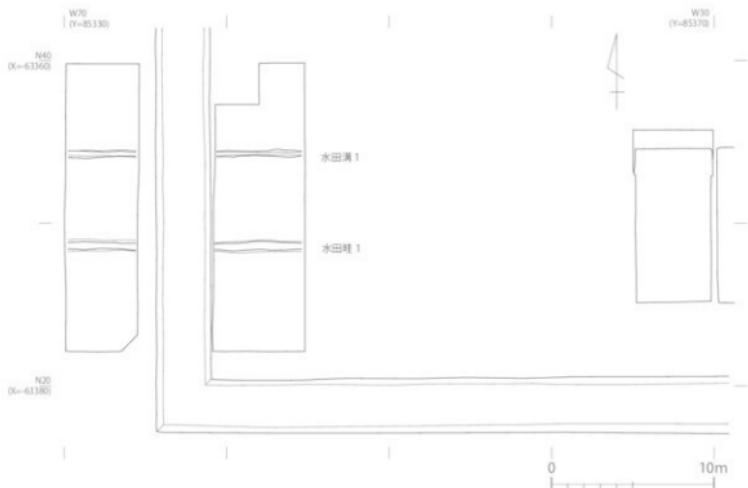
西調査区の1層下面では、水田畦と水田溝がそれぞれ1条ずつ約5mの間隔をあけて並行して検出された。両者とも東西方向に走り、正方位の軸を持つ。

水田畔1（第7図）

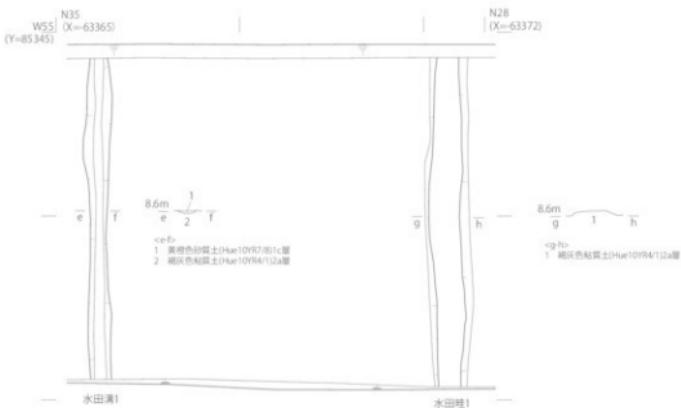
N30W70～N30W60グリッドの1層下面で検出された。検出された長さは14.3m、幅0.7mである。東西方向にまっすぐ走り、調査区外へと続く。水田耕作土を10cm程度盛り上げて台形状に成形している。

水田溝1（第7図）

N35W70～N35W60グリッドの1層下面で検出された。水田畔1と並行するように東西方向に構築されており、調査区外へと伸びる。検出された長さ14.3m、幅0.4～0.5m、深さは4cmである。埋土は、史跡公園整備時に用いられた真砂土であったため、史跡公園整備直前の水田溝と思われる。



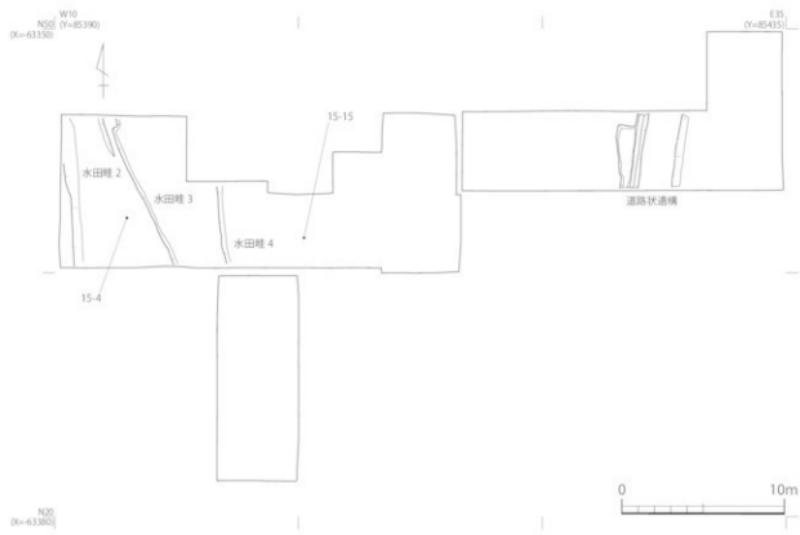
第6図 西調査区1層下面遺構配置図 (S = 1 : 300)



第7図 西調査区水田畦溝実測図 ($S = 1 : 80$)

2) 東調査区の遺構（第8・第10図）

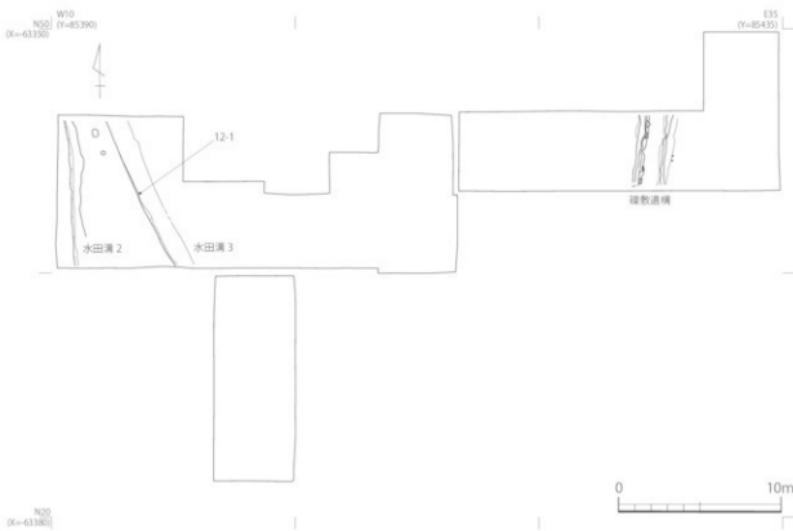
東調査区の1層下面では水田畦3条と道路状遺構1基が検出された(第8図)。水田畦はいずれも軸が西へ振っている。道路状遺構は調査区東側に位置し、軸はわずかに東へ傾いている。2層下面の遺構は水田溝2基と土坑2基、礫敷遺構が検出されている(第10図)。いずれも1層下面の遺構の直下に位置し、上層の遺構と関連を持つと思われる。



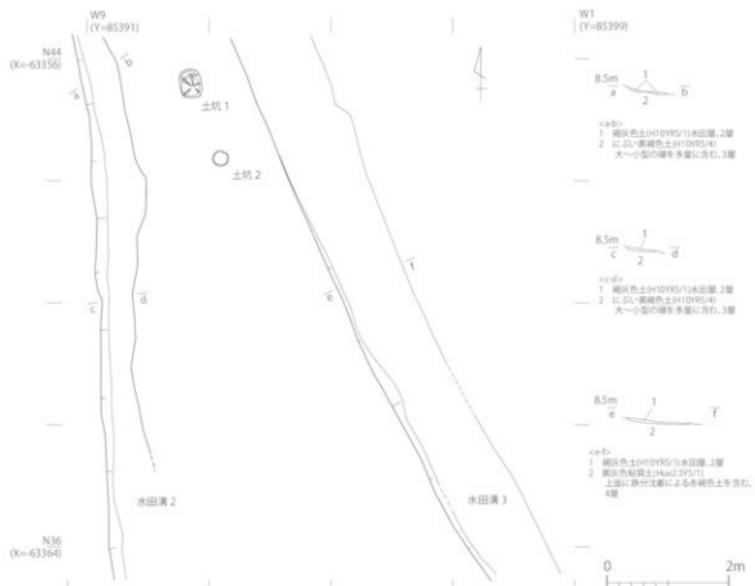
第8図 東調査区1層下面遺構配置図 ($S = 1 : 300$)



第9図 東調査区水田畦溝実測図 ($S = 1 : 80$)



第10図 東調査区2層下面遺構配置図 ($S = 1 : 300$)



第11図 東調査区水田溝実測図 ($S = 1 : 80$)

水田畔 2～4（第 9 図）



第 12 図 水田溝 3 出土遺物実測図 ($S = 1 : 3$)

N45W10～N40・0 グリッド 1 層下面で 3 条の水田畔を検出した。いずれも、軸をわずかに西に振りながら南北方向に走り、調査区外へと続く。加工段状に東側を一段下げており、東に行くほどレベルが下がる。水田畔 3 の北端は、幅約 0.8m 程の張り出しが作られているが、性格は不明である。検出された長さは、水田畔 2 が約 9m、水田畔 3 が約 10 m、水田畔 4 が 4.8m である。

水田溝 2・3（第 11 図・第 12 図）

N45W10～N40・0 グリッド 2 層下面で検出した。東のほうがやや浅く掘られており、溝というより加工段のように掘削されている。水田畔 2～4 の直下につくられていることから、1 層下面の水田造成時の遺構と思われる。検出長さは水田溝 2 が約 9m、水田溝 3 は 9.8m、深さは両者ともに 4cm 程度であった。

第 12 図 1 は水田溝 3 で出土した須恵器である。輪状つまみをもつ蓋で、天井部に回転ヘラケズリを施している。混入品と思われる。この他に、図化していないが 17 世紀末～18 世紀前葉の陶胎染付が出土している。

土坑 1（第 13 図）

N45W10 グリッド 2 層下面で検出した。長楕円形を呈し、長軸 0.47m、短軸 0.36m、深さ 19 cm を測る。埋土には 2 層が落ち込んでいた。内部には 5 本の栓状木製品が、放射状に並べられていた。いずれも先端を鋭利に尖らせており、中心部分へ向かって傾斜している。時期は不明である。

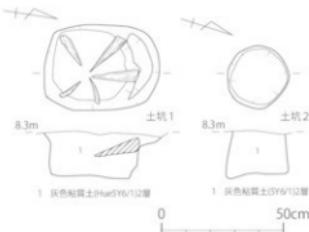
土坑 2（第 13 図）

土坑 1 に近接して構築されていた。円形で径 0.25m、深さ 0.19cm を測る。断面は袋状を呈し、埋土は 2 層の水田耕作土が堆積している。

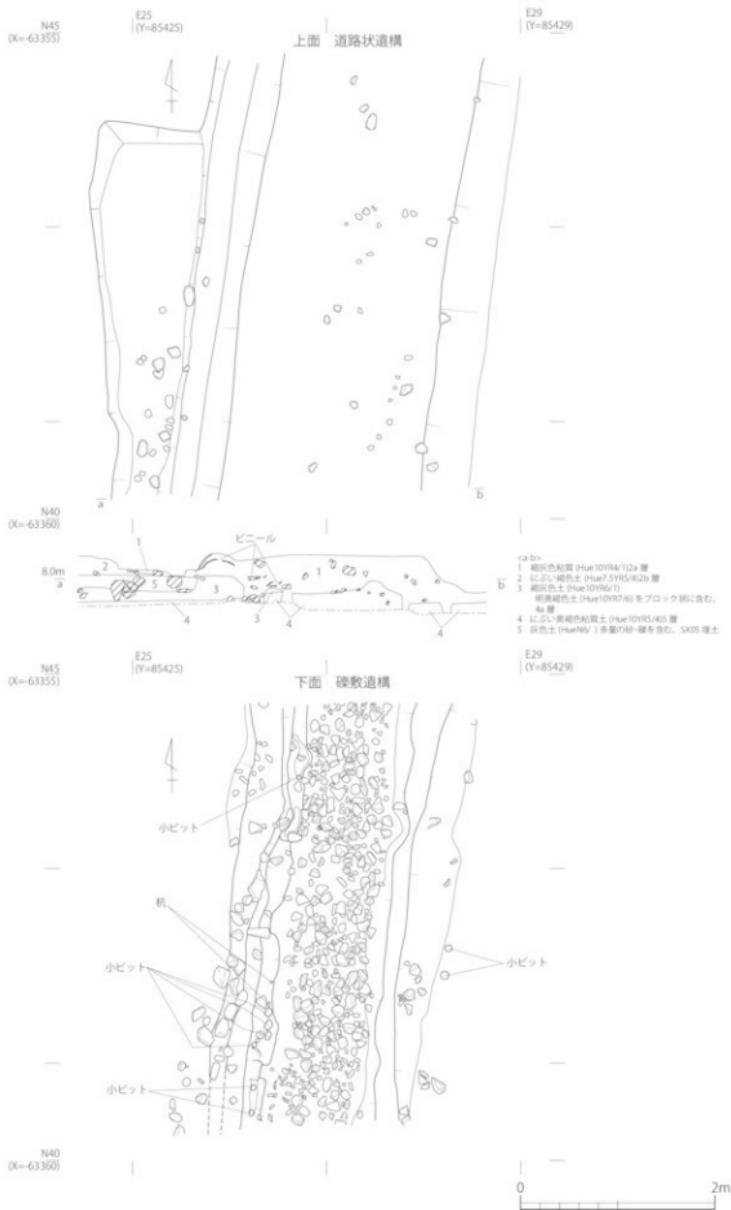
道路状遺構・礫敷遺構（第 14 図）

N45E25 グリッド 1 層下面で検出長 4.4m、路面幅約 2 m の道路状遺構を検出した。水田耕作土を 40cm 程度盛り土して路面を構築している。路面の西端は溝と畔で区画され、薄いビニールが敷かれていた。東端は地形が一段低くなっている。

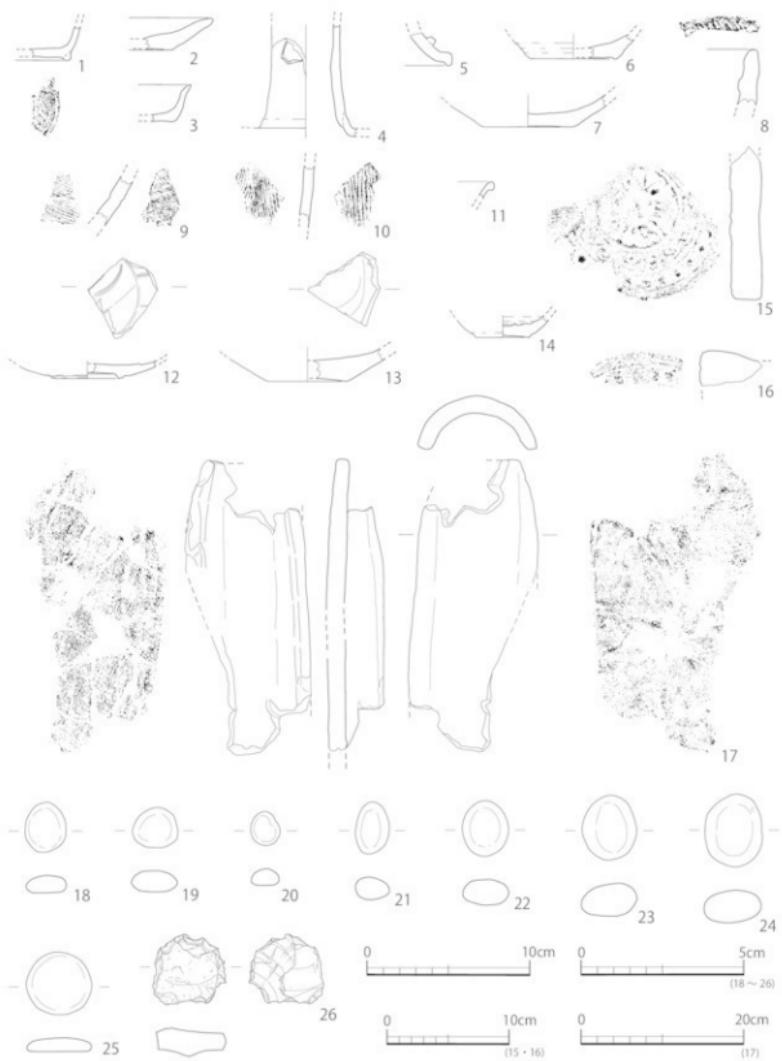
道路状遺構の西側には、張り出し状の浅い窪みが作られていたが、性格は不明である。路面の下部には、拳大の礫が多量に敷き詰められた礫敷遺構を検出した。特に、中央部に密集して敷かれており、礫敷の両脇には杭や小ピットが列状に配置されていた。出土遺物が無く時期決定が困難だが、2 層が礫の間にも落ち込んでいることや、道路状遺構の直下に位置することから、道路状遺構の基礎と認識している。



第 13 図 土坑実測図 ($S = 1 : 30$)



第14図 近世道路状遺構実測図 (S = 1 : 50)



第15図 1・2層出土遺物実測図 ($S = 1:3, 2:3, 1:4, 1:6$)

3) 1・2層出土遺物（第15図）

第15図は1層及び2層から出土した遺物である。1～3・5は須恵器である。1は高台付壺で底部外面に静止糸切り痕が残る。2は無高台の皿で全面にナデが施されている。3は灯明皿形土器である。口縁部がわずかに外反する。4は縁釉陶器の水注である。頸部外面は回転ナデ後に縱方向のミガキが丁寧に施される。焼きは灰白色の須恵質で、釉調は淡緑色である。把手の貼り付け痕が残る。東海産で年代は10世紀頃と推定される¹。5は圓足円面硯の脚部で、スカシの下部に一条の突帯が貼り付く。6・7は土師器壺である。どちらも底部外面に回転糸切り痕を残す。8は製塙土器で、胴部内外面に指頭圧痕が、口縁端部には刻みが施される。9・10は須恵器系中世陶器で東播系もしくは珠洲焼の鉢の可能性がある。9は外面にナデ、内面に筋目を持つ。10は外面に平行タタキ、内面に筋目が残る。11～14は陶磁器である。11は白磁碗で玉縁口縁を持つ。12は白磁皿⁷類である。胴部内面と見込に輪花が描かれ、底部には低いケズリ出し高台が付く。13は龍泉窯系の青磁皿である。見込に片彫花文を施す。14は白磁で小壺と思われる。15～17は瓦である。15・16は軒丸瓦で出雲国分寺2類に該当する。焼成は軟質で、接合部はいずれも印籠継ぎ技法が用いられている。17は無段式丸瓦で凹面に布目圧痕が残る。焼成は軟質である。18～24は平玉の成品で、18・22はカド石製、19～21・23・24がメノウ製、25は雑石製である。26は碧玉製の平玉未成品で、実測図左側中央には礫面が残る。小型剥片の側縁を背面側から垂直に剥離して成形している。この他に、図化はしていないが近世の陶磁器類が出土しており、17世紀後半～18世紀前半、19世紀前半の資料が多く見られる²。

4) 小結

1・2層下面の遺構では、水田関連の遺構と道路状遺構が検出された。水田関連の遺構には水田畔、溝、土坑がある。宮の後地区は、昭和47（1972）年に史跡公園として整備される以前は水田として利用されており、今回検出した畔や溝は近世以降の水田区画と思われる。軸方向は、正方向のものとやや西へ振っているものがある。昭和13（1957）年に撮影された航空写真を見ると、当地の水田区画は必ずしも正方向を向いている訳ではなく、地形や水利に合わせて臨機的に作られていたようだ。土坑1は、内部に5本の杭を放射状に並べるという特異なものであった。同様の遺構は、大倉原地区でも検出されており（国府2第16図P175）、先端の尖った3本の栓状木製品が放射状に並べられている³。何らかの祭祀的な遺構ではないかと思われる。

道路状遺構は台形状に盛り上げた水田耕作土を路面とし、路面の下部には礫と杭列を並べた礫敷遺構が構築されていた。礫敷遺構は、検出時には位置や構造から古代の道路遺構の可能性が指摘されたが、今回の調査では古代と断定する材料が見つからず、かつ2層（水田耕作土）が礫の間に落ち込んでいたことから、近世以降の所産と判断した。従って、道路状遺構が路面、礫敷遺構を路床とした一体の遺構と理解する。同様の遺構は、第38トレンチ⁴や平成20・21（2008・2009）年度本調査区⁵でも検出されている。第38トレンチの断面図や写真を見る限りでは、道路状遺構の下面に礫敷や杭列が認められ、本年度と同様の構造が確認できる。また、今回の調査では礫敷遺構の下面是調査していないが、第38トレンチでは杭列を伴う溝が検出されている。検出位置から見ても、本年度の道路状遺構や礫敷遺構と繋がることは明らかで、史跡公園整備前に使われていた南北道と判断される。

5. 古代から中世（3層下面）の調査

3層は多量の礫を含んだ洪水層で、東西調査区の全面に堆積している。3層の時期は出土遺物から13世紀頃と思われる。この層の下面には、9世紀から10世紀代の土坑や溝、中世のピット群を検出した。西調査区では5層上面で井戸1基、南北溝2条、土坑4基、ピット4基、石列1基が見つかり、東調査区では4層上面で東西溝1基、土坑3基、ピット9基、性格不明遺構1基を検出している。

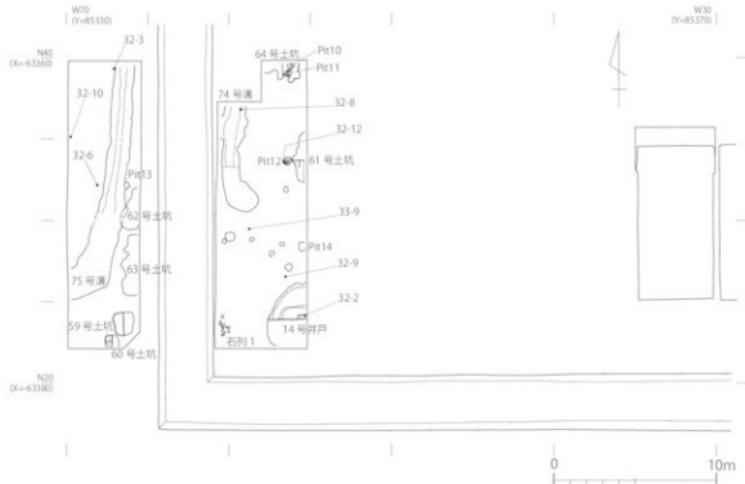
1) 西調査区の遺構（第16図）

西調査区では、3層直下に4層は検出されず、さらに下層の5層が全面に堆積していた。従つて、以下に記述する遺構は全て5層上面で検出された遺構である。遺構の検出レベルは、標高8.4～8.5m前後である。西調査区は史跡公園の復元溝（SD034）を挟んで西と東に分かれる。西側で75号溝が南北に走り、その周囲に59号～60号土坑が作られている。東側には調査区の壁際に74号溝、14号井戸、61号・64号土坑、Pit14が、N25～N30ラインにはピットが東西方向に並んで検出された。ピットの多くは埋土に炭を含み、中世の建物の柱穴の可能性がある。遺物の出土状況はまばらで、一ヵ所に集中して出土するようなことはなかった。

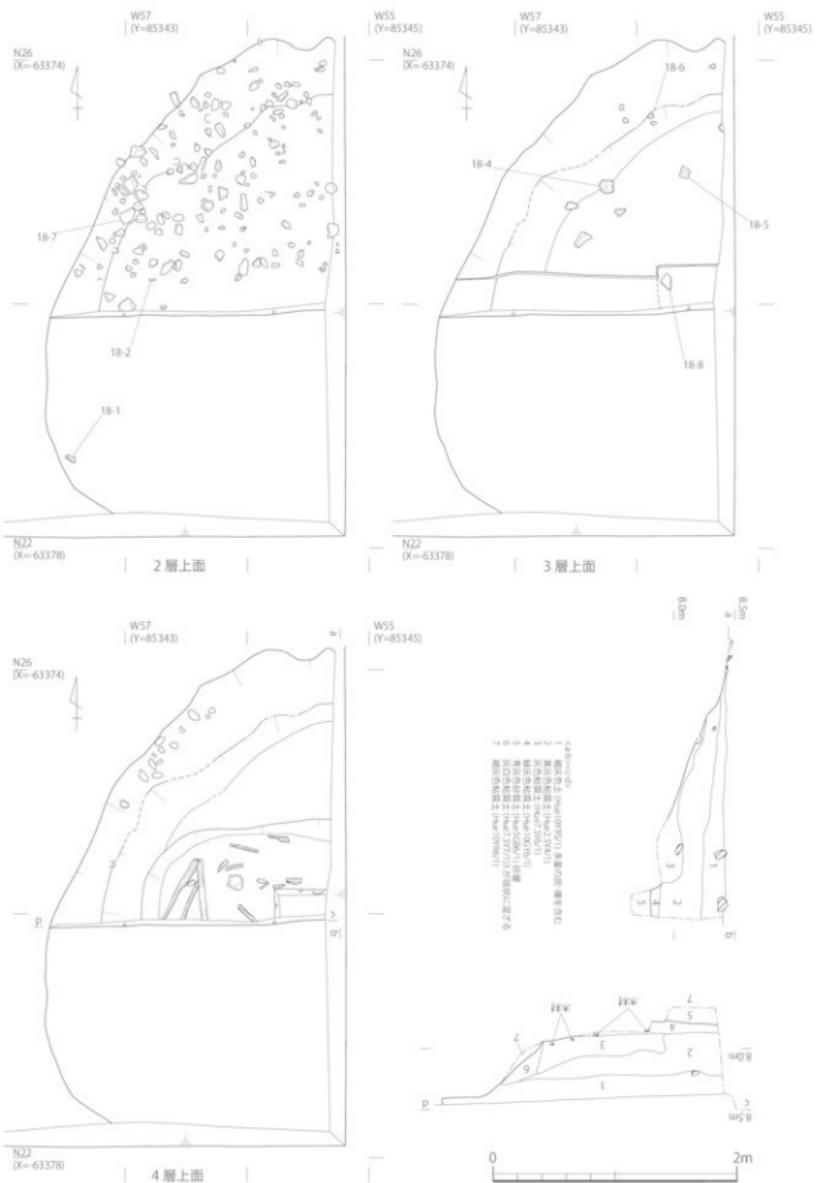
14号井戸（第17図・第18図）

調査区の南東隅N25W60グリッドで検出された。楕円形を呈し、検出された範囲で長軸3.87m、短軸2.35m、深さは58cmである。底面レベルは7.82mである。湧水が著しく、調査前から中央付近より水が染み出していた。

埋土はいくつかの面に分層できたため、層位ごとに掘り進めた。1層は井戸の埋め戻し土と思われる。褐色を呈し、埋土に炭や礫を含んでいる。1層には、拳大以上の礫が多量に落ち込んでお



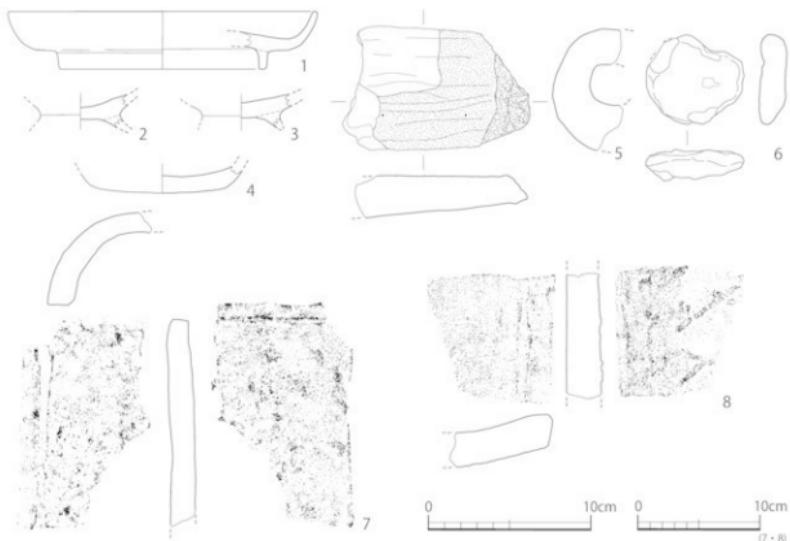
第16図 西調査区3層下面遺構配置図 (S = 1 : 300)



第17図 14号井戸実測図 ($S = 1 : 40$)

り、礫の間に遺物が点在していた。2層は黄灰色の粘質土である。遺物をわずかに含み、粘性がとても高い。2層の中央付近には方形の落ち込みが確認された。落ち込みは35cmと浅く、下に向かつてほぼ垂直に掘られていることから、井戸の掘方の可能性がある。3層は灰色粘質土で、落ち込みを井戸枠とすると掘方埋土の可能性がある。3層を除去すると緑灰色粘質土である4層が現れる。4層の上面と内部には炭化した板状の木片が散在していた。木片は一部しか取り上げていないため性格は不明だが、井戸枠や蓋の可能性がある。4層は木片を検出するために一部を掘削しているのみで、掘りきってはいない。中央のサブトレーナでは、4層の18cm下に5層が確認された。5層は青灰色の砂層であることから遺構外と判断され、色調や土質から基準土層の6層の可能性がある。埋土は、層位ごとに水洗選別を行なった。須恵器や土師器の小片、水晶や瑪瑙の微細剥片、炭化物等が見つかった(第16・18~20表)。

14号井戸からは、層位ごとに遺物が出土した。第18図1・2・7は1層出土遺物である。1は須恵器高台付皿で、全体が風化している。2は土師器の足高高台付环である。7は無段式丸瓦の狭端部で、凸面に布目压痕が残る。焼成は甘い。3~8は2層より出土した。3は足高高台付环で、全面をナデで調整している。4は須恵器环である。丸みを持った底部外面に回転糸切り痕が認められる。5は羽口である。先端は黒色ガラス質に溶融しており、外面に簀巻き状の整形痕が残る。6は不正楕円形の楕形鍛治津である。上面は平坦なのに対し、下面是緩やかな楕形を呈する。8は焼成軟質の平瓦である。凸面に格子タタキ12と離れ砂が認められ、凹面には布目压痕が残る。

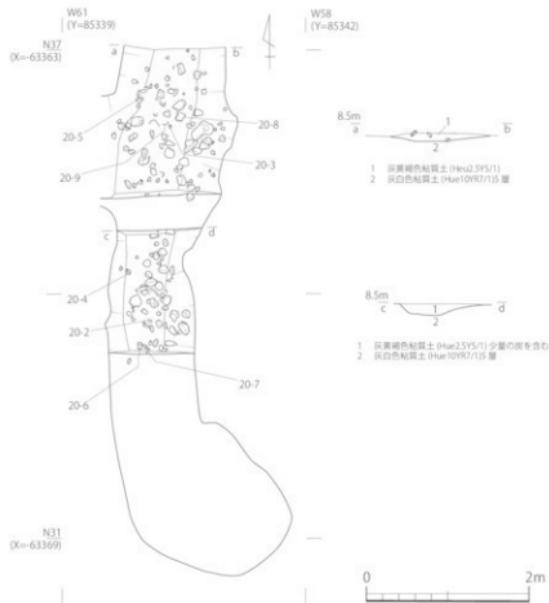


第18図 14号井戸出土遺物実測図 (S = 1 : 3、1 : 4)

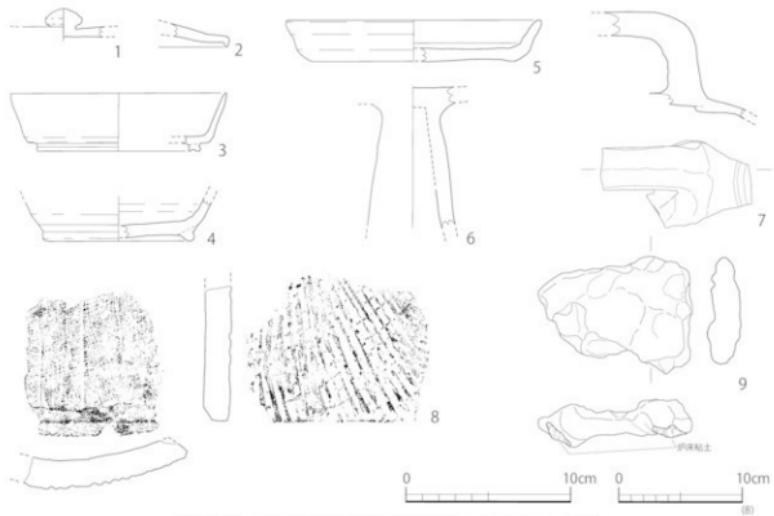
74号溝（第19図・第20図）

N35W60～N40W60 グリットで検出された。南北方向に走る素掘りの溝で、長さ約6.4m、幅1.05～1.4m、深さ14cmを測る。底面レベルは8.35～8.38mである。北端は調査区外へ伸び、南端はわずかに東へ屈折しながら収束する。軸はN-1°-Eで、埋土は1層である。溝の内部には拳大の礫が多量に落ち込んでいた。礫の由来は不明だが、近くの70号溝と同様に溝の両肩に並べられていたのかもしれない。時期は、須恵器から国庁第5形式頃と思われる。

第20図1～7は須恵器である。1・2は蓋で、1は天井部に扁平な宝珠つまみが付く。2は口縁端部を弱く屈曲させており、焼成は甘い。3は体部を直線的に外傾させる高台付環である。高台は低く、体部より若干内側に取り付く。4は高台付环もしくは壺と思われる。底部外縁に、外傾する高台が付く。5は皿で、底部外面に回転糸切りが残る。6は高台脚部である。脚部内面に縱方向のナデが認められる。7は平瓶の把手部でヘラケズリによって丁寧に整形されている。把手は胴部に開いた円形の穴を把手で塞いで接合している。8は硬質の平瓦広端部で、凸面に格子タタキ11、凹面に布目圧痕と板目状の圧痕が残っている。9は不整台形状の椀形鍛治溝で、下面は緩やかな皿状を呈する。部分的に炉床土が付着し、全体的に木炭痕が認められる。



第19図 74号溝実測図 (S = 1 : 60)



第20図 74号溝出土遺物実測図 (S = 1 : 3, 1 : 4)

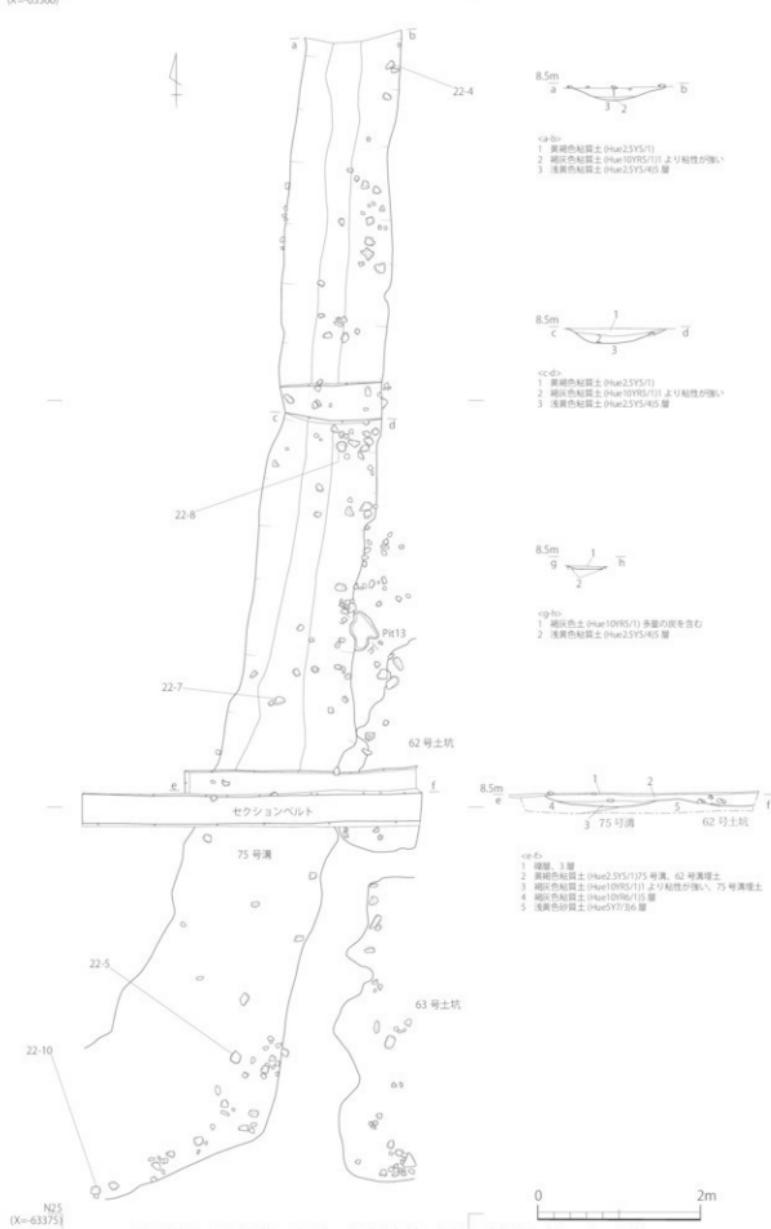
75号溝（第21図・第22図）

75号溝は74号溝の西側、N25W70～N40W70グリッドに作られた素掘りの南北溝である。北端は一貫尻地区へ、南端は西に屈折して調査区外へと続いている。検出した長さは南北方向に約13.6m、幅1.2～1.7m、深さは約20cmであった。底面レベルは8.28～8.34mで、北へ向かって緩やかに傾斜しているようだ。軸はN3°-Eで東へやや振っている。埋土は2層で、上層に比べ下層は粘性が高い。溝の内部には礫が落ち込んでおり、特に東側の溝縁辺に集中する傾向がある。N30ラインで62号土坑と重複するが、埋土が同じで切り合い関係は不明であった。またPit13とも重複しており、こちらは75号溝がPit13に切られている。時期は出土遺物より国府第5形式頃と思われる。

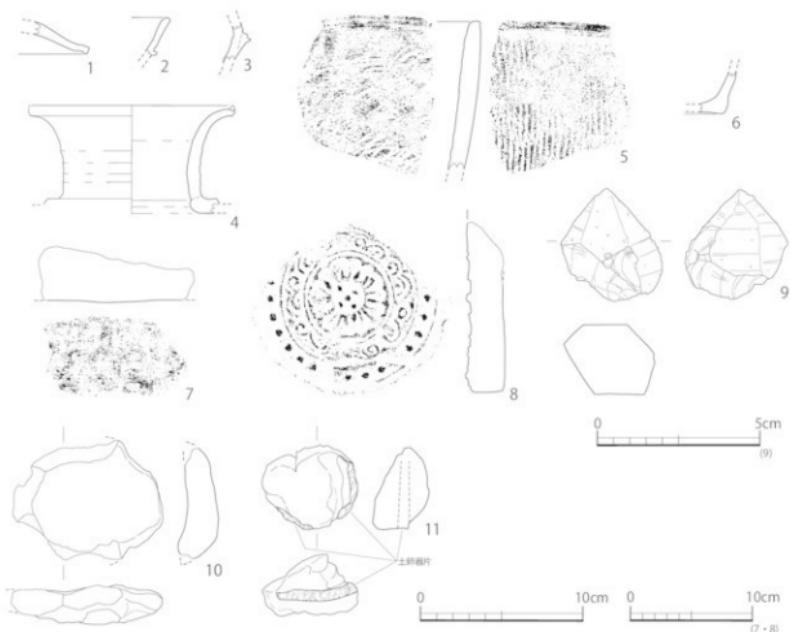
第22図は75号溝出土遺物である。1～5は須恵器である。1は蓋で口縁端部外面を面取りし、内面をわずかに窪ませている。2は環の体部で、細い突帯が貼り付く。3は平瓶の胴部と思われ、胴部の屈曲部に一条の突帯が付く。焼成は甘い。4は頸部と胴部の境に突帯を有する平瓶である。口縁部が大きく外反し、全体を回転ナデで調整している。5は外面にタタキ、内面に同心円状の当て具痕を残す鉢である。口縁部は丁寧な回転ナデで調整され、端部は面取りされている。6は土師器の壺である。全面が風化しているため調整は不明である。7・8は瓦である。7は焼成が軟質の平瓦である。凹面は欠損しているが、厚さが4.6cmと分厚いことから、軒平瓦の瓦当面の可能性がある。凸面に離れ砂が確認される。8は出雲国分寺2類の軒丸瓦である。内区に1+4の連子、その周間に5葉の複弁と唐草文が配される。外区には珠文帯が巡る。9は水晶製の玉未成品である。荒削段階の資料で、六角柱状の原石を側縁より加擊して分断している。10は楕形鍛治滓である。平面は橢円形を呈する。滓質は密でやや流動的な質感がある。11は平面が卵形を呈する楕形鍛治滓で、間に土器片を挟み込んでいる珍しい事例である。

W70
N40 | (Y=85330)
(X=63360)

W65
| (Y=85335)



第21図 75号溝、62号・63号土坑、Pit13 実測図 (S = 1 : 60)



第22図 75号溝出土遺物実測図 (5 = 1 : 3, 2 : 3, 1 : 4)

62号・63号土坑（第21図）

62号土坑と63号土坑は、N35W70～N30W70グリッドで南北に並んで検出された。検出当初は、両土坑は繋がった状態であったが、その後の精査で二つに分かれることが分かったため2基の土坑として報告する。検出した長さは、62号土坑が2.57m、63号土坑が3.72mで、幅は両者とも約0.95mであった。62号土坑は不整楕円形を呈し、一部で75号溝と接していた。平面プランでは両者の切り合い関係を確認できなかったため、トレーンチ調査を行なった。しかし、75号溝と62号土坑は埋土の区別がつかず、断面でも切り合い関係を確認することはできなかった。62号溝の深さは15cm程度で底面レベルは8.36mであった。埋土は単層で、黄褐色粘質土が堆積していた。63号溝も不整形な楕円形を呈する。内部調査は行なっていないが、埋土の色調は62号土坑や75号溝とほぼ同じである。62号・63号土坑は、埋土や規模が類似しているため、本来は一連の遺構であったと思われる。その場合、南北方向に走る溝と想定され、位置関係からSD034と繋がる可能性がある。

Pit13（第21図）

N35W70グリッドで75号溝と重複して検出された。Pit13が75号溝を切っている。平面プランは不整形で、直径約28cm、深さ4cmを測る。埋土は、褐灰色土で多量の炭が混じっていた。Pitの周辺には中世と思われる多量の土師器が散在していたが、いずれも小片であったため、図示はしていない。時期は周囲の土師器から中世ごろと思われる。

59号土坑（第23図・第24図）

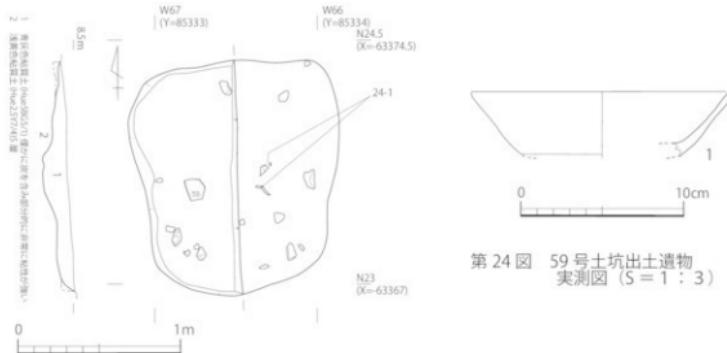
59号土坑は、西調査区の南端付近N25W70グリッドで検出された。隅丸方形を呈し、長さ1.44m、幅1.3m、深さ15cmを測る。埋土は、非常に粘性の強い青灰色粘質土が堆積していた。土坑の底面は、中央部がやや窪んでいる。第24図1は上師器の壺で体部が直線的に開く。

60号土坑（第25図・第26図）

調査区南の壁面付近のN25W70グリッドで検出した。隅丸方形の土坑で、検出した長さ0.74m、幅0.84m、深さ13cmである。埋土は60号土坑と同じ粘性の強い青灰色粘質土が堆積していた。内部には拳大から人頭大の蝶が入り込んでおり、疊に囲まれて柱穴状の落ち込みが認められた。第26図1は須恵器蓋である。つまみは欠損しているが、欠損部の径から宝珠つまみがつくと思われる。天井部にヘラケズギが施され、内面には墨痕が付着している。

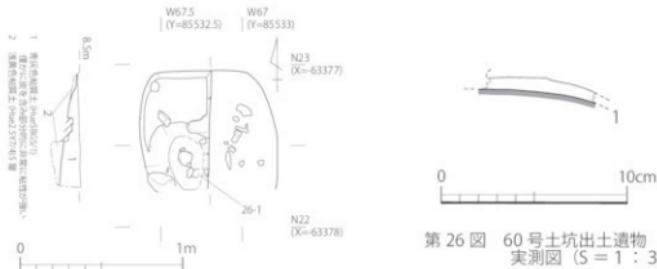
61号土坑（第27図・第28図1～4）

N30W60～N35E60グリッドで検出した不整形の土坑である。検出した長さ3.05m、幅0.5m、深さ6cmである。埋土は1層で少量の炭を含んでいる。第28図1～3は須恵器である。1は小型の蓋で焼成は甘い。2は高台付壺、3は皿の底部と思われる。4は上師器の甕で、内面にヘラケズギが施されている。



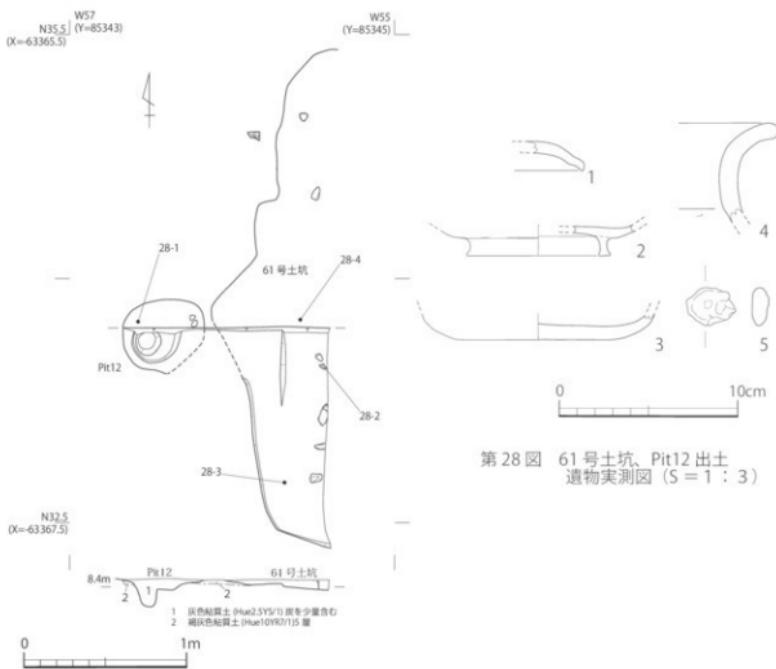
第23図 59号土坑実測図 ($S = 1 : 30$)

第24図 59号土坑出土遺物
実測図 ($S = 1 : 3$)

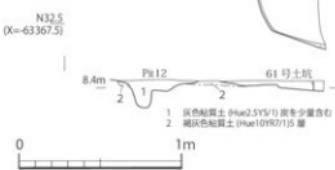


第25図 60号土坑実測図 ($S = 1 : 60$)

第26図 60号土坑出土遺物
実測図 ($S = 1 : 3$)



第28図 61号土坑、Pit12出土
遺物実測図 (S = 1 : 3)



第27図 61号土坑、Pit12 実測図 (S = 1 : 30)

Pit12 (第27図・第28図)

61号土坑に近接して検出された。直径約50cm、深さ17cmの小型ピットである。埋土は61号土坑と同じで、少量の炭を含んでいる。第28図5は銅滴で、平面は梢円形を呈する。4mm以下の気孔が多く見られる。

64号土坑、Pit10・11 (第29図)

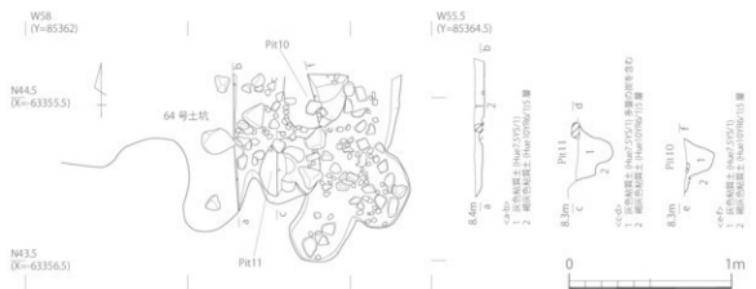
64号土坑は調査区北端のN45W60グリッドで検出した。平面不整形の土坑で、北側は調査区外へと続く。検出長2.1m、幅1.15m、深さ5cmである。埋土は灰色粘質土が浅く堆積し、内部には小型の礫が敷き詰められていた。中央付近に灰色粘質土の落ち込みが二ヵ所あり、調査の結果、2基のピットに切られていることが分かった。Pit10は直径約35cmで円形を呈し、調査区北端は壁面にかかっている。Pit11は直径38cmで埋土に大量の炭を含む。深さはPit10が17cm、Pit11が21cmであった。

Pit14 (第30図)

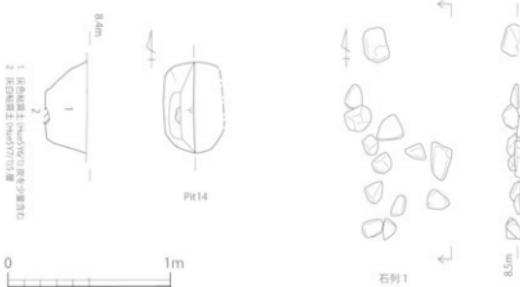
N30W60グリッドの東壁付近で検出した。梢円形を呈し、長さ57cm、幅35cm、深さ25.7cmである。埋土は灰色粘質土で少量の炭を含む。出土遺物はなく、時期は不明である。

石列1 (第30図)

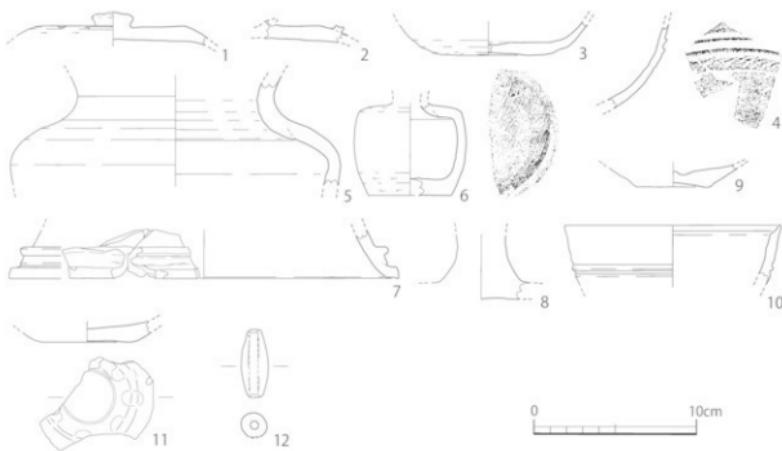
調査区南端のN25W60付近で、13個人の頭大の礫がまとまっていた。時期や性格は不明である。



第29図 64号土坑、Pit10・11実測図 ($S = 1 : 30$)



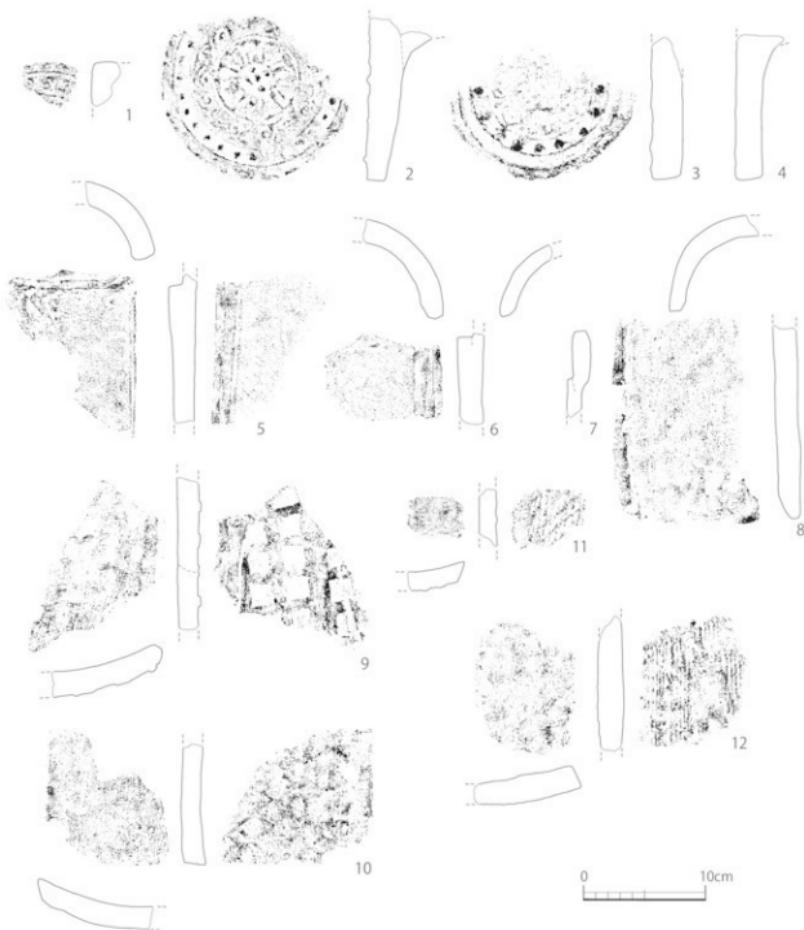
第30図 Pit14、石列1実測図 ($S = 1 : 30$)



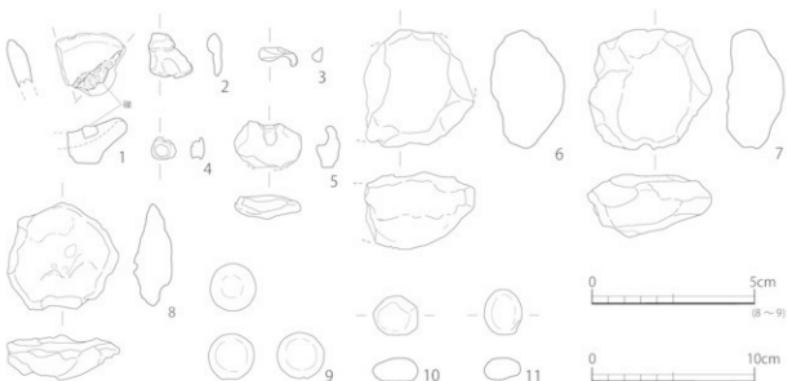
第31図 西調査区3層出土遺物実測図 (1) ($S = 1 : 3$)

2) 西調査区 3層出土遺物（第31図～第33図）

3層からは、古代から中世の遺物が大量に出土した。最も出土量が多かったのは瓦で、創建期・補修期の両方が混在して出土した。第31図1～7は須恵器である。1・2は蓋で1はボタン状つまみ、2は輪状つまみがつく。1は天井部に回転糸切り痕が認められる。2はつまみの外縁に突帯が巡り、国庁第5形式に相当する。灰白色の胎土で湯ヶ崎産の可能性がある。3は皿の底部と思われ、静止糸切り痕が残る。4は高環の环部である。环部中位に二条の突帯を巡らせ、その下に波状文と沈線を施す。大谷編年の出雲1期に相当すると思われる。5は壺、6は壺の胴部と思われる。6は底部外



第32図 西調査区3層出土遺物実測図(2) (5 = 1 : 4)



第33図 西調査区3層出土遺物実測図（3）(5=1:3、2:3)

面に回転糸切り痕が残る。7は脚部に一条の突帯を持つ円面硯である。8と9は土師器である。8は柱状高台付环で、12世紀ごろのものと思われる。9は皿である。全面が磨滅しており調整は不明である。10は体部外面から口縁内面にかけて施釉されている。胴部に一条の突帯を廻らす。11は越州窯系の青磁皿で底部環状に目跡が認められる。12は土鍤である。

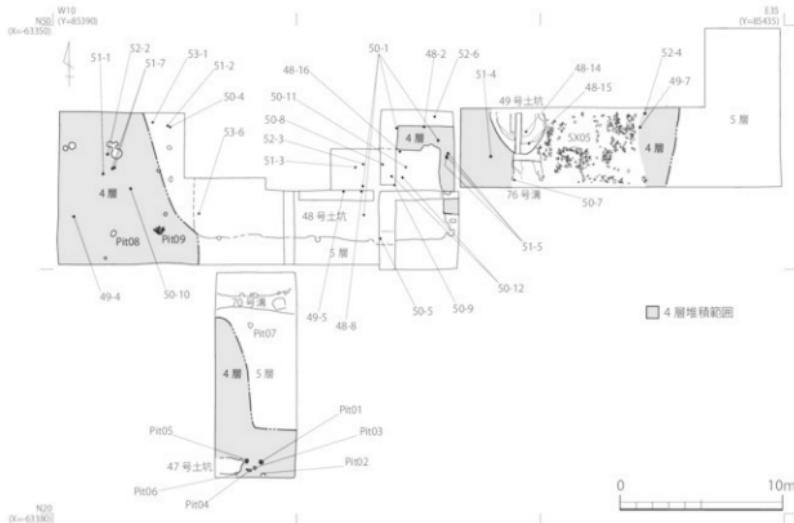
第32図は瓦である。1～4は軒丸瓦で、いずれも焼成は甘く、丸瓦部との接合は印籠継ぎ法が用いられている。1・2は出雲国分寺2類に相当する。2の中房には1+4の連子が認められ、その周囲に5葉の複弁が巡る。内区には唐草文帯、外区には珠文帯が残り、周縁部は無文となる。3は出雲国分寺3類である。3は瓦当面が磨滅しているため中房の様子は不明だが、大型の珠文帯の周りに1条の界線が巡る。4は磨滅のため瓦当面の文様が確認できない。5～8は丸瓦、9～12は平瓦で焼成が硬質のものと軟質のものがある。5・6は有段式丸瓦Aである。焼成は硬質で玉縁基部が僅かに残る。5は玉縁基部高1.0cmを測り、凸面はナデ、凹面は布目压痕と糸切り痕が残る。6は玉縁基部高が1.2cmで、凹面には布目压痕が認められる。7は焼成が軟質で、有段式丸瓦Bと判断される。玉縁基部高は0.4cmである。8は軟質の丸瓦広端部で、凹面に布目と糸切り痕が認められる。9～11は硬質の平瓦で、9は格子タタキ13が、10は格子タタキ12が、11は繩タタキが認められる。9は凹凸面ともにナデが施されている。12は焼きが甘く、凹面に繩タタキ1が施されている。凹面に模骨痕が認められる。

第33図は1～7は金属器生産関係遺物である。1は坩堝で内面は1～2mm程度の厚さでガラス質に溶融している。鮮やかな赤みのある発色をしており、銅の溶融に用いられた可能性がある。2～4は銅滴と思われる。5～8は楕形鍛治津である。5は小型で津質は緻密である。6は不整楕円形の平面を持ち、下面是厚く丸みをもった楕形を呈する。7の平面は不整円形で、津質は密である。8は不整円形で、1cm前後の木炭痕がまばらに見られる。9～11は玉成品で9は丸玉、10・11は平玉である。9・10は水晶製で、特に9は透明度の高い石材を用いた優品である。全面を丁寧に研磨している。10は平面形が不整楕円形で石英製の可能性がある。11は楕円形で白メノウ製である。

3) 東調査区の遺構（第34図）

東調査区では、3層下面に4層と5層を互層状に検出した。4層は8世紀末から9世紀前葉、5層は8世紀前葉頃の整地土と思われる。両層の堆積は一様ではなく、4層と5層が交互に表出するという複雑な堆積状況を呈していた。東調査区の西側では4層が厚く堆積しているが、W5～E5ラインにかけて斜め方向に削平を受けたため、下層の5層が露出していた。調査区中央には大型土坑である48号土坑が検出され、48号土坑の東側からは再び4層の堆積が確認された。4層はE28ライン付近まで見られ、それより東側は地形が約20cm低くなっている。そのため、再び5層が露出し、そのまま調査区外へ続いている。E28ライン以東は5層直上に3層の疊層が堆積していた。よって、少なくとも疊層堆積時には、すでに一段低い地形であったと思われる。

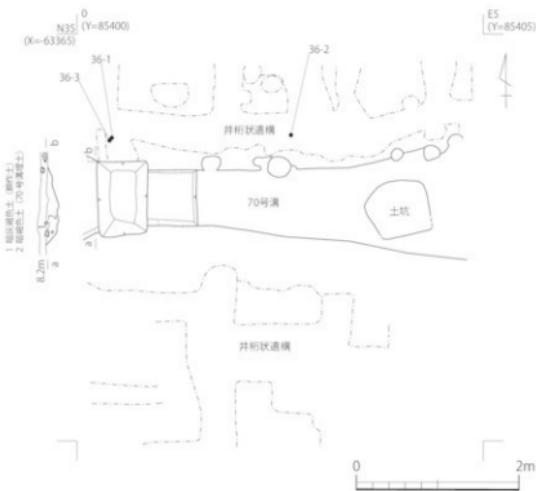
3層下面の遺構配置は、場所ごとに様相が異なる。調査区の西側では、小型のビット群が多く検出されているが、それ以外の遺構は認められない。一方で調査区東側では小型のビット群は見られず、代わりに49号土坑、76号溝、SX05など10世紀代の遺構が検出されている。調査区の中央では70号溝が東西に走り、大型土坑である48号土坑や金属器生産関係の遺構である47号土坑が作られているようだ。遺構の検出レベルは東西で異なり、西側は8.3m、中央は8.2m、東側は8.0mと東に向かって傾斜している。遺物は、調査区全体から散在して出土し、特定の地点に集中する傾向は認められない。



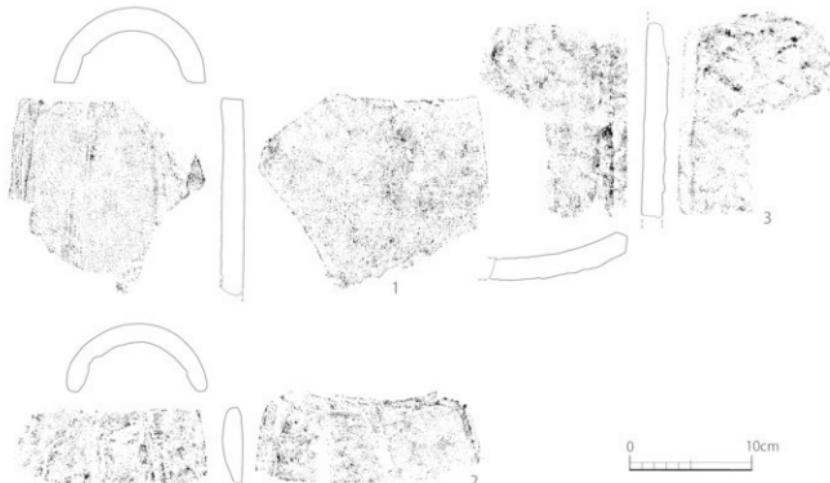
第34図 東調査区3層下面遺構配置図 (S = 1 : 300)

70号溝（第35図・第36図）

平成20・21（2008・2009）年度の再調査区N35E5グリッドで検出した。検出面は5層上面であるが、これまでの調査所見や遺構の時期、底面のレベルなどから、4層から掘り込まれた遺構と判断した。検出した長さは3.9m、幅は0.68～1.5m、残存していた深さは約6cmであった。底面レベルは8.06mで東に向かって傾斜している。井桁状遺構と切り合い関係にあり、70号溝が切っている。70号溝の上面には土坑が一基検出された。本年度は、70号溝の時期を探るために西側を



第35図 70号溝実測図 ($S=1:60$)

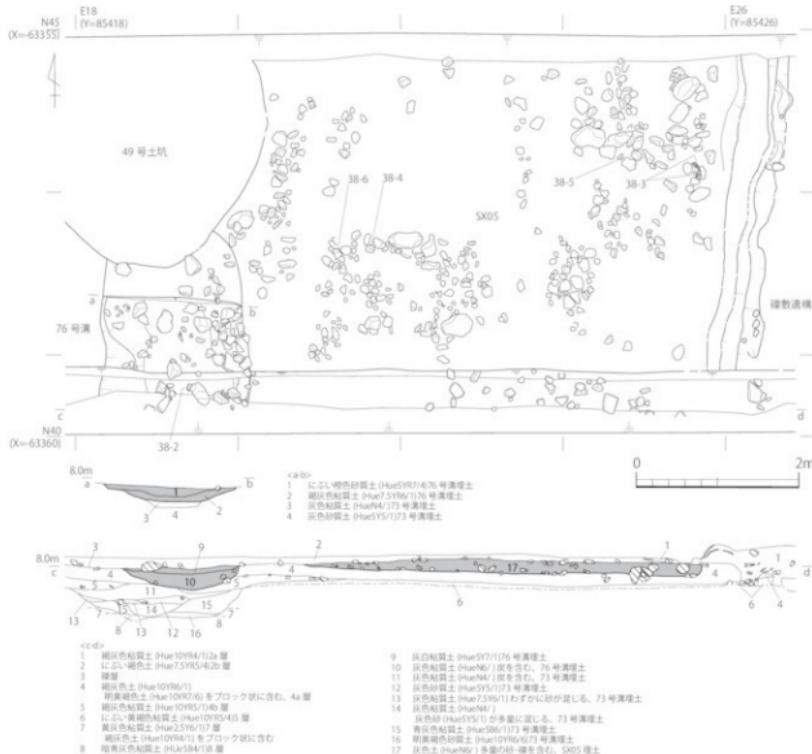


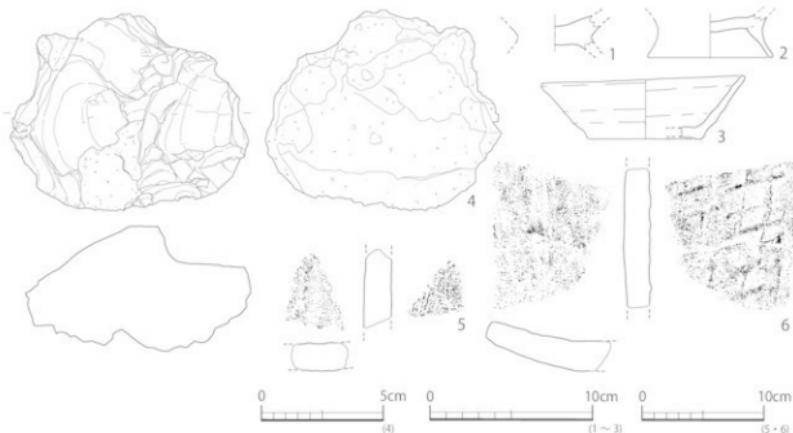
第36図 70号溝周辺出土遺物実測図 ($S=1:4$)

一部掘削したが、時期の分かる遺物は出土しなかった。埋土は単層で、暗褐色土が薄く堆積していた。遺物は、70号溝の周辺から創建期と補修期の瓦が出土している。第36図1は硬質の無段式丸瓦で、狹端部が残る。凸面は縄タタキ目をナデ消している。凹面は端縁と側縁をケズリ調整し内面は布目圧痕が残る。2は丸瓦の狹端部である。焼成は軟質である。3は軟質の平瓦である。凸面成形は格子タタキ2で離れ砂が用いられている。凹面には布目圧痕の上からナデで調整している。

76号溝（第37図・第38図1、2）

N45E15グリッドで検出した南北溝である。長さ約2m、幅0.56m、深さ30cmを測り、底面レベルは7.65mである。東側の肩付近には人頭大の礫が並べられている。北端は49号土坑に切られている。南端は平成20・21（2008・2009）年度調査区に続いているようだが、当時の調査では平面プランは検出されていない。ただし、「史跡出雲国府跡7」第13図の土層図を見ると⑤黄褐色土上面に点線で溝状のラインが確認でき、位置関係から76号溝のものと判断される。埋土は2層で上層は砂質土、下層は褐灰色粘質土が堆積していた。また溝底面には73号溝の埋土が検出された。溝の内部には、人頭大の礫が落ち込んでいた。時期は出土遺物から10世紀頃と思われる。第38図1・2は足高高台付環である。両者とも全面をナデで調整している。





第38図 76号溝、SX05出土遺物実測図 (S= 1:3、2:3、1:4)

SX05 (第37図・第38図3~6)

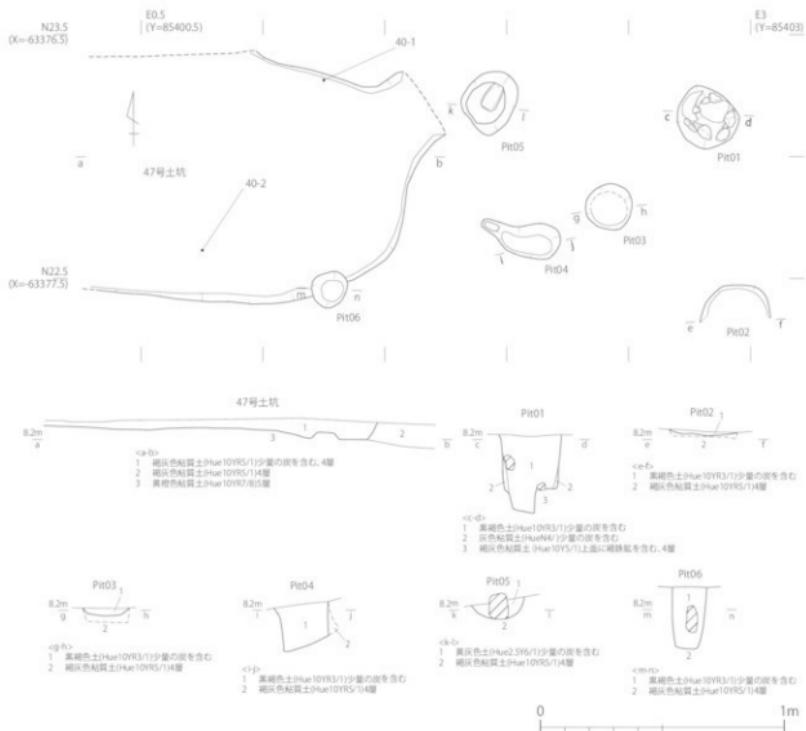
N45E20~25グリッドで検出された。東西幅5.6mの範囲に人頭大の礫や小石、砂が敷き詰められている。一部に礫がまとまっている場所もあるが、全体的にまばらで礫の分布に規則性はない。北端は調査区外へ続き、南端は平成20・21(2008・2009)年度調査区へと延びる。ただし、当時の調査では検出されていない。検出された長さは約5m、埋土の深さは15cmであった。49号土坑と切り合い関係にあり、49号土坑に切られている。性格は不明だが、4層上面を掘り込んでいたため、何らかの地業痕跡の可能性がある。礫の間より10世紀代の土師器が出土していることから、10世紀頃の遺構と判断される。

第38図3は土師器環である。体部が直線的に開き、底部には回転糸切りが認められる。4は碧玉製石核である。碧玉の原石を側縁部より加熱して、厚みのある扇状の剥片を剥離している。5・6は平瓦である。5は硬質で凸面は繩タタキで成形されている。凹面に模骨痕が残る。6は凸面に格子タタキ15が、凹面に布目圧痕が残る。焼成は軟質である。

47号土坑 (第39図・第40図)

47号土坑はN25°0グリッドで検出された平面不整形の土坑である。北東側はさらに東へ広がっていたと思われるが、土坑の存在に気づかずに入削してしまっている。西側は調査区外へと続いている。1.45×10.5mを測り、深さは9cmである。埋土は1層で、少量の炭を含んでいる。周辺から滓や羽口が出土したため、埋土を持ち帰り水洗選別を行なった。その結果、羽口の破片や滓、溶解物が多量に見つかった(第7表)。その一方で、炉壁や鍛造剥片、粒状滓といった鍛冶関係の遺物は出土しなかった。よって、鍛練鍛治の跡ではなく、金属器生産関係の廃棄土坑と想定される。Pit06と切り合い関係があり、Pit06に切られている。出土した炭をAMS年代測定にかけており、8世紀後葉から9世紀後葉の年代が与えられている。

第40図1は須恵器皿である。口縁部内面がわずかに湾曲している。2は土師器の高台付皿である。全面をナデで調整している。



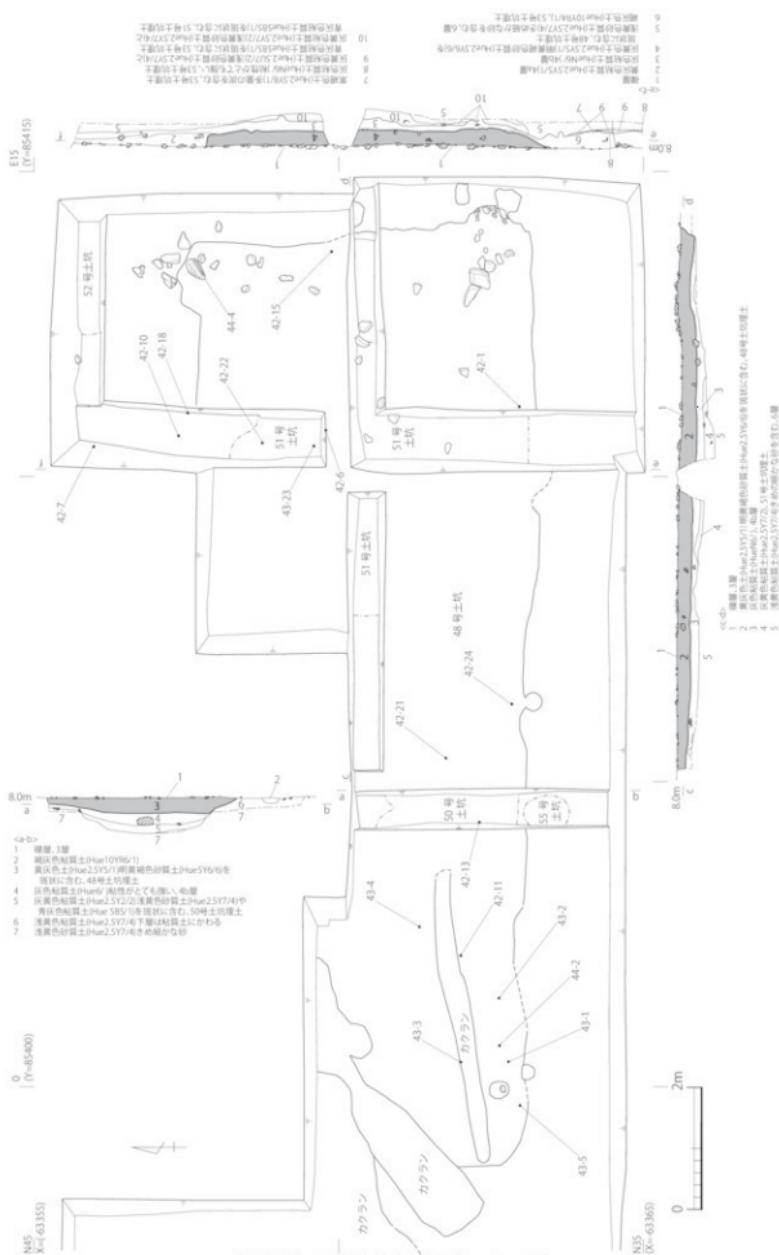
第39図 47号土坑、Pit01～06 実測図 ($S = 1 : 20$)



第40図 47号土坑出土遺物実測図 ($S = 1 : 3$)

Pit01～06 (第39図)

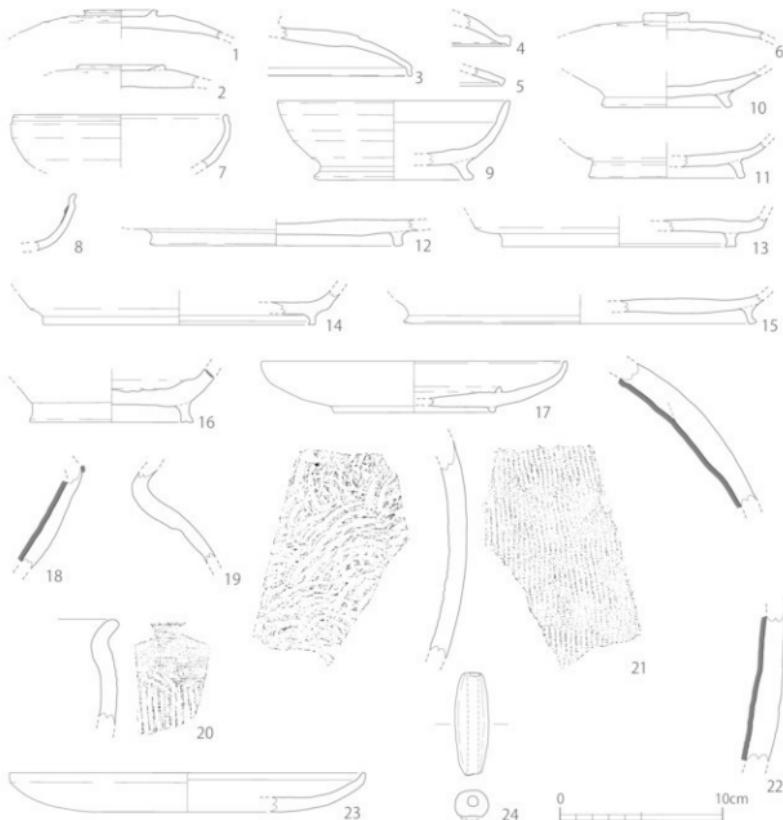
47号土坑周辺にピットが6基検出された。いずれも埋土に少量の炭を含んでいる。Pit01は直径25cm、深さ32cmで円形を呈する。内部に小型の礫が環状に並べられていた。柱穴の根巻石と思われる。Pit02は調査区南端で半分ほどを検出した。平面形は円形で、直径はおよそ30cmである。深さは2cmと浅い。Pit03は直径19cmの円形を呈し、深さは3cmであった。Pit04は不整形を呈する。深さは20cmで内部に礫が落ち込んでいた。Pit05は円形で直径は27cmである。中央に人頭大の礫が備えられていた。Pit06は平面形である。直径5cm、深さ26cmと他のピットと比べかなり深い。内部には礫が入っていた。47号土坑と切り合い関係があり、47号土坑を切っている。時期は不明だが、どのピットも直径が小さく埋土に炭を含んでいることから中世以降の可能性がある。



第41図 48号土坑実測図 ($S = 1 : 80$)

48号土坑（第41図・第42図～第44図）

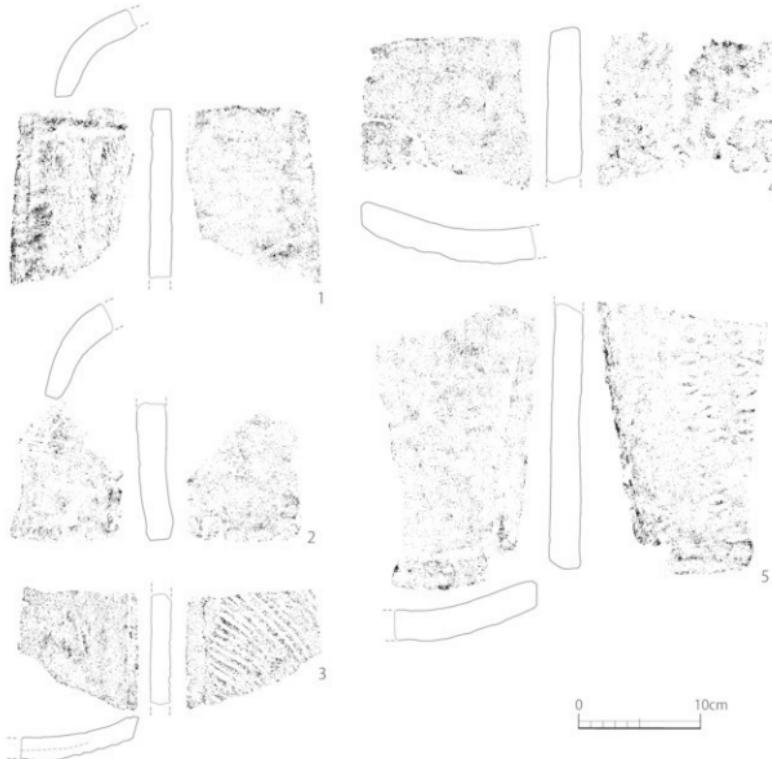
48号土坑は、N45W5～N40E10グリッドで検出された大型土坑である。平成20・21（2008・2009）年度調査時にN40E10グリッド6層上面で南東隅が検出されていたが、時期や性格については不明であった。今回、再調査区と合わせて追加調査を行なった結果、4層上面から掘り込まれた大型土坑であることが判明した。平面形は長方形を呈し、長さ約15.2m、幅5.5m、深さ30cmを測る。北東隅と南東隅が若干膨らみ、それぞれに人頭大の礫がまとまって検出された。このうち、北東隅の礫群には、筋砥石（第44図4）が含まれていた。北側は調査区外へと続き、西側は一部攪乱に切られている。内部調査はN40ライン・E5ライン・E10ラインにトレーニチを設定して行なった。このうちN40E10グリッドのL字状トレーニチは、前回の調査で掘削されている。底面はほぼフラットに整えられ、埋土は黄灰色土が堆積している。埋土内には明黄褐色砂質土（6層）が斑状に混ざっており、掘削した土を混ぜて埋め戻している状況がうかがえる。48号土坑の直下には50



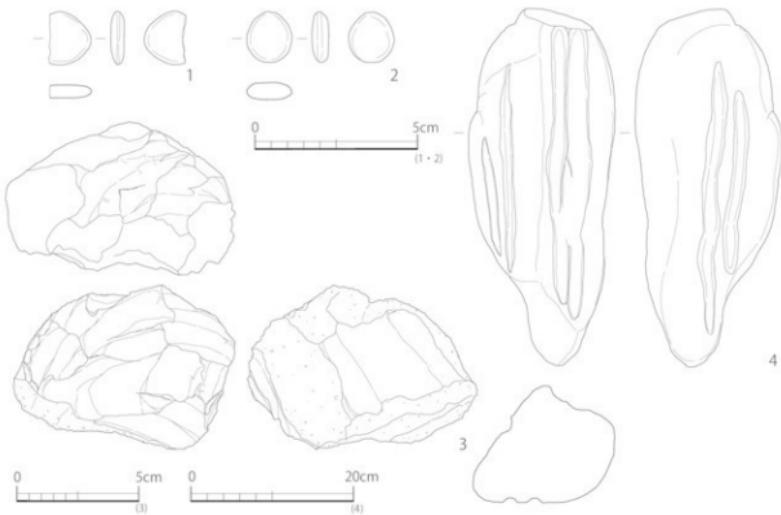
第42図 48号土坑出土遺物実測図（1）（S=1:3）

号～52号土坑が掘り込まれていた。53号土坑、井桁状遺構と切り合い関係にあり、いずれも48号土坑が切っている。時期は出土遺物から判断して8世紀後葉以降と思われる。また出土した炭化物をAMS年代測定にかけており、7世紀後葉から8世紀後葉の年代が与えられている。

48号土坑からは古代の遺物が多量に出土した。第42図1～22は須恵器である。1～6は蓋で、1と2は輪状つまみを持ち、国府第3形式に相当する。1は天井部にヘラケズギが施され、その後ナデで調整している。内面には研磨痕が認められる。3は強く屈曲する口縁端部を持つ。つまみは欠損しているが、破損部の径から宝珠つまみが付くと推測される。国府第4形式と思われる。4・5は口縁端部のみ残存している。4は内側に凹線状の窪みを持ち、5は端部を短く屈曲させている。6はボタン状のつまみを有する。国府第4～5形式または国府第5形式頃と思われる。7・8は無高台坏で口縁部が弱く屈曲する。8は内面に漆が付着している。9～11は高台付坏、12～15は高台付皿である。9は体部が丸く立ち上がり、口縁部はわずかに外傾する。16は壺の底部で、内外面と断面に漆が付着している。17は托である。内面が磨滅しており転用硯として用いられたと思われる。18は長頸壺の胴部と思われ、内面に漆が付着している。19は甕で外面に灰を被っている。



第43図 48号土坑出土遺物実測図(2) (S=1:4)



第44図 48号土坑出土遺物実測図（3）(S=1:2、2:3、1:6)

20は鉢で口縁部はナデ、胴部は縦方向のタタキで調整されている。21・22は大甕の胴部で外面に縦方向のタタキ、内面には同心円状の當て具痕が残る。22は内面に漆が付着している。23は土器皿である。底部付近はナデで調整されている。24は土錘である。重量は24.20gを測る。

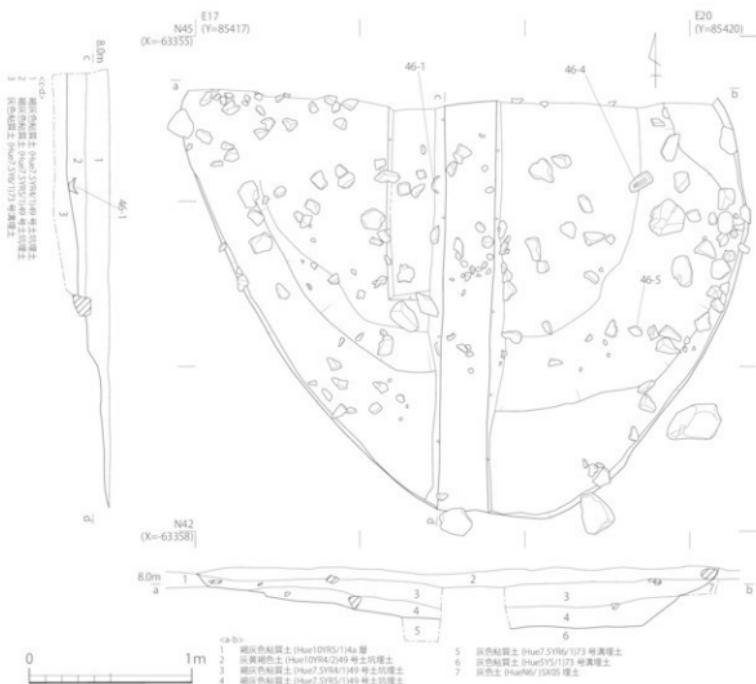
第43図1・2は丸瓦、3～5は平瓦である。1は凸面を繩タタキ目が、凹面に布目压痕と糸切り痕が残る。狭端部はケズリで調整され、無段式と思われる。焼成は甘い。2は広端部で、焼成は軟質である。3は凸面を平行タタキで成形し、離れ砂が確認される。焼成は須恵質である。4・5の焼成は共に軟質である。4は分類不明の格子タタキ、5は格子タタキ2で成形されている。

第44図1～4は玉作関連遺物である。1は雑石製、2はカド石製と思われ、全面を丁寧に研磨している。3は大型の碧玉原石である。石質はあまり良くない。自然の剥離痕は見られるが、人為的に打ち欠いた痕跡は見られない。4は細粒花崗岩製の筋砥石で、3面に2条1単位の筋痕が認められる。それぞれの筋は1条の直線に見えるが、実際は3～4条の小単位が重なって構成されている。1単位は8～12cm程度で、玉を研ぐ際の単位と想定される。筋の幅も、1.7～2.0cmのもの、2.3～2.6cmのもの、2.2～3.0cmのものがあり、成品の器種や大きさが関係していると思われる。

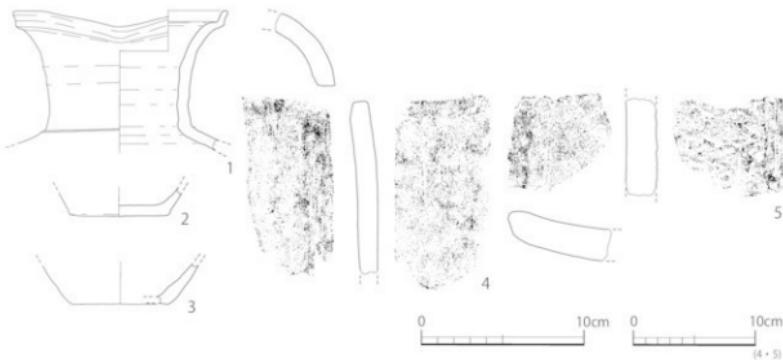
49号土坑（第45図・第46図）

東調査区西端のN45E15グリッドで検出された大型の土坑である。直径約3.3mを測り、深さは27cmと浅く、内部には人頭大の礫が散在する。中央付近からは湧水が認められ、埋土はグライ化した粘質土が水平に堆積していた。76号溝、SX05と切り合い関係にあり、いずれも49号土坑が切っている。時期は出土遺物や切り合い関係から、10世紀以降と思われる。

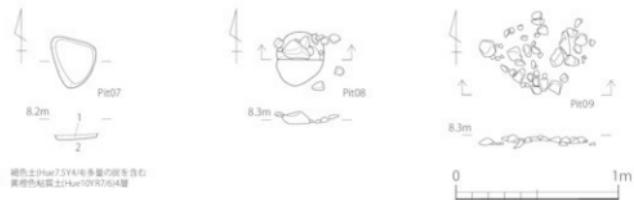
第46図1は須恵器壺の口頭部である。口縁部の一部が方口状にゆがんでいる。2・3は土師器環で底部に回転糸切り痕が残る。4は丸瓦の無段式狭端部である。焼成は軟質である。5は平瓦で焼きは甘い。凸面には離れ砂が用いられており、格子タタキ2で成形されている。



第45図 49号土坑実測図 ($S = 1 : 30$)



第46図 49号土坑出土遺物実測図 ($S = 1 : 3$ 、 $1 : 4$)



第 47 図 Pit07 ~ 09 実測図 ($S = 1 : 30$)

Pit07 (第 47 図)

N35・0 グリッドで検出された。平面形は不整形で直径約 30cm、深さ 3cm を測る。埋土に多量の炭を含んでいる。時期は不明であるが、ピットの大きさや埋土から中世以降の可能性がある。

Pit08 (第 47 図)

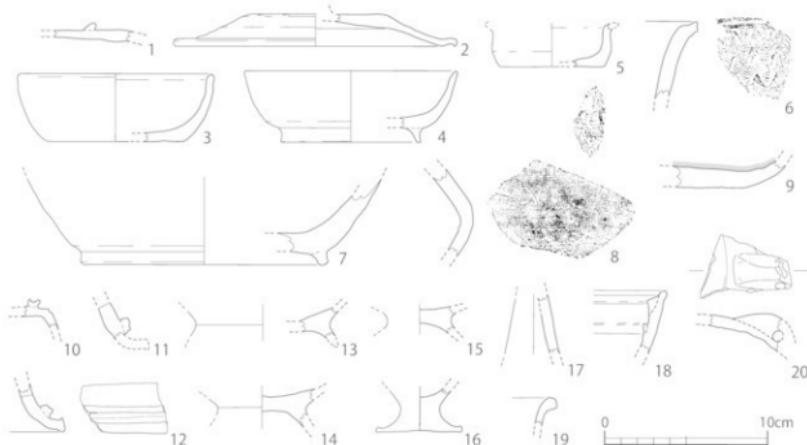
N40W10 グリッドで検出された。平面はややくずれた円形を呈し、直径は 34cm である。ピットの北側を半裁したところ内部に多量の礫が詰まっていた。下面の調査は行なっていない。時期は不明である。

Pit09 (第 47 図)

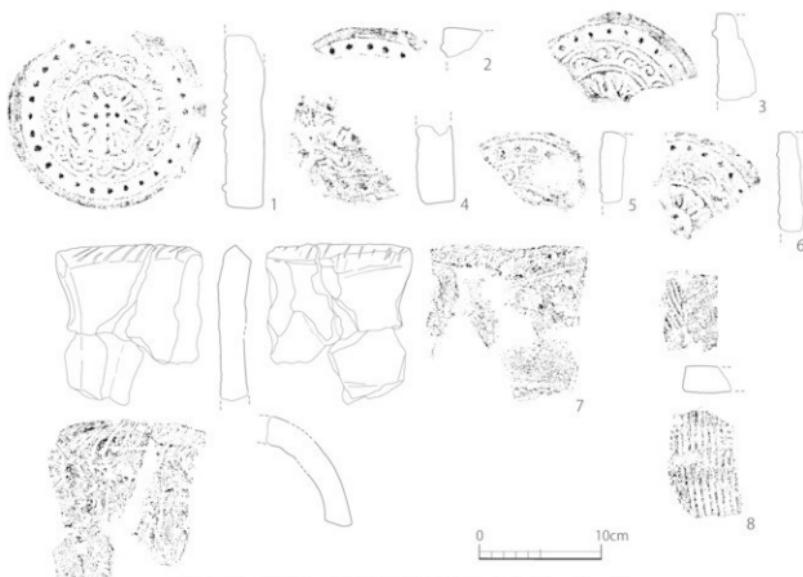
N40W5 グリッドで検出された。拳大の礫が直径約 70cm の範囲に密集しており、礎石建物の根石の可能性がある。時期は不明である。

4) 東調査区 3 層出土遺物 (第 48 図～第 53 図)

西調査区と同様、東調査区の 3 層からも大量の遺物が出土した。特に瓦類が多く、今回の出土瓦の大多数は 3 層から出土している。第 48 図 1 ~ 12 は須恵器である。1 ~ 2 は蓋で、1 は輪状つまみが、2 は宝珠つまみが付くと思われる。1 は内面に研磨痕が認められ、転用窯の可能性がある。2 は天王部に回転糸切り後ヘラケズリが施されている。内面はわずかに研磨されている。3 は無高台壺で底部に回転糸切りが認められる。4 は高台付壺である。体部がやや外傾しながら立ち上



第 48 図 東調査区 3 層出土遺物実測図 (1) ($S = 1 : 3$)



第49図 東調査区3層出土遺物実測図(2) ($S=1:4$)

がる。5は底部に静止糸切り痕が残る灯明皿形土器である。6は鉢で頸部に6条1単位の波状文が2段に施されている。7は中世須恵器で焼きが甘い。壺の底部と思われる。8は甕と思われ、胴部下半にカキ目が認められる。9は内面に漆が付着している。底部に回転ヘラケズリが施されている。10は円面鏡の鏡面、11・12は円面鏡の脚部である。10は脚から鏡面が一体で作られおり、頂部に窪みを持つ堤を張り付けている。円面鏡としたが、高台付环の底部の可能性もある。11と12は方形のスカシを持ち、脚端部に突帯を巡らせていている。13～17は土師器である。13～15は足高高台付环、16は柱状高台付环に分類される。16は底部に回転糸切り痕が残る。17は高環の脚部で、内面が黒く焼けていることから羽口として転用された可能性がある。18は褐釉陶器の壺と思われ、黄釉が斑状に残る。内面に2条の突帯を持つ。19は中国陶器と思われる。20は灰釉陶器の耳壺で、耳頂部に2条の沈線が認められる。

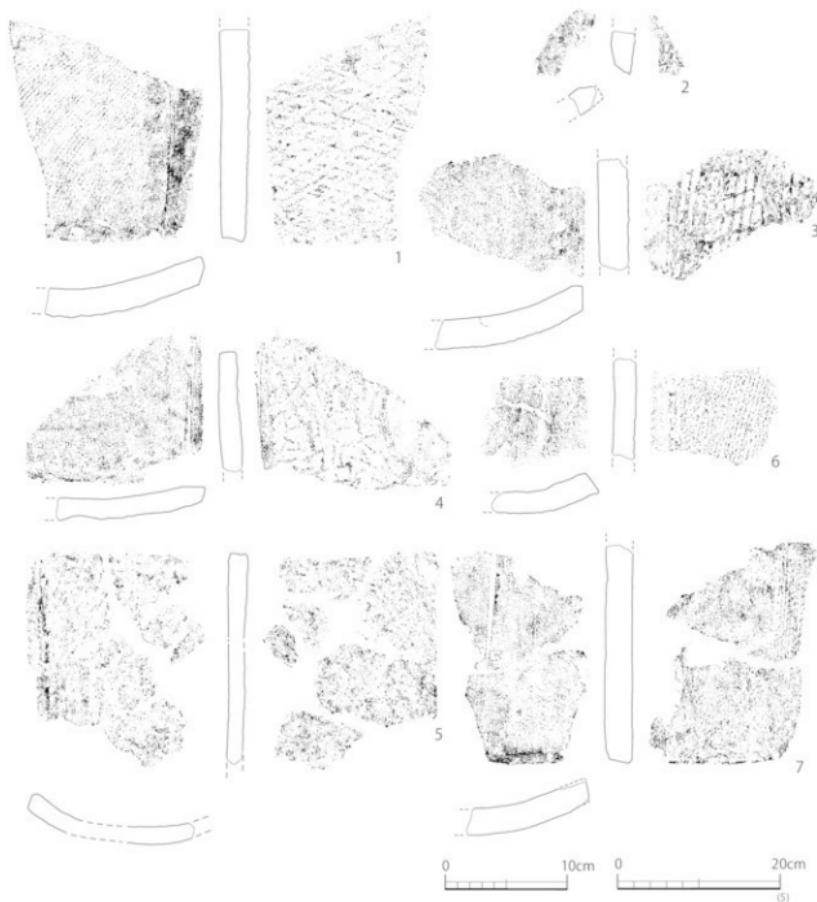
第49図1～7は軒丸瓦である。いずれも出雲国分寺2類に該当し、接合技法が確認できるものは全て印籠つぎ技法である。1は比較的残りがよく、瓦当面の中房は窪み、1+4の連子が設けられる。周縁には5葉の複弁と唐草文帯が配され、外区には珠文帯が巡る。2は珠文帯のみ残存する。4～6は瓦当面がかなり磨滅している。7は丸瓦部の先端両側にケズリを施して成形した後、斜位の刻目を入れている。8は軒平瓦と思われる。瓦当面から凸面にかけて平行タタキが認められる。出雲国分寺4類の可能性がある。

第50図は丸瓦である。1は有段式丸瓦Aである。凸面はケズリとナデが施され、凹面は布目压痕と糸切り痕が確認できる。玉縁部は長さ5.7cm、基部高1.2cm、段部長0.9cmを測る。2～7是有段式丸瓦Bで焼成は軟質である。2は玉縁部長5.3cm、基部高1.0cm、段部長1.1cmである。3は

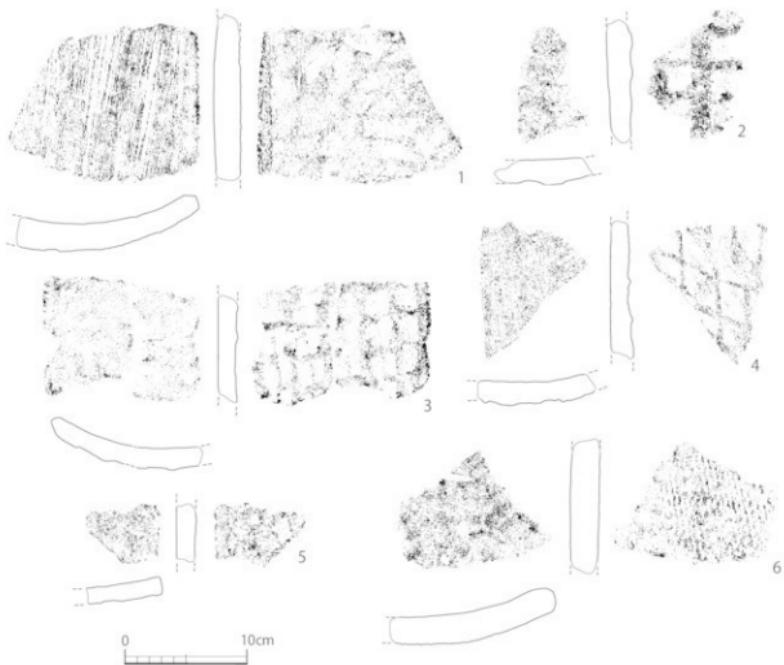


第50図 東調査区3層出土遺物実測図(3) ($S = 1:4, 1:6$)

玉縁部の長さは4.3cmを測り、玉縁基部は欠損している。4は玉縁部長さ4.4cmである。5の玉縁先端部は凹凸面の両側をケズりで成形している。玉縁部長は4.7cmである。6は四面に縱位の窪みが認められ、布の縫じ目の可能性がある。玉縁部には粘土の縫目が明瞭に確認される。玉縁部長さは5.8cmである。7はほぼ完形の資料である。狭端部に比べ、広端部の焼きが甘い。凹凸面は、ともに板状の工具で丁寧にナデ調整されており、側縁と玉縁部はケズりで整えられている。玉縁部長3.5cm、基部高0.5cm、段部高1.2cmである。8は無段式丸瓦で狭端部をケズりで成形している。9～12は狭端部が残っていないため、玉縁部の有無は不明である。9・10は焼成が硬質なもので、11・12が軟質なものである。10は広端部をケズりで調整している。四面に布目圧痕と糸切り痕が残る。11は四面の広端部付近に布目圧痕が残り、上半は布目をナデ消している。12の四面には



第51図 東調査区3層出土遺物実測図(4) (S=1:4、1:6)



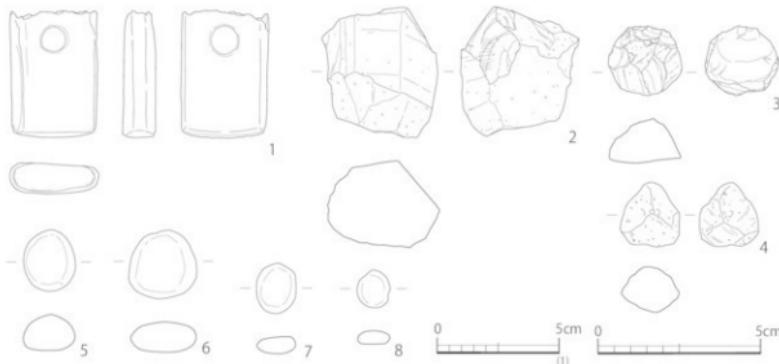
第52図 東調査区3層出土遺物実測図(5)(S=1:4)

布目圧痕が顕著に残り、側縁をケズリ調整している以外は未調整である。左側縁付近に段状の窪みがあり、粘土版の合わせ目の可能性がある。

第51図は全て焼成が硬質の平瓦である。1は格子タタキ2で成形しており、表面には離れ砂の痕跡が確認される。凹面には糸切り痕と布目圧痕が残る。2は細片だが、凸面に格子タタキ11が認められる。3は格子タタキ1が残る。4の格子タタキは分類不明である。1.5cm×0.8cm程度の不整長方形を呈し、内部に横方向の細い平行線が入る。離れ砂が確認される。5は凸面が磨滅しているため格子タタキの分類は不明である。凹面には布目圧痕と糸切り痕が確認できる。6・7は縄タタキ1が認められる。6の凹面には模骨痕が見られる。

第52図は平瓦で、全て焼成が軟質である。1は凸面に格子タタキ2が認められ、凹面には線条の道具痕が残る。2は格子タタキ13、3は格子タタキ4でそれぞれ成形されている。4は格子タタキ15の内部に横方向の太い平行線が見られる。5は凸面が磨滅しているため、格子タタキの分類は不明である。離れ砂の痕跡が見られる。6は凸面に縄目が平行していることから、縄タタキ1で成形していると思われる。

第53図1は方頭大刀の柄頭と思われる。同様の形態の方頭大刀が、以前の調査でも出土している(『史跡出雲国府跡7』第15図6)。直方体を呈し、柄頭頂部は緩くカーブする。長さ5.2cm、幅3.4cm、厚さ1.1cmを測る。厚さ1mm程度の薄い銅板を折り曲げて成形し、実測図右側左側縁付近に銅



第53図 東調査区3層出土遺物実測図（6）(S=1:3、2:3)

板のつなぎ目が見られる。両面に直径1.1cmの縫通孔があけられている。2～8は玉作関連資料である。2～4は水晶製で、2は原石、3は素材剥片、4は丸玉未製品である。2は六角柱状を呈し、実測図右側にわずかに剥離痕が見られる。3は扇状の分厚い剥片である。おそらく丸玉用の素材剥片と思われる。4は全面に敲打の痕跡が残っている。5・6はメノウ製平玉で研磨が施されている。7は頁岩製鉢石で、8はカド石製平玉の可能性がある。いずれも成品と思われる。

5) 小結

3層下面では、井戸や溝、土坑など多くの遺構が検出された。これらの遺構を、大倉原地区の変遷案に照らし合わせると、70号・74号・75号溝、47号・48号土坑が大倉原II-2期、14号井戸、76号溝、49号土坑、SX05が大倉原III期となる。以下、3層下面の遺構の変遷についてまとめる。

大倉原II-2期 48号土坑は8世紀後葉ごろに掘り込まれた大型土坑である。これまでの調査でも類例がないため、遺構の性格について判断できない。しかし、土坑下面に砂層や大型土坑があり地盤が貧弱である点、掘削した土を混ぜて埋め戻している点などから、何らかの地業の痕跡である可能性が高い。ここで注目したいのは、土坑の北東隅と南東隅で固まって検出された礫群である。このうち北東隅の礫群には筋砥石（第44図4）が混ざっており、これと類似した出土傾向を示す遺構として大倉原地区3号建物跡があげられる⁶。3号建物跡では、掘立柱の寝巻石として筋砥石が使われており、48号土坑の在り方と共に通する。土坑の規模や軸方向、位置関係から見ても、大倉原地区の建物群との関連性は十分想定できるため、今後の類例の増加を待って検討を加えたい。74号溝と75号溝は、出土遺物よりおよそ8世紀末から9世紀初頭に位置付けられる。70号溝は、今回の調査では時期が分かる遺物は出土しなかったが、これまでの調査所見から9世紀後半ごろに埋め戻されたと推測されている。これらの溝の評価は総括で詳しく述べる。

大倉原III期 14号井戸、76号溝、49号土坑、SX05からは、いずれも10世紀代の土師器が出土している。14号井戸は素掘りの井戸で、それほど深くない。調査中も湧水が著しかったため、それほど深く掘らなくても井戸として機能できたのだろう。49号土坑も、14号土坑と規模や形状、埋土が類似していることから、井戸の可能性がある。これまでに出雲国府跡で検出された井戸の多くは11～12世紀代のもので、10世紀代の井戸は宮の後北区の13号井戸のみである⁶。10世紀

代の井戸が宮の後北区でのみ検出されている点は興味深く、該期の国府の機能も合わせ検討する必要がある。76号溝は土坑の可能性もあったが、埋土に砂層が堆積していたことから溝と判断した。過去の調査で71号溝、72号溝などの南北溝が検出されており、区画溝の一部であった可能性も考えられる。SX05は多量の礫や砂が敷かれていたため、何らかの地業の痕跡と推測される。遺構の規模や位置から道路や建物に関する地業とも考えられたが、SX05の南北の延長ラインには15号土坑や13号井戸が作られているため、道路関連の遺構の可能性は低いと思われる。またSX05のすぐ東側の地形は一段低くなっているため、そのような場所に建物が建っていたとも考えにくい。現状では、整地に関する地業遺構と捉えておき、こちらも類例の増加を待つことにしたい。

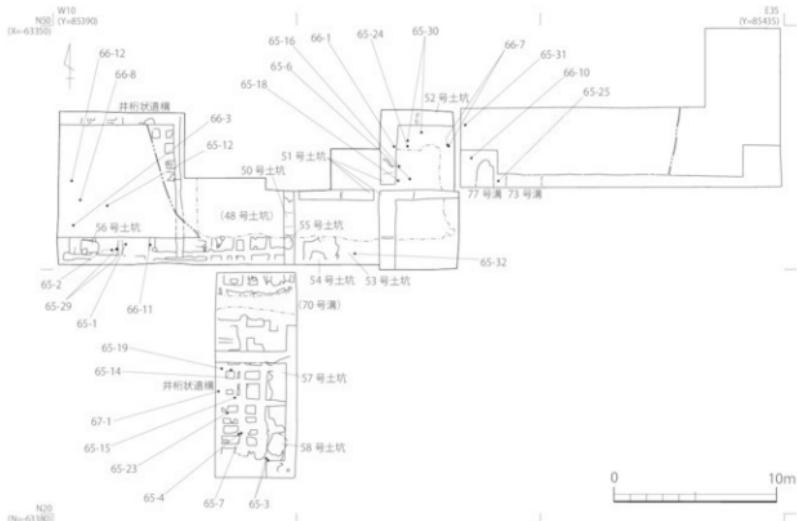
6. 古代（4層下面・5層）の調査

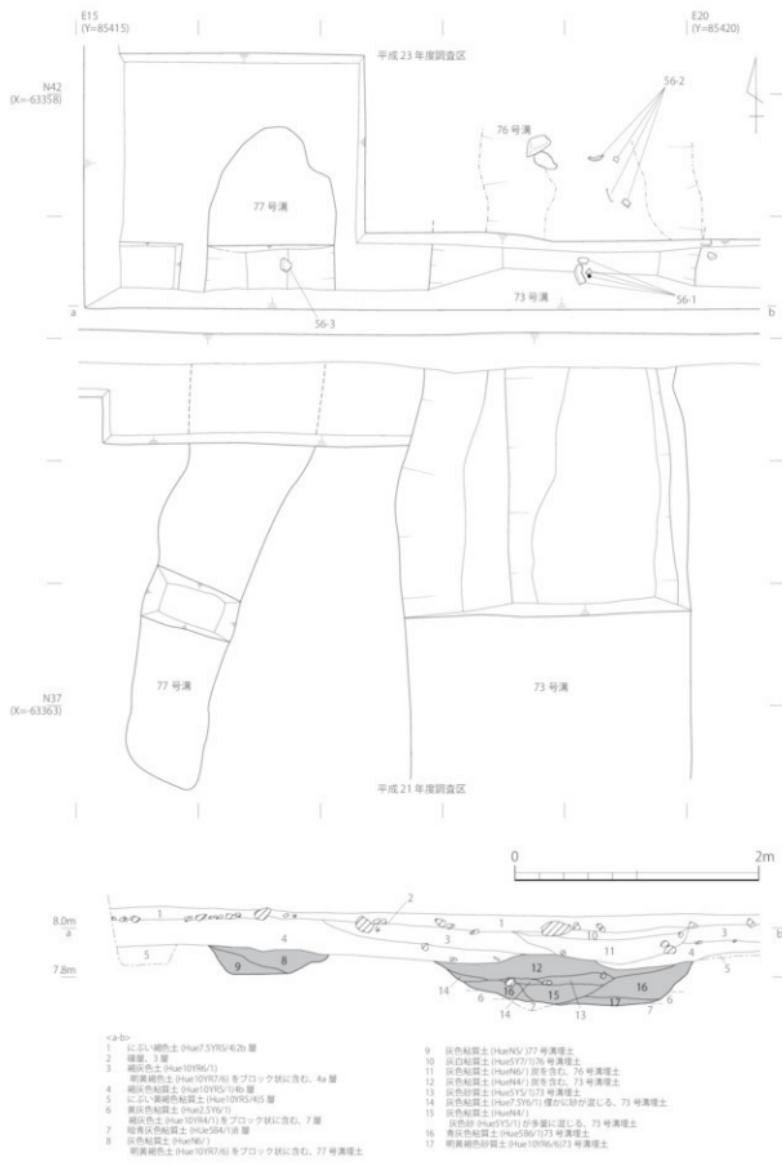
4層は古代の整地上と思われ、東調査区でのみ確認された。整地の時期は、出土遺物から判断して8世紀末から9世紀前葉ごろと思われる。今回の調査では4層の一部を掘削し、下層の5層上面の遺構の確認を行なった。4層下面からは、南北溝2条、土坑8基、井桁状遺構1基を検出している。時期は8世紀前葉から9世紀前後の時期の遺構と思われる。

1) 東調査区の遺構（第54図）

5層は東調査区全域に堆積している。調査区西端からE6ラインにかけてほぼ全面に井桁状遺構が掘られ、井桁状遺構の間に56号～58号土坑が検出されている。調査区中央では48号土坑の下層より50号～52号土坑が認められる。東側では、南北溝と思われる73号溝と77号溝が掘り込まれている。E20ライン以東は遺構が全く見られなくなり、遺物の出土も少なかった。

73号溝（第55図・第56図1、2）





第 55 図 73 号・77 号溝実測図 (S = 1 : 40)



第 56 図 73 号・77 号溝出土遺物実測図 ($S = 1 : 3$)

73 号溝は、76 号溝の直下の N45E15 グリッドで検出した素掘りの南北溝である。遺構の位置やレベル、出土遺物から平成 20・21（2008・2009）年度調査区で検出された 73 号溝と同一の遺構と判断した。検出長 0.47m、幅 2.2m、深さ 36cm、底面レベル 7.38m を測る。埋土は 6 層に分層でき、土層の堆積状況から一回の掘り直しがあったと推測される。よって、73 層溝（古）・73 層溝（新）と呼称する。73 号溝（新）の埋土は 12～15 層が対応する。底面が二段に掘り込まれており、底面付近の 14 層と 15 層には多量の砂が混じっていた。73 号溝（古）は 16・17 層が相当し、床面はフラットである。16 層は粘質土であるのに対し、17 層は砂層である。これまでの調査でも、埋土下層に砂層が堆積している傾向が指摘されており、流水の影響による自然堆積と推定されている。今回の調査では時期決定に有用な遺物は検出されなかったが、これまでの調査成果より国府第 4～5 形式頃に埋没したと思われる。

第 56 図 1 は須恵器瓶類の底部である。外面に 2 条の沈線を横走させ、格子目状のタタキが施される。2 は須恵器高台付皿である。口縁端部内面をわずかに屈曲させ、段を成している。

77 号溝（第 55 図・第 56 図 3）

77 号溝は N45E15 グリッドで検出された南北溝である。平成 20・21（2008・2009）年度調査区では、未命名の溝状遺構が検出されており、位置関係から一連の遺構と判断した。長さ 5.6m、幅約 1m、深さ 24cm で、底面レベルは 7.62m であった。埋土は 2 層で灰色粘質土が堆積している。

第 56 図 3 は土師器の皿と思われる。底部外面はナデで調整されている。

50 号土坑（第 57 図・第 58 図 11）

48 号土坑下面の N40・0 グリッドで検出され、東西方向に溝状に伸びている。幅 2.66m、深さ 16cm で、埋土の上層には 4b 層が落ち込む。第 58 図 11 は羽口である。胎土に砂礫とスサが混じる。

51 号土坑（第 57 図・第 58 図 1、2）

48 号土坑に入れたサブトレンチ内で検出された。上場を繋ぎ合せて梢円形のプランを推定している。長軸約 6.3m、短軸約 5m、深さ 12cm を測る。土坑の性格は不明である。第 58 図 1 は須恵器の高台付窓で、底面を面取りした高台が付く。2 は土師器窓である。内面にヘラケズリが残る。

52 号土坑（第 57 図・第 58 図 3～5）

N45E10 グリッドで検出した。北壁の壁際で見つかったため深く掘ることができず、途中で掘削を止めている。粘性の高い青灰色粘質土が堆積している。第 58 図 3 は弥生土器の窓底部で、混入品と思われる。4 は須恵器窓である。底部に自然釉が付着している。5 は土師器窓である。口縁部付近に煤が付着しており、胴部はハケで調整している。

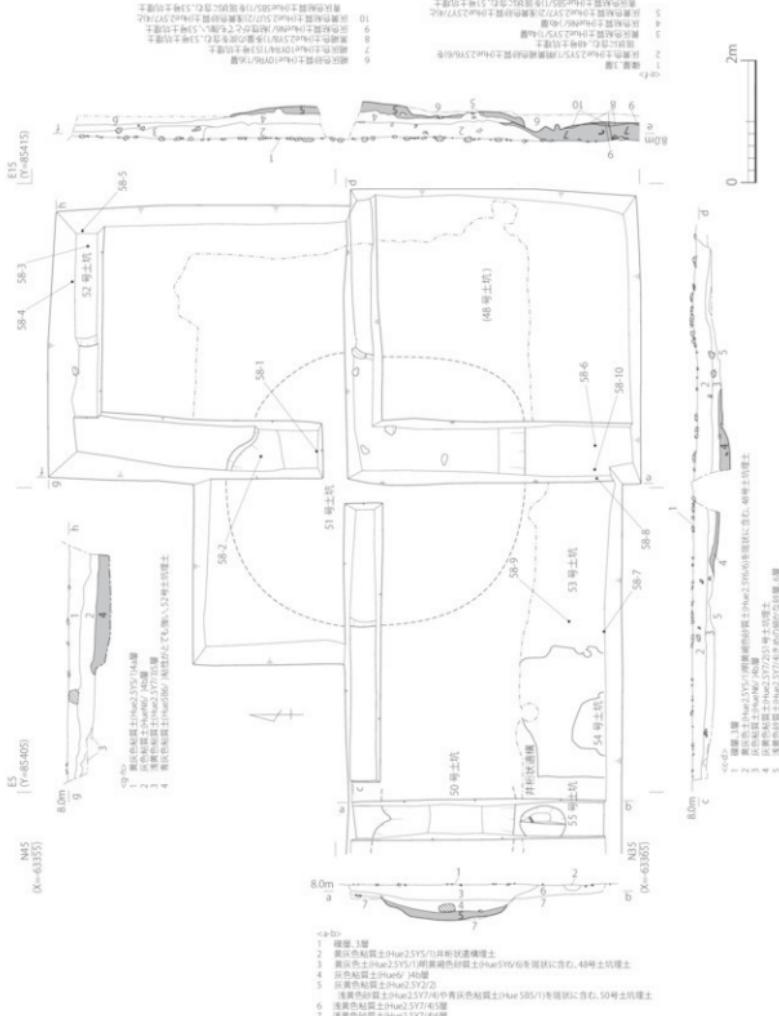
53 号土坑（第 57 図・第 58 図 6～10）

N40E5 グリッドで検出した不整形の土坑である。検出長 2.1m、幅 1.34m、深さ 32cm で、埋土は 4 層に分層できる。褐色土の下層に多量の炭を含む黒褐色土が堆積し、その下には粘性の強い灰色粘質土と灰黄色粘質土が薄く互層状に堆積していた。48 号土坑と切り合い関係があり、53

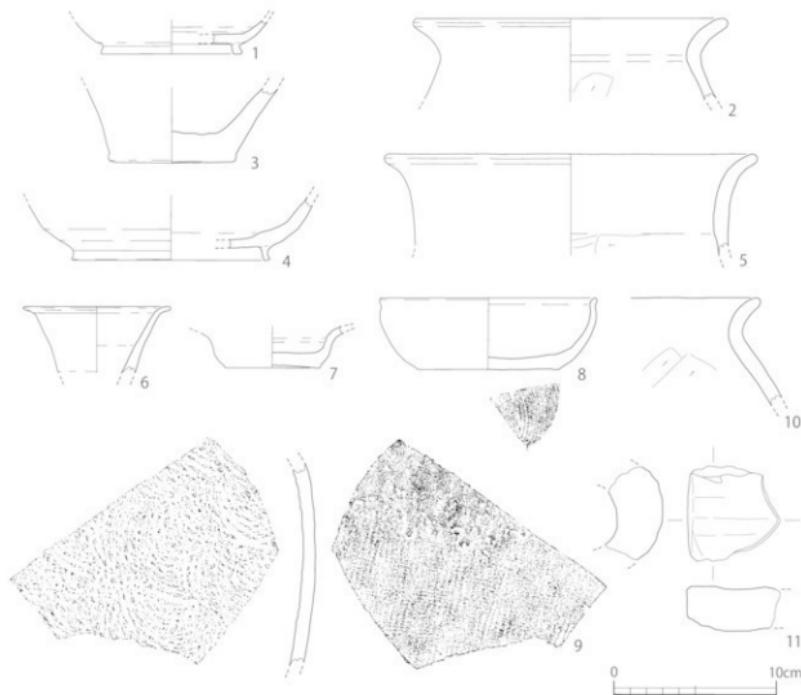
号土坑の方が古い。第58図6～9は須恵器である。6は平瓶の口縁部と思われ、外面に灰が被っている。7は灯明皿形土器で底部外面に回転糸切りが見られる。8は底部外面に静止糸切りが残る無高台壺である。口縁端部がわずかに屈曲している。9は甕の胴部で、外面に自然釉がかかる。

10は上部器皿で内面に・ハフクスリが確認される。

54号土坑(第57図)



第57図 50号～55号土坑実測図 (S=1:80)



第58図 50号～53号土坑出土遺物実測図 ($S = 1 : 3$)

N40E5 グリッドの南壁付近で検出された。平面は不整形で、検出長 1.04m、幅 0.54m である。内部調査は行なっていない。

55号土坑（第58図）

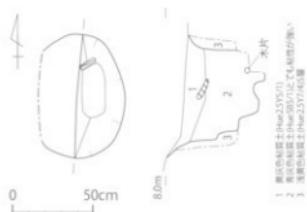
50号土坑に接して検出された。楕円形を呈し、長さ 0.76m、幅 0.48m、深さ 58cm を測る。底面付近より木片が出土した。

56号土坑（第60図）

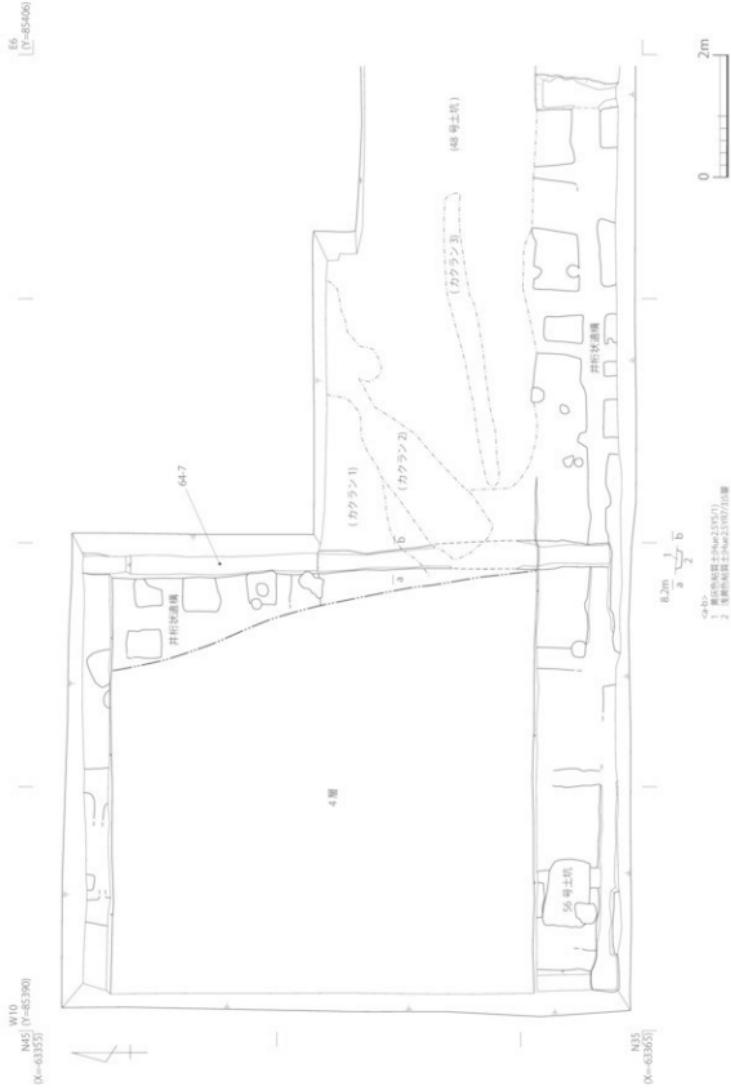
N40W10 グリッドで検出した。平面プランは長方形を呈し、長さ 1.12m、幅 0.78m を測る。内部調査は行なっていないが、平面観察より井桁状遺構を切っていることが分かった。

57号土坑（第61図・第62図1～20）

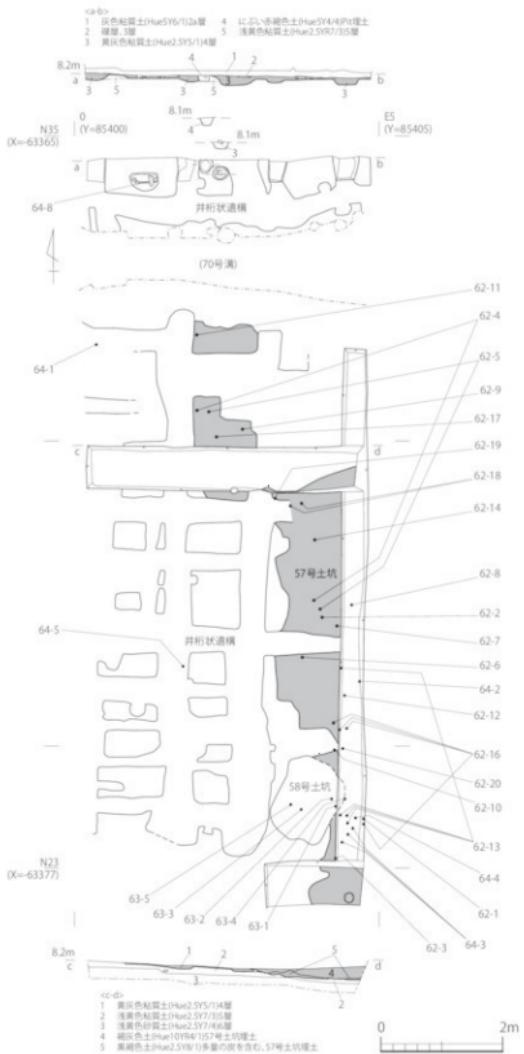
57号土坑は、N35・0～N25・0 グリッドで検出された不整形の大型土坑である。平成20・21（2008・2009）年度にサブトレンチを入れ調査されている。検出長 9.6m、深さ約 10cm を測る。埋土



第59図 55号土坑実測図 ($S = 1 : 30$)

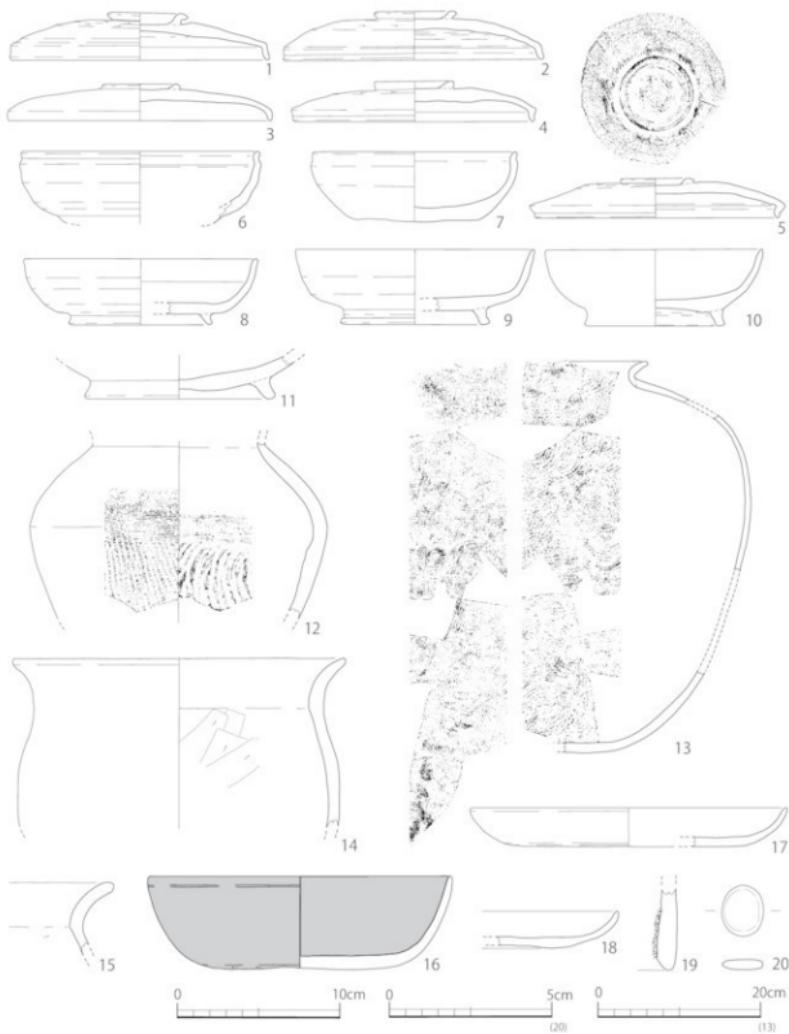


第60図 56号土坑、井桁状遺構実測図 ($S = 1 : 80$)

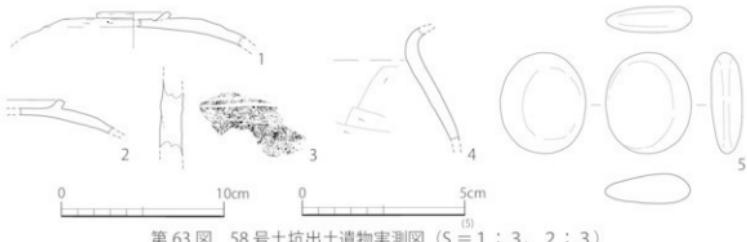


第61図 57号・58号土坑、井桁状遺構実測図 (S = 1 : 80)

には炭を多量に含み、一部に被熱して赤変した上も入り込んでいた。井桁状遺構と切り合い関係があり、57号土坑が切られている。今回は57号土坑の内部調査は行なっていないが、土坑表面からは多量の遺物が出土した。遺構の時期は、出土遺物より8世紀前葉ごろと思われる。また炭化物をAMS年代測定にかけており、7世紀中葉から8世紀後葉、7世紀後葉から9世紀中葉の年代が与えられている。



第62図 57号土坑出土遺物実測図 (S = 1 : 3、2 : 3、1 : 6)



第63図 58号土坑出土遺物実測図 (S=1:3、2:3)

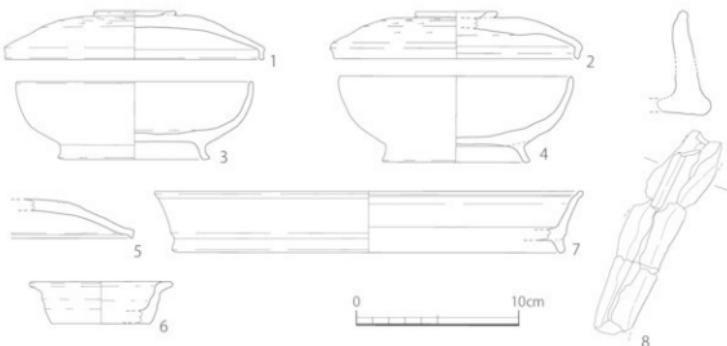
第62図1~13は須恵器、14~17は土師器である。1~5は輪状つまみを持ち、口縁端部を強く屈曲させる。いずれも天井部に回転ケズりが認められ、5は輪状つまみ周辺に糸切り痕がわずかに残る。6・7は無高台环で口縁端部が屈曲している。7は焼成が甘く、全体が磨滅している。底部外面にわずかに回転糸切り痕が見られる。8~10は高台付环である。外方に踏ん張る高台を持ち、体部は丸く立ち上がる。全面をナデで調整しているが、10の底部には回転糸切りが残る。11は壺の可能性がある。底部内面がハケ状工具で調整されている。12は短頸壺の胴部と思われる。胴部がやや張り、上半は回転ナデが、下半にはカキ目とタタキが施されている。内面には當て具痕が残る。13は甕で焼成は良好である。外面に格子目状のタタキが施され、内面には同心円状の當て具痕が確認できる。肩部付近には灰が被っている。14・15は甕で、両者とも内面の頸部以下にヘラケズりが認められる。16は环で、内外面に赤彩が残る。体部はナデ、底部外面は回転ヘラケズりを施している。口縁部に1条の沈線が引かれており、金属器模倣の可能性がある。17・18は皿である。17は内外面に赤彩を施し、底部外面は糸切り後回転ヘラケズりで調整している。18は風化が著しく、かろうじて内外面に赤彩が確認できる。調整は不明である。19は移動式窓の底部と思われる。底部付近が赤く被熱しており、内面には鉄滓が付着している。20は頁岩製轄石である。

58号土坑（第61図・第63図）

57号土坑と重複してN25・0グリッドで検出した。内部調査を行なっていないため、切り合い関係は不明である。平面は隅丸方形を呈し、長さ1.36m、幅1.0mを測る。時期は8世紀前葉と推測される。第63図1・2は輪状つまみの付く蓋である。天井部に回転ケズりが残る。3は長頸壺の頸部と思われ、2条の沈線が横走する。4は土師器で、甕の頸部である。5は大型の轄石で雑石製と思われる。

井桁状遺構（第60図・第61図・第64図）

N45W10~N25・0グリッドで検出した。南北方向の溝と東西方向の溝が格子状に交差した遺構で、「井桁」に似ることから井桁状遺構と呼ばれている。昭和44（1969）年度調査区C区で最初に検出され、その後平成19（2007）年度に再調査が行なわれている。今回の調査では、井桁状遺構の時期及び性格を探るために、N34~35ライン、N36ライン、E4~5ライン、W2ラインの掘削を行なった。東西溝と南北溝は切り合い関係を確認できず、一連の遺構と思われる。幅は25cm~45cmで深さは約10cmである。逆台形状に掘り込まれ、埋土には4層が入り込んでいた。底面レベルは8.02~8.10mで、東西南北ともにほぼフラットであるが、平成19（2007）年度調査区では底面レベルが8.2~8.3mであったことから、東に向かって傾斜していることがわかる。水流や木枠の痕跡は見られず、素掘りであったと思われる。70号溝、48号・56号・57号土坑と切



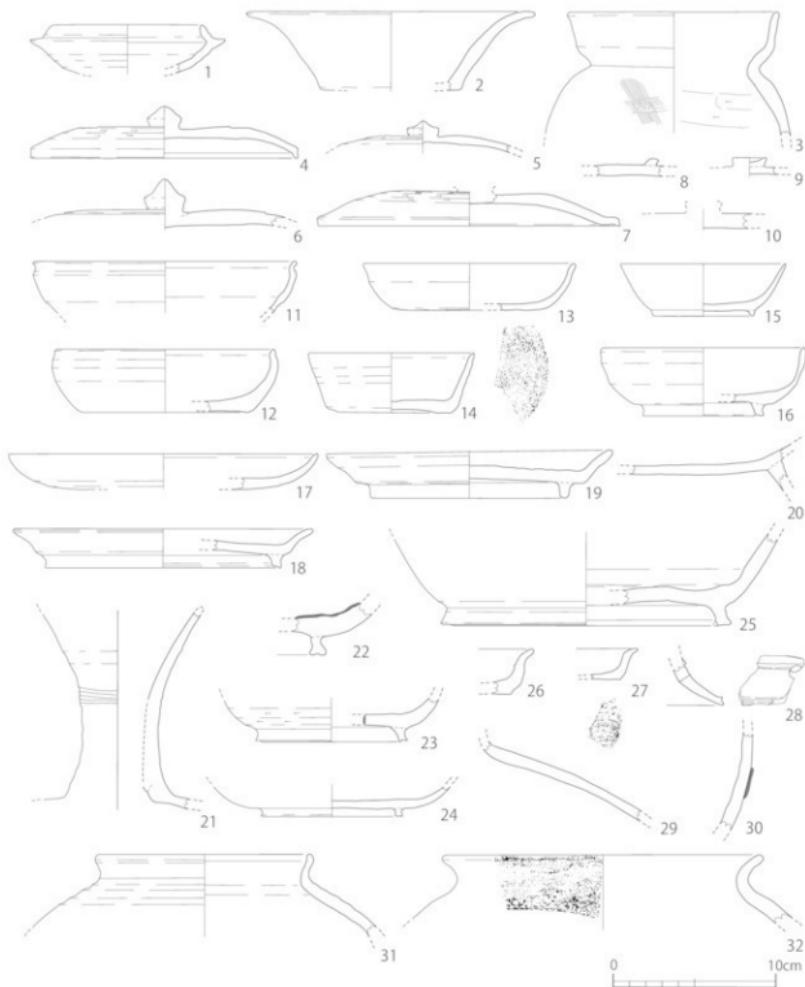
第 64 図 井桁状遺構出土遺物実測図 ($S = 1 : 3$)

り合い関係があり、70号溝、48号・56号土坑に切られ、57号土坑を切っている。時期は、出土遺物から8世紀後葉以降と思われる。

第64図1～6は須恵器である。1・2は蓋で、いずれも輪状つまみを持ち、天井部は回転ケズリが施されている。口縁端部付近のみ発色が異なる。3・4は体部が丸く立ち上がる高台付環である。3は内面に墨痕と研磨痕が見られ、転用硯として用いられたと推測される。また高台内側と外縁部にも墨痕が認められる。底部外面に静止糸切り痕が残る。4は底部外面に回転糸切り痕が残る。1～4はいずれも国庁第3形式に相当し、57号土坑からの混入品と考えられる。5は口縁端部に凹線状の窪みを作出した蓋である。天井部付近に回転ケズリが認められる。6は灯明皿形土器である。油煙の付着は認められない。7は土師器の高台付皿である。体部が直線的に立ち上がり、口縁端部内面に1条の沈線が施されている。8は移動式竈の底部である。全面をヘラケズリで調整している。

2) 東調査区4層出土遺物 (第65図～第67図)

東調査区4層からは、古墳時代中期から古代の遺物が出土している。第65図1～3は古墳時代の遺物である。1は出雲4期の須恵器環で底部付近に回転ケズリが認められる。2・3は土師器である。2は高环もしくは鼓型器台の可能性があり、全面が風化している。3は二重口縁を持つ甕で外面にハケ目、内面にヘラケズリが施されている。4～32は古代の須恵器である。4～10は蓋で、4～6は宝珠つまみを持つ。4は天井部をヘラケズリ後にナデ調整しており、口縁端部は弱く屈曲する。国庁第4形式頃と思われる。7はつまみが欠損しているが、宝珠もしくはボタン状つまみが付くと思われる。口縁端部内面に浅い窪みを設けている。口径は18.8cmと大型で国庁第4～5形式に相当する。8は輪状つまみの一部が残存しており、内面は研磨されている。9はボタン状つまみが付く。10は焼きが甘く、全体が風化している。11～14は無高台環である。11は厚さが薄く、口縁端部が強く屈曲する。12は底部外面に回転糸切り痕がわずかに残る。13は口縁が外傾する環で、底部外面に静止糸切り痕が認められる。14は体部が直線的に立ち上がる。底部外面には回転糸切り痕が確認できる。15・16は高台付環である。15は焼成が甘く、全体が風化している。16は全面をナデで調整している。17は皿である。体部は丸く立ち上がり、底部外面にヘラケズリの痕跡が認められる。18・19は高台付皿と思われる。口縁部が大きく外反し、高い高台が取りつく。底部には回転糸切り痕が認められる。20は高台付きの皿もしくは環である。底部



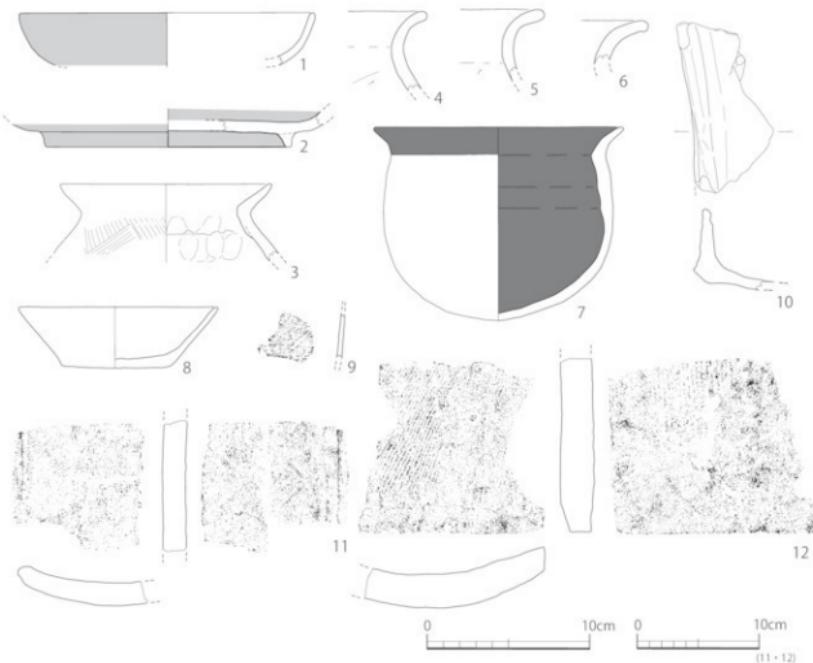
第65図 東調査区4層出土遺物実測図(1) (5=1:3)

外面に墨痕が付着している。21は長頸壺の頸部で、3条の沈線が巡る。肩部開口部に頸部を差しみ、粘土紐を積み上げて成形する粘土紐積み上げ法で作られている。接合部には粘土を継ぎ足して補強している。22～25は壺もしくは瓶類の可能性がある。22は底部内面に漆が付着する。23は底部の破面に漆が認められる。25は底部外面に、重ね焼き痕と耕縫のような痕跡が認められる。26・27は灯明皿形土器である。27は静止糸切りが残る。28は脚部で突帯と円形のスカシを持つ。器種は不明だが、高壺の可能性がある。29・30は壺もしくは壺と思われる。29は内面に研磨痕

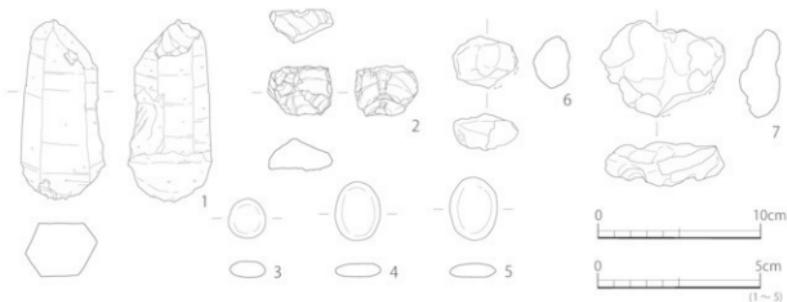
が認められる。30は外面に漆が付着している。30・31は腹もしくは短頸壺と思われる。両者とも口縁部から胴部にかけて回転ナデが施されている。

第66図1～8は土師器である。1は皿で外面に赤彩が残る。2は高台付皿と思われ、内外面に赤彩が認められる。風化のため調整は不明である。3～7は甕である。3は外面にハケ目、内面に指頭圧痕が残る。7はN45E10グリッドで完形に近い状態で出土した。口縁を強く外反させ、底部は丸く取まる。外面には多量の煤が、内面には口縁から底部にかけて黒漆が付着している。漆の小出し用の容器か、漆を煮詰めるクロメ作業用の甕と思われる。8は10世紀代の环で、底部に回転糸切り痕が見られる。混入品と思われる。9は製塩土器である。内面に布目圧痕が残る。10は移動式竈である。11・12は平瓦で、11は分類不明の格子タタキと離れ砂が、12は繩タタキ1と離れ砂がそれぞれ確認される。12は四面に明瞭な糸切り痕と布目圧痕が残り、下端部に指紋が残っている。焼成はどちらも硬質である。

第67図1～5は玉作関係遺物である。1は水晶の原石で、六角柱状を呈する。頂部に剥離痕が認められ、試し割りの痕跡と思われる。2は水晶製丸玉の未製品である。実測図左面は背面で側縁から細かな剥離を入れて成形している。実測図右面は主要剥離面で、下方より加撃されている。両面穿孔の痕跡が残り、上部直径5mm、先端部直径2mmの錐状工具が用いられている。上方からの穿孔は中央まで届いているが、下方からの穿孔は途中で止まっており、この時に欠損したと思われ



第66図 東調査区4層出土遺物実測図(2) (S=1:3、1:4)

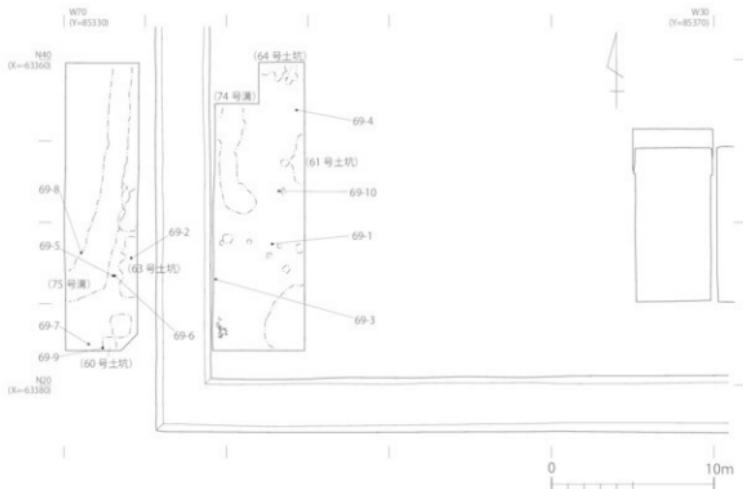


第67図 東調査区4層出土遺物実測図（3）（S=1:3、2:3）

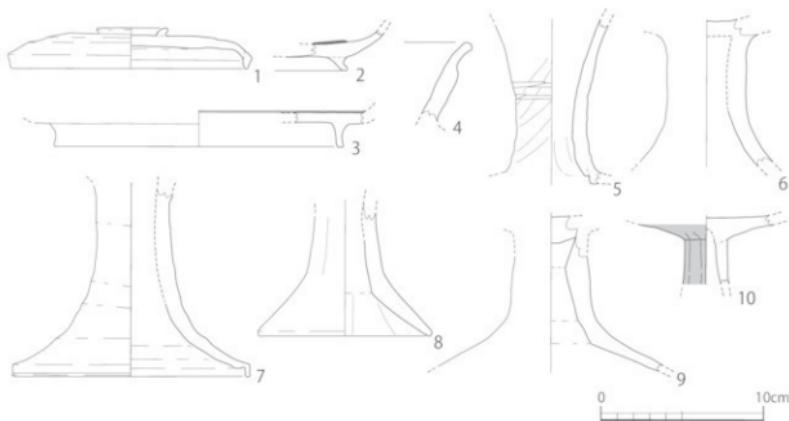
る。側縁部から細かな剥離を入れ成形している。3はカド石製の平玉、4・5は頁岩製の碁石である。いずれも成品と思われる。6・7は楕円形鍛治滓である。7は内部に1cm大の木炭痕が多く見られる。なお掲載はしていないが、内面に漆が付着した土師器口縁の破片がN40E10 グリッドより4点まとまって出土した。内面に漆が付着し、口縁外面にも一部漆が付着する。『史跡出雲国府跡7』第59図2と同一個体と思われ、内外面に赤彩を施すことから8世紀代の資料と思われる。完形に近い資料で、付近に遺構が存在していた可能性がある。

3) 西調査区5層出土遺物（第68図・第69図）

5層からは8世紀前葉を主体とした遺物が出土している。5層の掘り下げは一部しか行っていないため、出土遺物は少ない。遺物はサブトレンチ出土のものに加え、5層に入り込んでいた遺物を回収している。第69図1～7は須恵器である。1は輪状つまみを持つ蓋で、口縁端部は強く屈曲している。

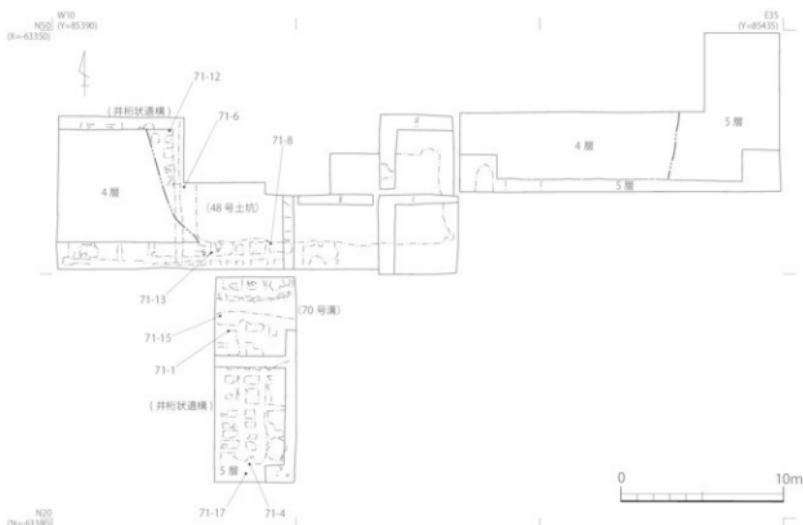


第68図 西調査区5層上面遺物出土状況（S=1:300）



第69図 西調査区5層出土遺物実測図 ($S = 1 : 3$)

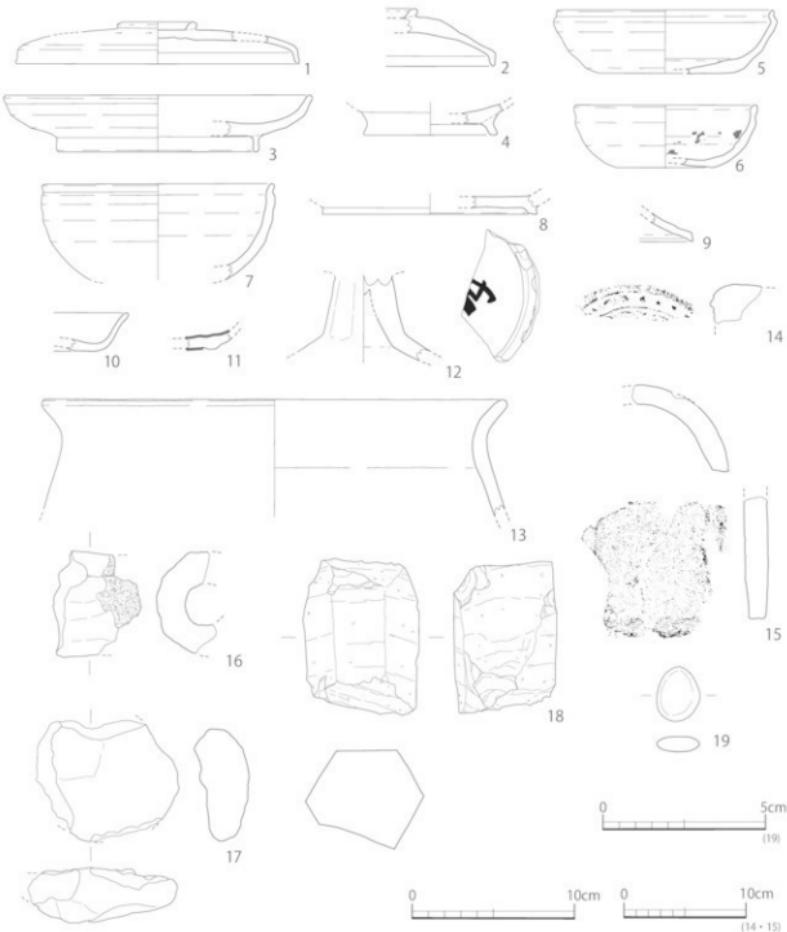
曲する。天井部には回転ケズリが残り、それ以外は回転ナデで調整している。2は高台付壺もしくは壺と思われる。底部内面に漆が付着している。3は高台付皿で、内面に墨痕と研磨痕が認められるため、転用硯と判断される。4は鉢の可能性がある。5は長頸壺の颈部で、外面に絞り目が残り頸部中央には2条の沈線が施されている。内面には漆が付着している。6・7は高壺の脚部である。6は破面に漆が付着している。8～10は土師器の高壺脚部で、10は外面に赤彩が残る。



第70図 東調査区5層上面遺物出土状況 ($S = 1 : 300$)

4) 東調査区 5・6層出土遺物（第 70 図・第 71 図）

東調査区 5・6 層からは主に 8 世紀前葉ごろの遺物が出土している。西調査区同様、一部しか掘削を行なっていないため、出土遺物は多くない。第 71 図 10 以外は全て 5 層から出土している。第 71 図 1～10 は須恵器である。1・2 は蓋で輪状つまみを持つ。3 は高台付皿、4 は高台付杯、5～7 は無高台杯である。3 は体部が丸く立ち上がり、高い高台が垂直に取りつく。5 は口縁部を強く屈曲させ、端部を垂直にたち上げている。底部外面には回転糸切り痕が認められる。6 は内面に漆が付着しており、底部外面にはナデで調整されている。8 は墨書き器である。高台付皿の底部中央に墨書きが施されている。駁文は不明だが、「内」の可能性がある。9 は蓋の口縁部だが、時期が



第 71 図 東調査区 5・6 層出土遺物実測図 (S = 1 : 3、2 : 3、1 : 4)

新しく混入品と思われる。10は6層から出土した。皿で全面をナデ調整している。11～13は土師器である。11は壺と思われ、内外面に漆が付着している。底部外面には回転糸切り痕が残る。12は高杯である。全体的に風化しているが、一部に面取りが見られる。13は甕で頸部内面にヘラケズリが確認できる。14・15は焼成が軟質の瓦である。14は軒丸瓦で、珠文帯と唐草文の一部が残る。出雲国分寺2類に相当する。15は丸瓦の広端部である。凹面に布目压痕が残る。焼成は甘い。16は羽口で、先端部が被熱・滓化している。17は椀形鍛冶津である。平面は梢円形で、下面は緩やかな皿状を呈する。18は水晶の原石、19は雜石製の碁石である。

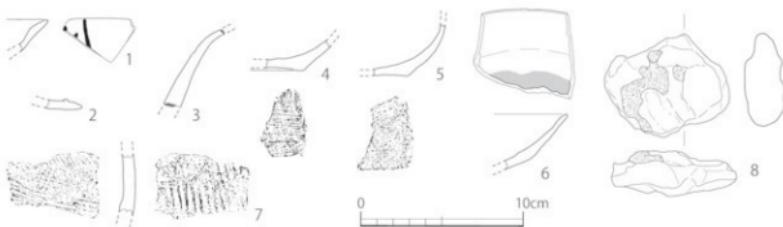
5) 小結

4層以下の遺構は、出土遺物から大倉原Ⅰ期と大倉原Ⅱ－Ⅰ期に対応させることができる。

大倉原Ⅰ期 57号・58号土坑は8世紀前葉頃に掘削されている。このうち57号土坑は大型の土坑で、内部に多量の炭と遺物を含む。平面形は不整形を呈するが、これは炭の範囲をプランとして追っているためであって、本来のプランは不明である。ただし、E3ラインでは南北に向かって直線的なプランが追えることから、実際の掘り込みは軸を南北に持つ長方形であった可能性が高い。類似の土坑としては、大倉原地区で14号^a・24号土坑^b、樋ノ口地区でSB013・014・015^cがあげられる。いずれも国府第3形式の遺物と炭を多量に含む。24号土坑以外は軸を南北方向に持ち、形状や規模もよく似ている。大倉原地区では廐棄土坑、樋ノ口地区では金属器生産関係の工房と判断されている。57号土坑は内部調査を行なっていないため、廐棄土坑か工房かを判断することはできないが、炭や焼土とともに一括性の高い遺物が多量に出土していることから、短期間に形成された遺構と推測される。

大倉原Ⅱ－Ⅰ期 井桁状遺構は、昭和44（1969）年度と平成19（2007）年度にも検出されている。今年度の調査と合わせると南北24m、東西20mにも及ぶことが分かった。昭和の調査時には、溝には新古があり、南北溝が新しく東西溝が古いとされていた。だが、平成の調査では切り合い関係は確認できなかったため一連の遺構と判断している。今回、井桁状遺構の性格を探るために内部調査を行なったが、性格を特定することはできなかった。これまでの調査で判明した所見は、①埋土が上層の整地土（4層）と同じ、②面的にかなりの広がりを見せる、③東西溝が深く南北溝が浅い、④水の流れたような痕跡はない、⑤底面レベルは地形に沿って東に行くほど低くなる、⑥木や石を敷いている痕跡はない、などである。従来、井桁状遺構はその特殊な形状から畑の可能性が指摘されていた。しかし、長岡京垂水地区や大宰府の類似遺構との比較や、国司館との位置関係から畑の可能性は否定されている。そこで注目したいのは、①の調査所見である。この所見より、井桁状遺構は整地をする時点で開口していたことが読み取れ、整地土（4層）と一連の遺構である可能性が指摘できる。よってここでは、例えば地盤改良のような整地作業に関連する遺構と考えたい。

この他、注目すべき成果として73号溝があげられる。これまで、73号溝は大倉原Ⅱ－Ⅰ期の区画溝とされてきたが、今回73号溝が整地土（4層）の下面から検出されたことで、大倉原地区の変遷に新たな知見が加えられた。73号溝は、規模や時期などから4号溝・SD034と連結し、国司館を開む区画溝であったと推測されている。この4号溝は、国司館の建物が掘立柱から礎石に建て変わる際に人為的に埋め戻されており、その後に56号溝がつくられている。よって、宮の後地区で検出されている整地土（4層）も、礎石建物へ変わる際の造成土であった可能性が考えられ、国司館における礎石建物への建て替えは、かなり大規模な作業が伴っていたと推測される。



第72図 撥乱、排土出土遺物実測図 ($S = 1 : 3$)

7. その他の層位

1) その他の層位出土遺物（第72図）

第72図は排土、撥乱土、埋戻し土より出土した遺物である。1～5は須恵器である。1は皿と思われ、体部外面に墨痕が残る。墨書き器の可能性がある。2は托、3は長頸壺の頸部と思われる。3は破面に漆が付着している。4・5は环で、どちらも底部外面に静止糸切り痕を残す。6は碗の内面に顕著な削痕が見られ、赤色顔料が付着している。顔料は蛍光X線分析を行なった結果、水銀朱の可能性が指摘されている。過去の調査でも、内面に水銀朱の付着した東海系の山茶碗が出土しており（『史跡出雲国府跡3』第25図3）、時期は11世紀後半から12世紀とされている。今回の資料も、胎土や色調がよく似ているため東海系の山茶碗と思われる。7は須恵器系中世陶器で外面に平行タタキ、内面に多方向の筋目が入る。珠洲焼の壺の可能性がある。8は椀形鍛冶津である。上面は平坦で羽口先の溶融物が付着する。

第2節 第55トレーニングの調査

1. 調査区の設定と概要

第55トレーニングの調査は、風土記の丘地内におけるトイレ改修工事の立会調査として平成22(2010)年6月16日に実施された。トレーニングは長さ3.7m、幅90cmで、史跡公園南東の道路上に設定された。道路の路盤面から約70cm掘り下げたところで中世の遺構面を確認した。遺構は、黄灰色の基盤層にピット4基を確認し、これより下の掘削は行なっていない。中世の遺構面が確認されたことから、遺構面上に10cmの真砂層を入れ、保護を図った上で埋め戻している。

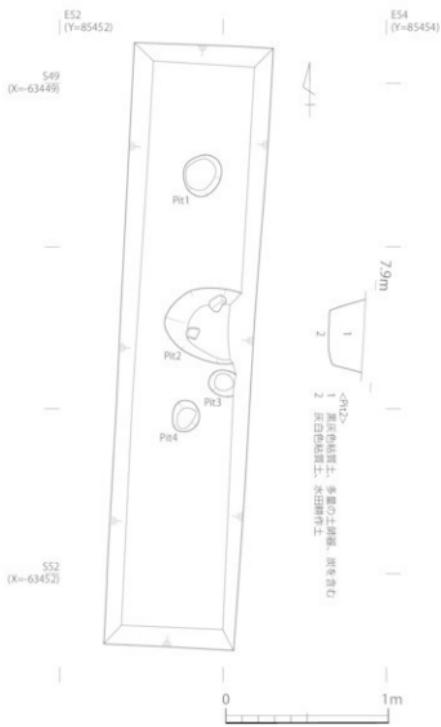
2. 調査成果

1) 検出した遺構（第73図）

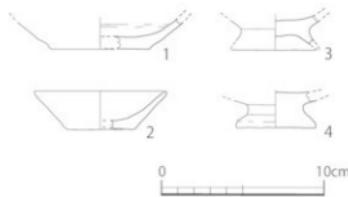
遺構はピット4基が検出された。Pit1・3・4は小型で直径は20cm前後である。Pit2は平面楕円形で深さ22cmである。埋土には多量の土師器片が含まれていた。時期は出土遺物から12世紀ごろと思われる。

2) 出土遺物（第74図）

第74図1～4は土師器で、全てP2より出土した。1は环で底部外面に回転糸切りを残す。2は小型の环で、体部が直線的に外傾する。底部に糸切り痕が見られる。3は足高台付环、4は柱状高台付环である。4は脚部底面に回転糸切り痕が確認される。



第73図 第55トレンチ実測図 ($S = 1 : 30$)



第74図 第55トレンチ出土遺物実測図 ($S = 1 : 3$)

- 1 緑釉陶器の产地と年代は大阪大学高橋照彦氏の御教示による
- 2 島根県立歴史文化調査センター阿部賀治氏の御教示による
- 3 島根県教育委員会 2004『史跡出雲国府跡-2』
- 4 島根県教育委員会 2005『史跡出雲国府跡-3』
- 5 島根県教育委員会 2011『史跡出雲国府跡-7』
- 6 島根県教育委員会 2003『史跡出雲国府跡-1』
- 7 註1に同じ
- 8 註5に同じ
- 9 註2に同じ
- 10 島根県教育委員会 2008『史跡出雲国府跡-5』

第4章 自然科学分析

第1節 出雲国府跡発掘調査（平成22年度）に伴うAMS年代測定

渡辺正巳（文化財調査コンサルタント株式会社）

はじめに

本報告は、文化財調査コンサルタント株式会社が島根県教育庁埋蔵文化財調査センターから平成22年度発掘調査（宮の後地区）において検出された遺構及び地層の堆積時期を明らかにする目的で受託し、実施・報告した調査報告書の概報である。

また、出雲国府跡は島根県東部 松江市大草町地内に立地する遺跡である。

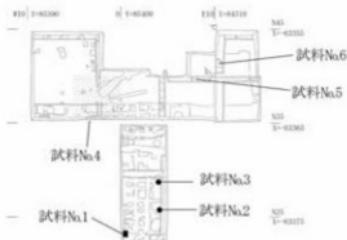


図1 調査トレンチ平面図（試料採取地点）

試料について

調査トレンチ平面図（図1）上に、試料採取地点を示す。試料の詳細は、表1に示す通りである。

AMS年代測定方法・測定結果

前処理として塩酸による酸洗浄の後に水酸化ナトリウムによるアルカリ処理、更に再度酸洗浄を行った。前処理の後、二酸化炭素を生成、精製し、グラファイトに調整した。14C濃度の測定にはタンデム型イオン加速器を用い、半減期：5568年で年代計算を行った。暦年代較正にはOxCal ver. 4.15 (Bronk Ramsey, 2009) を用い、INTCAL09を利用した（CNS分析で海成（汽水成）層の可能性がある試料についてMARINE09による較正を実施した。）。

また、測定結果を表1に示すと共に、図2に暦年較正結果を示す。

表1 試料の詳細及びAMS年代測定結果

試料 試料No.	種別・状態・重量(g)	採取地点	測定年代 [†] (yrBP ± 1σ)	δ ¹⁴ C (‰)	暦年較正用年代 (yrBP ± 1σ)	補正年代 [‡] (yrBP ± 1σ)	暦年較正年代		測定番号 (PLD-)
							1σ 暦年年代範囲	2σ 暦年年代範囲	
1 0.3488	炭化材 乾燥 N250 底温まり 1A 100816	宮の後地区	1190 ± 20	-27.92 ± 0.11	1192 ± 19	1241 ± 19	AD783 - 790(6.1%) AD810 - 877(62.1%)	AD777 - 887(95.4%)	17367
2 1.0452	土中炭 乾燥 N30.0 SX03 No. 1146 100921	宮の後地区	1335 ± 20	-27.79 ± 0.11	1334 ± 20	1381 ± 20	AD657 - 681(68.2%) AD747 - 757(7.3%)	AD650 - 695(86.9%) AD677 - 783(90.1%)	17369
3 2.8173	土中炭 乾燥 N25.0 SX03 No. 1147 100921	宮の後地区	1255 ± 20	-27.39 ± 0.12	1254 ± 20	1294 ± 20	AD694 - 748(57.2%) AD765 - 775(11.0%)	AD789 - 811(4.7%) AD847 - 853(0.6%)	17368
4 0.7068	炭化材 乾燥 N40W4.5 層 100827	宮の後地区	1170 ± 20	-24.54 ± 0.13	1169 ± 19	1162 ± 20	AD782 - 789(5.1%) AD811 - 847(26.8%) AD856 - 894(36.3%)	AD777 - 898(86.8%) AD921 - 944(8.6%)	17414
5 0.3381	炭化材 乾燥 N45E5 SX02 17 H 1.2 100817	宮の後地区	1280 ± 20	-27.35 ± 0.12	1279 ± 21	1318 ± 21	AD684 - 719(38.4%) AD742 - 769(29.8%)	AD674 - 773(95.4%)	17413
6 0.9101	炭化材 乾燥 N45E10 SX02 北北 17 H 3層 100818	宮の後地区	1280 ± 20	-27.27 ± 0.15	1278 ± 20	1316 ± 20	AD685 - 720(38.3%) AD742 - 769(29.9%)	AD675 - 773(95.4%)	17412

[†] δ¹⁴C補正無年代 [‡] δ¹⁴C補正年代

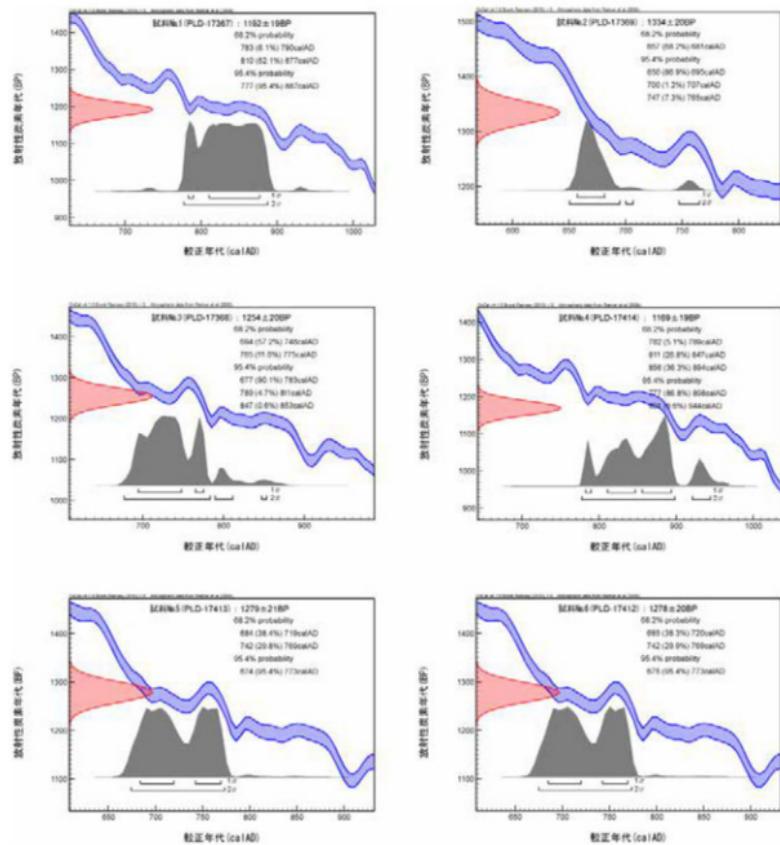


図2 历年較正結果

年代測定値について

図5-1に、得られた年代値（確率曲線と 3σ までの年代値）を年代軸に並べて示す。

試料No.2は出土遺物から推定される年代観と誤差の範囲で一致するもののやや古い値が得られ、試料No.5では数十年古い値が得られた。これら2試料を除く4試料は、出土遺物から推定される年代観と誤差の範囲で一致し、矛盾のない結果であった。

木材はその性格上、形成層直下（最外層）の細胞（年輪）が最も新しく、中心に向かって古くなる。一般的な樹木でも数十年は生育していることから、得られる年代は中心部と縁辺部で数十年は離れることになる。考古学的に期待される年代は伐採年（あるいはこれに近い年代）であり、最外層から得ることができる年代である。

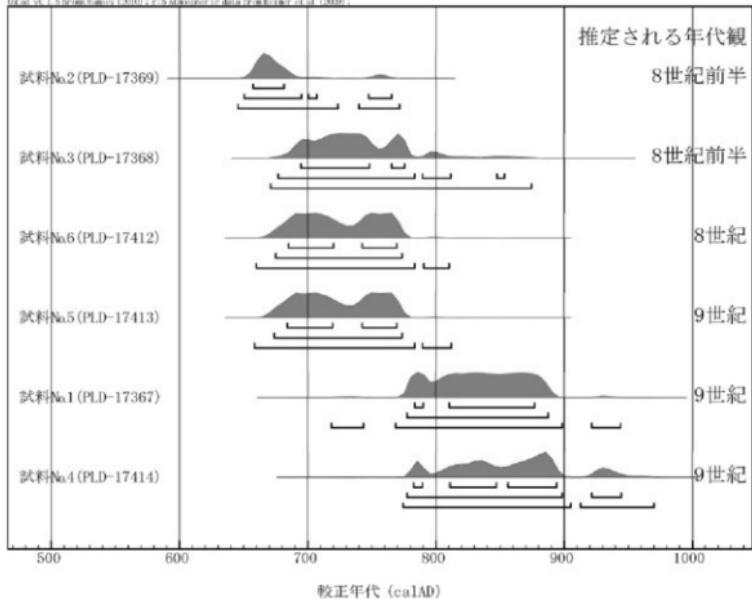


図3 較正年代（確率曲線と3σまでの年代値）の分布

しかし、前述のように木片を試料とした場合、数十年の差が普通に生じることになる。

以上のように、今回の試料No.2、5で認められた差は一般的に起こりうる現象であり、出土遺物から推定される年代観を否定するものではない。

参考文献

- Bronk Ramsey, C. (2009). Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360. Reimer, P. J., Baillie, M. G. L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J. W., Blackwell, P. G., Bronk Ramsey, C., Buck, C. E., Burr, G. S., Edwards, R. L., Friedrich, M., Grootes, P. M., Guilderson, T. P., Hajdas, I., Heaton, T. J., Hogg, A. G., Hughen, K. A., Kaiser, K. F., Kromer, B., McCormac, F. G., Manning, S. W., Reimer, R. W., Richards, D. A., Soutter, J. R., Talamo, S., Turney, C. S. M., van der Plicht, J., & Weyhenmeyer, C. E. (2009). IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP. Radiocarbon, 51(4), 1111-1150.

第2節 出雲国府跡出土赤色顔料付着遺物について

島根県埋蔵文化財調査センター 上山晶子

1.はじめに

出雲国府跡から出土した遺物に赤色顔料が付着していた。

土器をはじめとする遺物に付着している赤色顔料の種類としては、水銀朱（硫化水銀： HgS ）、ベンガラ（酸化第二鉄： Fe_2O_3 ）、鉛丹（四酸化三鉛： Pb_3O_4 ）がある。この遺物の性格を知る手がかりとして実体顕微鏡による観察と蛍光X線分析による元素定性分析を行なった。

2. 試料

宮の後地区出土の中世須恵器（72図-6）1点の顕微鏡観察と蛍光X線分析を行なった。

調査担当者によると、東海系の山茶碗のことである。

3. 顕微鏡観察

実体顕微鏡にて落射光、40倍の倍率で観察を行なった。

内面に細かい粒子状の粉が残存していることから、これを赤色顔料と判断した。赤色顔料は胎土に入り込むようにして残存しており、付着箇所は何かを磨ったような痕跡が残る。

4. 蛍光X線分析

エネルギー分散型蛍光X線分析による元素定性分析を行なった。

使用機器は島根県古代文化センター所有、島根県埋蔵文化財調査センター設置「エスアイアイ・ナノテクノロジー社製SEA1200VX 卓上型ケイ光X線分析計（エネルギー分散型）」である。条件は以下のとおりである。

励起電圧：50kV 管電流：管電圧による自動設定（105～486 μA）

測定時間：100秒（うち測定可能な有効時間は62～71秒）

測定範囲：直径8.0mm 測定雰囲気：大気／真空

X線管球：Rh（ロジウム） 検出器：Si半導体検出器

※当該装置はTiより原子番号の小さい元素は大気下では測定できないため、測定雰囲気を真空にして測定を行なった。水銀朱、ベンガラ、鉛丹のうち、Tiより原子番号が小さい元素は水銀朱に含まれる硫黄である。

測定箇所は土器内面の赤色顔料付着部分と、比較対照試料として外面の何も付着していない胎土の部分を測定した。

5. 結果

蛍光X線分析の結果、赤色顔料付着部分からは水銀（Hg）と硫黄（S）、鉄（Fe）が高いスペクトルピークを示した。胎土部分との比較対照の結果、胎土からも鉄の高いスペクトルピークを検出したため、鉄は埋蔵環境、あるいは胎土に由来するものと考えられる。

したがって、この赤色顔料は「水銀朱」であるといえる。

6.まとめ

水銀朱の付着状況から、この遺物に「水銀朱を塗った」というよりは「水銀朱を使って何かを行なうための容器」であるといえる。

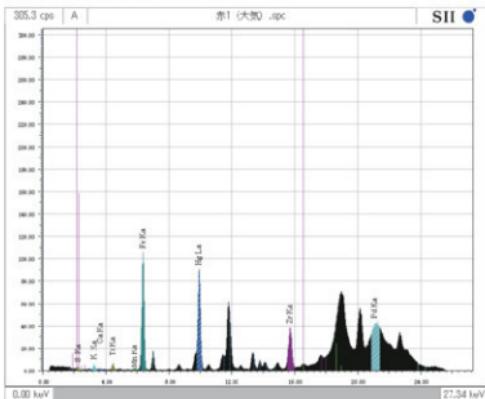
この遺物の時代よりさかのぼるが、古代の水銀朱の用途としては朱墨や絵の具といったものが考えられる。古代において朱墨は文書に朱筆として注記を残したり、押印の際の朱肉として使われることが想定されているが、正倉院文書の調査では朱筆としては水銀朱よりもベンガラや鉛丹が多用されている。朱肉としては国司の使用する国印ではベンガラが確認されており、水銀朱は国家珍宝帳に押印された天皇御璽の印肉が鉛丹と混合して使われている程度である。また、出雲国神門郡家関連の官衙遺跡として調査された古志本郷遺跡では、陶硯に「朱墨」としてベンガラが付着していることが報告されている。今回、蛍光X線分析を行なった遺物は中世須恵器とのことであり、時代は下るがこのような使用状況が続いているれば、朱墨として水銀朱が単独で使われたというよりは、絵画材料や工芸用の塗料などの「絵の具」としての水銀朱の使用が推測される。

なお、水銀朱の付着している箇所は磨ったような痕跡が残る。この擦痕は山茶碗が日常雑器としての使用の際に付着したものか、「絵の具用の皿（パレット）」として再利用された際に付着したものかは断言できない。しかし、石杵のような硬いもので磨ったような痕跡ではなく、もっと軟らかいものを磨った痕跡であろう。水銀朱の原料である辰砂鉱石を、直接石杵で擦りつぶした際に発生した擦痕とは考えにくいが、水銀朱は粒の大きさによって色味が変わるとの特性を持っている。したがって、水銀朱の使用にあたり、「調整」として水銀朱が磨られた可能性も否定できない。

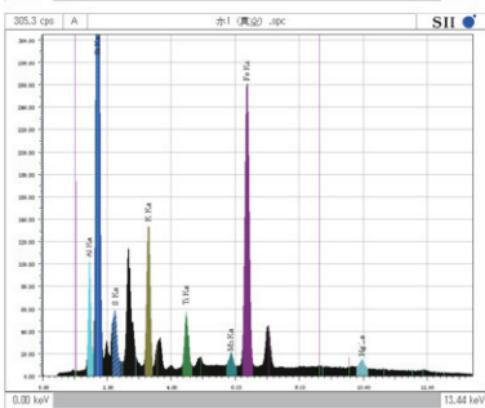
参考文献

- 成瀬正和 2004 「正倉院宝物に用いられた無機顔料」『正倉院紀要』第26号
- 宮瀧交二 2002 「朱書き土器に関する覚書」
『古代文字資料のデータベース構築と地域社会の研究』
平成11～13年度科学研究費補助金研究成果報告書 研究代表者 吉村武彦
- 国土交通省中国地方整備局出雲工事事務所・島根県教育委員会 2003
『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書16 古志本郷遺跡V』
- 成瀬正和 1991 「正倉院の“朱印”“朱筆”」『日本歴史』521号 吉川弘文館
- 武部真木 2006 「山茶碗の用途をめぐって - 摩滅痕の分析から - 」
『研究紀要第7号 愛知県埋蔵文化財センター設立20周年記念論集』
(財)愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター

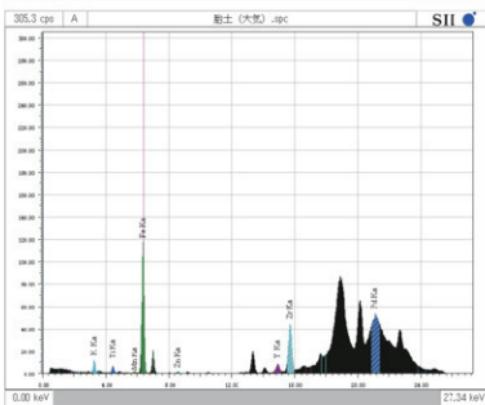
蛍光 X 線分析スペクトルデータ



赤色部分（測定雰囲気：大気）
水銀を検出



赤色部分（測定雰囲気：真空）
硫黄を検出



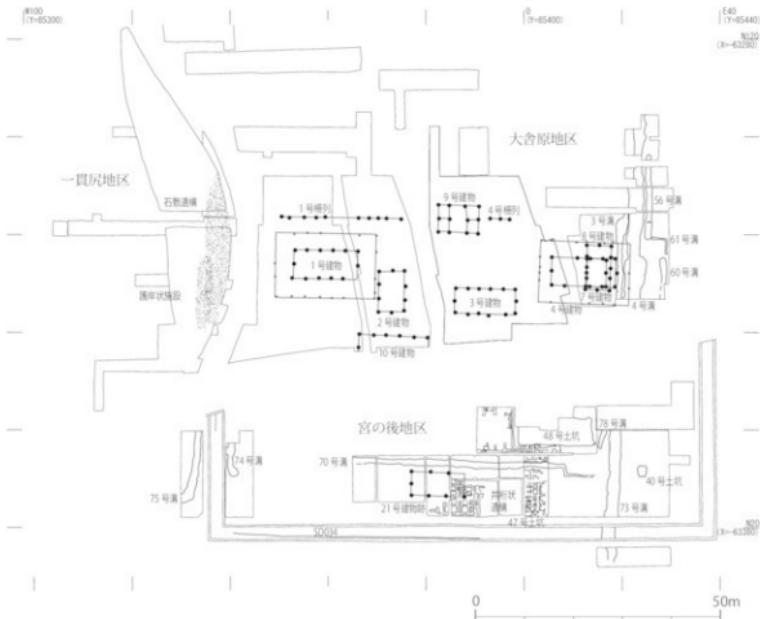
肥料部分（測定雰囲気：大気）

第5章 総括

平成19（2007）年度から始まった宮の後北区の調査は、国司館の南側の施設配置を明らかにすること及び、国府進入路の位置を確定させることを目的としてきた。ここでは、5年に及ぶ宮の後北区の調査成果についてまとめ、検討を行ないたい。

1. 国司館の区画溝について

これまで、国司館の南を区画する溝は、昭和の調査で検出されたSD034とされてきた。従って、宮の後北区は国司館の区画内に位置することになり、調査では国司館に関わる施設の検出が期待された。しかし、平成18（2006）年度の第46トレンチ調査で、SD034より北側に新たな東西溝（70号溝）が検出されたため、国司館の南限について再考の必要が生じた¹。そこで、平成19（2007）年度より国司館の南限を確定するために70号溝の内部調査を行なうことになった。結論から言うと、SD034と70号溝には時期差があり、国司館の南の区画溝は位置をずらして設置し直されていたということが分かった。両溝の出土土器を見てみると、SD034からは国府第4～5形式が²、70号溝では9世紀末～10世紀初頭の高台付皿が、それぞれ最新の遺物として出土している³。検出された層位も、SD034は73号溝との関係から整地上（4層）下面と推測されるのに対し、70号溝は整地上（4層）上面で検出されている。よって両溝が時期差をもって存在していたことは、ほぼ確実と言える。こうした区画溝の付け替えは、大倉原地区でも確認されている。国司館の東の境



第75図 大倉原・一貫戸・宮の後地区主要遺構配置図 (S= 1 : 1000)

とされる4号溝は国庁第4～5形式の時期に機能し、4号溝が埋められた後に、その東側に56号溝が新設されている⁴。56号溝の時期は、出土遺物から国庁第5形式ごろと思われる。

次に、各溝の繋がりについて見てみる。4号溝は、出土遺物や位置関係から見て73号溝と接続する可能性が高く、さらに73号溝はSD034と繋がることが想定される。その場合、4号溝=73号溝=SD034で構成される方形区画溝が復元され、その規模は東西約96m(320尺)にも及ぶ。一方、4号溝に後続する56号溝は、直接は繋がらないものの同じ第5形式を出土する74号溝が東西の対になると考えられる。74号溝は南北溝で南端が東に屈折するため、国司館の西の区画溝であった可能性が高い。56号溝と74号溝が国司館の東と西を画する溝とするならば、時期や溝の規模からみて、70号溝が南の区画溝として繋がることが予想される。よって56号溝=70号溝=74号溝と連結し、4号=73号溝=SD034に代わる新しい段階の方形区画溝と位置付けることができよう。これを肯定した場合、新段階の方形区画溝は古段階のものに比べて東へ約3m(10尺)ずれることになり、南限も北へ約15m(50尺)狭まることが想定される。

ただし、各溝の位置関係が必ずしもうまく対応する訳ではない。例えば、56号溝は4号建物跡の庇の手前で収束してしまい、南へ続かない。また70号溝は東に1度傾斜しているため延長ラインを西調査区に伸ばすと、74号溝南端より約4m北にずれることになってしまう。ここで注目したいのが、70号溝の東端が鉤状にクランクしている点である。このクランクが西端にもあったと仮定して、政府SB020の中軸線を中心に折り返してみると、74号溝の南端に合う位置に到達する。同様の視点で56号溝を見てみると、クランク状に曲がる61号溝が56号溝に接して検出されており、さらにその南の延長には60号溝がある。溝がクランク状に曲がる理由は不明だが、同様の形状の溝は宮の後南区でも多数検出されているため⁵、出雲国府では一般的な溝形態であったのかかもしれない。

以上により国司館の区画溝は、4号溝=73号溝=SD034で構成される方形区画溝古段階と、56号溝=70号溝=74号溝から成る新段階に整理されることが分かった。時期は、出土土器や層位から古段階が国庁第4～5形式、新段階が国庁第5形式ごろを想定したい。

2. 国庁進入路について

出雲国府の政府は国府内の南端に位置し、また政府のすぐ南には意宇川が流れているため、朱雀路を設けることができない。そこで国庁への進入路は、国司館や曹司の東側を南下し、意宇川の手前で迂回して南門に至るルートが想定されてきた⁶。しかし、現在までに国庁進入路の推定地に明確な古代道は見つかっておらず、今回の調査でも同様の結果に終わった。現状では国庁進入路の位置を確定することは難しいが、これまでの調査からいくつかの興味深い知見が得られている。

一つ目は、国庁進入路の推定地に古代の遺構がほとんど確認されていない点である。唯一40号土坑が古代の遺構としてあげられるが⁷、上記の方形区画溝新段階の復元案では区画推定ラインの内側に位置することになるため、路面に構築される状況にはならない。よってこの場所は、古代においては空閑地であった可能性が高く、何らかの理由で遺構をつくらない状況が存在したと考えられる。二つ目は、堂田地区で検出された中世の硬化面である⁸。この硬化面は、隣接して並行する2号溝と合わせて南北に走る道路遺構と推定されている。この道路遺構は、宮の後地区では検出されていないが、松江市教育委員会が行なった六所脇地区的調査では、3mの間隔をあけて並行する2条の溝が検出されており⁹、時期的に見てこれらと繋がる可能性がある。三つ目は、今回の調査

でも検出された近世以降の道路状遺構である。小結でも述べたように、第38トレンチの調査では近世の道路が数次にわたって作りかえられているとされ、古い地割を伝えている可能性が指摘されている。

以上の所見は、いずれも国府進入路の存在を直接的に示すものではない。だが、間接的な状況証拠として積み上げてみれば、この場所に古代の道路が存在することを示す有力な手掛かりとなる。今回の調査では古代道と断定するには至らなかったものの、この場所を引き続き国府進入路の有力な候補地として重視しておくべきだろう。

3. 宮の後北区における国司館の施設配置について

宮の後北区の調査の最大の成果は、大倉原II-1期と大倉原II-2期の遺構が層位的に分離されたことである。宮の後北区で検出された遺構と層位を、小結で検討してきた大倉原地区の変遷に照らし合わせてまとめると以下のようになる。

大倉原I期 57号・58号土坑

大倉原II-1期 73号溝

— 整地土（4層）・井桁状遺構 —

大倉原II-2期 21号建物、70号・74号・75号溝、40号・47号・48号土坑

大倉原II-3期 71号・76号溝、13号井戸、14号井戸、49号土坑、SX05

大倉原III期 ピット群（？）

遺構面は整地土（4層）を境に上下に分かれ、整地土直後の時期は大倉原II-2期に相当する。大倉原II-2期は、国司館の掘立柱建物が礎石建物へと建て変わる時期で、整地土（4層）はこの建替えに合わせて敷かれたと推測される。最後に、宮の後北区と大倉原地区の変遷を合わせて、全体の変遷を概観してまとめとしたい。

大倉原I期 大倉原地区で、南北方向に主軸を持つ建物が作られる時期である。3号溝と石敷遺構に囲まれるI-1期、4号溝=73号溝=SD034で区画されるI-2期に分けられる。I-1期には7号・8号建物跡や14号・24号土坑、I-2期には2号建物、祭祀土坑である5号土坑が構築される。遺物はI-1期から国府第3形式、I-2期からは国府第4形式の土器が出土するほか、墨書き器や硯、玉作関連遺物などが見られる。この時期の宮の後北区は、整地土（4層）の掘削を部分的にしか行なっていないため遺構が少ない。しかし、国府第3形式の土器はかなりの量が出土しているため、実際は多くの遺構が存在していたと考えられる。57号土坑からは国府第3形式と共に多量の炭化物が出土しており、金属器生産に関わる遺構と推測される。

大倉原II-1期 東西方向に軸を持つ掘立柱建物が建つ時期で、引き続き4号溝=73号溝=SD034で区画される。区画内には2間×5間の1号・4号建物跡が、左右対称の位置に配置されている。1号・4号建物跡の間には2間×5間の3号建物跡が、北限には八脚門に復元される9号建物跡が建てられる。これらの建物は、「介」や「館」の墨書き器から介の国司館に関わる施設と推定されている。宮の後北区では、大倉原I期と同様、整地土（4層）の掘削を行なっていないため遺構の数は少ない。唯一、73号溝が該期の遺構と考えられる。

大倉原II-2期 掘立柱建物が礎石建物へと建て替えられる時期である。前段の区画施設は全て埋められ、新たに56号溝=70号溝=74号溝で区画される。1号・4号建物跡は四面庇付の礎石建物に建て替わり、引き続き国司館として機能していたと推測される。宮の後北区では、大規模

な整地作業の後に建物や区画溝が作られる。70号溝はSD034より北側に掘られ、国司館の範囲が若干狭くなっている。国司館の西側には、別の施設群を画する75号溝も構築されている。宮の後北区では、区画内部に明確な建物は見当たらないが、48号土坑が建物関係の遺構であるとするならば、国司館の施設が区画内全体に配置される様子が読み取れる。区画外部には21号建物跡や40号・47号土坑が存在する。このうち21号建物跡は、礎石建物ではあるが他の建物と比べ軸の振れが大きい点や70号溝と近すぎる点などから、時期が異なる可能性がある。40号土坑は廃棄土坑で、内部からは多量の瓦とともに漆紙文書が出土している。この漆紙文書は分析の結果、延暦3(784)年の死亡人帳であることが判明している¹⁰。47号土坑は、金属器生産関係の廃棄土坑と想定される。昭和49～50(1974～1975)年に行なわれた環境整備事業の調査では、47号土坑のすぐ南のN20・0グリッドで埋土に多量の炭が入った土坑が検出されており¹¹か跡の可能性が指摘されている。また、時期は不明ながら41号・42号土坑からも多量の炭が検出され、42号土坑には羽口や楕形津が含まれていた¹²。こうした小規模な金属器生産に関わる遺構が、70号溝南側に密集する点は興味深く、この場所の利用形態も今後の課題としてあげられる。

大倉原II-3期 国司館の廃絶期とされている。前段の建物群はなくなり、7号・8号・15号・16号土坑など長楕円形の廃棄土坑が多数構築される。これらの時期はおおむね10世紀代とされている。宮の後北区では71号溝と76号溝が作られ、いずれも南北方向に軸を持つ。また13号・14号井戸など、井戸の構築も目立つ。

大倉原III期 白磁を伴う時期である。大倉原地区では8号・9号溝など東西方向に走る溝と井戸が構築される。宮の後地区では、直径20cm程度のピット群が多数見つかっており、建物跡があつたと推測される。

以上、大倉原地区の変遷案に合わせて、宮の後北区の変遷を考察してきた。国司館の施設配置については未調査部分も多く不明な点も残るが、国司館の南限がほぼ確定できたこと、時期によって区画溝が変化していること、国司館の建て替えの際には大規模な整地作業が行なわれていることなど、大きな成果も得られた。平成11年度より開始された出雲国府跡の調査は、今年度で13年目を迎える。これまでの調査で、国司館や国衙工房に関する多くの知見が得られ、昭和の調査と合わせて出雲国府跡の実態がかなり明らかになってきた。今後は、これまでの調査成果をまとめ、出雲国府跡の全容解明にむけて総括的に検討する必要があるだろう。

註

- 1 島根県教育委員会 2009『史跡出雲国府跡-6』
- 2 島根県教育委員会 2008『史跡出雲国府跡-5』
- 3 註1に同じ
- 4 島根県教育委員会 2005『史跡出雲国府跡-3』
- 5 註2に同じ
- 6 島根県古代文化センター 2009『出雲国府周辺の復元研究—古代八雲立つ風上記の丘復元の記録—』
- 7 島根県教育委員会 2011『史跡出雲国府跡-7』
- 8 註2に同じ
- 9 松江市教育委員会文化財課 2009『出雲国府跡下水道工事にかかる再発掘調査概要報告書』
松江市教育委員会 2011『石川県福井新築工事予定地 出雲国府跡発掘調査報告書』
- 10 平井南・武井紀子 2011『島根県 史跡出雲国府跡出土「漆紙文書」「史跡出雲国府跡-7」島根県教育委員会
- 11 註1に同じ
- 12 註7に同じ

第2表 出雲国府跡出土遺物観察表

施設番号	発見回数	出土遺物名	月日	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	形態・手法の特徴	地土	焼成	色調	備考
12-1	15	3列溝状遺構 2号	57 100614	須恵器	蓋				ナデ、回転ナデ、 輪ヶズリ	黒、1mm以下の白 色砂粒を多く含む	良好	灰褐色	輪状つまみ目(7.1) (m)
13-1	15	表土 100603		須恵器	高台付				ナデ、回転ナデ、 静か削り	黒、細砂粒を少し 含む	良好	灰褐色	
13-2	15	内柵区 1.2層	110603	須恵器	蓋				ナデ、回転ナデ、 軽く削り	黒、白色細砂 粒を僅かに含む	良好	灰褐色	
13-3	15	2層 100619		須恵器	蓋				ナデ、回転ナデ	黒、黑色砂粒を少 し含む	良好	灰褐色	灯明皿型土器
13-4	15	N40W10 3b層 № 175 100623 他		須恵器	水注				回転ナデ、輻方向 の刃付	黒	良好	灰褐色	輪調、暗緑色、兼海 10C(破片)
13-5	15	N40・0.2層 100614		須	円面鏡				回転ナデ	黒、細砂粒を僅か に含む	良好	灰褐色	透かしあり、脚底部
13-6	15	N45E10 3a層 100617		土師器	杯				ナデ、回転削り	黒、細砂粒を少し 含む	良好	灰褐色	輪底付、黃褐色
13-7	15	N45E10 3a層 100617		土師器	杯			5.4	ナデ、回転削り	黒、細砂粒を少 し含む	良好	浅黄褐色	
13-8	15	N40W10 2b層 100623		製塼器	蓋				ナデ、輪道瓶底	黒、細砂粒を少し 含む	良好	淡褐色	口縁端部に道具痕
13-9	15	2層 100611		日本 倒器	鉢				楕ナデ後ナデ	黒、白色砂粒を多 く含む	良好	明青灰~ 青灰褐色	珠洲
13-10	15	2層 100607		日本 倒器	鉢				タマ方向の平行タ マ	黒、白色細砂 粒を僅かに含む	良好	赤灰色	珠洲灰
13-11	15	内柵区 1.2層 110602		白磁	碗				強軸	黒	良好	灰褐色	
13-12	15	裏柵区 N45E15 3a 層 № 110722		白磁	瓶口類				ハケズリ、輪軸、 白磁、強軸	黒、白・黑色強 軸砂粒を含む	良好	灰褐色	輪底付、オーリーブ
13-13	15	内柵区 1.2層 110606		青磁	碗空系 蓋			4.8	ハケズリ、片削 軸	黒、強軸砂粒 を少し含む	良好	灰褐色	輪底付、オーリーブ灰
13-14	15	内柵区表土 110531		白磁	小瓶			3.3	ハケズリ、強軸	黒、強軸砂粒 を僅かに含む	良好	灰褐色	輪底付、白灰、広東系
13-15	15	N40E5 2層 № 106 100617		瓦	軒丸瓦				ヘラケズリ	黒、細砂粒を少し 含む	やや 不良	灰褐色	軟質、灰白色、出雲 因守寺2類、印鑑づ き法
13-16	15	N40W10 3a層 100623		瓦	軒丸瓦				強軸	黒、砂粒を多く含 む	やや 不良	灰褐色	軟質、瓦当面、出 雲因守寺2類、印鑑づ き法
13-17	16	N45E25 2層 № 110802		瓦	丸瓦				凸面、ナデ凹面、右 用意、側縁端縫 ケズリ	黒、Im以下の方 面砂粒を多く含む	やや 不良	灰褐色	無段式、軟質、最大 厚2.2cm
13-18	16	14号戸上1層 № 2137 110630		須恵器	高台付	18.9	(12.5)	3.5	ナデ、回転ナデ	黒、細砂粒を多く含 む	良好	灰褐色	
13-19	16	14号戸上1層 № 2138 110630		土師器	足高台 付				ナデ、楕ナデ	黒、砂粒を多く含 む	良好	灰褐色	
13-20	16	14号戸上2層 № 110706		土師器	足高台 付				ナデ、楕ナデ	黒、強軸砂粒 を多く含む	良好	灰褐色	輪底付、無段式
13-21	16	14号戸上2層 № 2174 110715		須恵器	杯			8.3	ナデ、回転ナデ、 輪ヶズリ	黒、Im以下の方 面砂粒を多く含む	良好	灰褐色	
13-22	16	14号戸上1層 № 2125 110630 他		瓦	丸瓦				凸面、ナデ凹面、右 用意、側縁端縫 ケズリ	黒、強軸砂粒を多く含 む	やや 不良	灰褐色	軟質、瓦当面、出 雲因守寺2類、印鑑づ き法
13-23	16	14号戸上2層 № 2173 110715		瓦	平瓦				凸面、梯子タキ 12.2、輪の凹面：	黒、白・黑色強 軸砂粒を多く含む	やや 不良	灰褐色	軟質
20-1	17	N35W65 - 60 7号 110615		須恵器	蓋				ナデ、回転ナデ	黒、白色強砂 粒を少し含む	良好	灰褐色	宝珠状つまみ目(2.2) (m)
20-2	17	7号戸 № 2165 110706		須恵器	蓋				回転ナデ	黒、細砂粒を僅かに 含む	良好	明青灰色	明青灰色
20-3	17	7号戸 № 2149 110706		須恵器	高台付	13.0	(9.8)	3.6	回転ナデ	黒、Im以下の方 面砂粒を少し含む	良好	明青灰色	
20-4	17	7号戸 № 2161 110706		須恵器	高台付 付			8.6	ナデ、回転ナデ、 輪ヶズリ	黒、白・黑色強 軸砂粒を少し含む	良好	灰褐色	
20-5	17	7号戸 № 2151 110706		須恵器	蓋	(15.4)	(12.2)	2.5	ナデ、回転ナデ、 輪ヶズリ	黒、白色強砂 粒を全般に少し含 む	良好	青灰色	
20-6	17	7号戸 № 2167 110706		土師器	高环				ナデ	黒、砂粒を1mm以 下の砂粒をとても多 く含む	良好	淡黄褐色	脚部
20-7	17	7号戸 № 2166 110706		須恵器	平瓶				ナデ、ケズリ、力 引	黒、白・黑色強砂 粒を僅かに含む	良好	灰褐色	把手
20-8	17	7号戸 № 2148 110706		瓦	平瓦				凸面、梯子タキ 10.2mm、右用意、 側縁端縫、ケズリ	黒、白・黑色強砂 粒を多く含む	良好	灰褐色	硬質
22-1	17	N35W70 75号 110722		須恵器	蓋				回転ナデ	黒、白・黑色強砂 粒を少し含む	良好	灰褐色	
22-2	17	N35W70 75号 110628		須恵器	杯				回転ナデ	黒、細砂粒を多く 含む	良好	灰褐色	
22-3	17	N40W70 75号 110628		須恵器	平瓶				回転ナデ	黒、細砂粒を少し 含む	良好	灰褐色	
22-4	17	75号戸 1層 № 2176 110712		須恵器	平瓶			12.4	回転ナデ	黒、細砂粒を極僅 かに含む	良好	灰褐色	
22-5	17	75号戸 1層 № 2193 110722		須恵器	鉢				回転ナデ、梯子タ キ、同心円付で 鉢	黒、Im以下の方 面砂粒を僅かに含 む	良好	灰褐色	
22-6	17	N40W70 75号 110628		土師器	杯				楕ナデ	黒、白色強砂 粒を少し含む	良好	灰褐色	
22-7	17	75号戸 2層 № 2202 110722		瓦	軒丸瓦				凸面、梯子タキ 9.6mm、右用意、 側縁端縫	黒、2mm以下の方 面砂粒を多く含む	やや 不良	淡黄褐色	平瓦部
22-8	17	75号戸 2層 № 2185 110722		瓦	軒丸瓦				ナデ	黒、砂粒を多く含 む	やや 不良	灰褐色	出雲國分寺2類、軟 質

標図 番号	写真 番号	出土遺構名 出土年月日	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	用途・手法の 特徴	施土	焼成	色調	備考
24-1	18	9号・10号 2004 11/06/01	土師器	环	(16.0)			横ナデ、初期砂粒 を多く含む	良好	灰白		
26-1	18	60号・140号 2002 11/06/16	須恵器	盖				ナデ、回転ナデ、 回転ケズリ	良好	灰白	内面墨板	
28-1	18	N35W60 Pt12 No.2087 110615	須恵器	蓋				回転ナデ、回転ケ ズリ	良好	灰白色		
28-2	18	N35W60 61号土坑 No.2102 110621	須恵器	高台付环	(8.0)			ナデ、回転ナデ、 回転・大切り	良好	灰白		
28-3	18	N35W60 61号土坑 No.2088 110615	須恵器	盖		8.0		ナデ、回転ナデ、 系切り	良好	灰白		
28-4	18	N35W60 61号土坑 No.2083 110615	土師器	甕				横ナデ、ハラケズ リ	良好	灰白	小穴あき、1mm以下の 砂粒をどこに多く 含む	
31-1	18	N32W70 3b層 110609	須恵器	盖				ナデ、回転ナデ、 回転ケズリ、回転 系切り	良好	灰白	ボタン状つまみ (2.5mm)	
31-2	18	N30W60 3b層 110607	須恵器	盖				ナデ、回転ナデ	良好	灰白色	突部付状つまみ	
31-3	18	N40W65 3b層 110606	須恵器	盖			(7.0)	ナデ、回転ナデ、 静か大切り	良好	灰白		
31-4	18	N40W70 3b層 110606	須恵器	高环				回転ナデ、波状文、 次線	良好	灰白色	無蓋高环	
31-5	18	N25W70 3b層 110610	須恵器	盖				回転ナデ	良好	灰白		
31-6	18	N35W70 3b層 110607	須恵器	甕			(5.1)	回転ナデ、回転ケ ズリ、回転系切り	良好	灰白		
31-7	18	N30W60 3b層 110606 他	甕	円面鏡	(24.0)			ナデ、白・黒色砂 粒を多く含む	良好	灰白		
31-8	18	N25W70 3b層 110607	土師器	柱状高台 付环				ナデ	良好	淡黄褐色		
31-9	18	N30W70 3b層 110607	土師器	甕		4.5		ナデ、細砂粒を 静かに含む	良好	淡褐色		
31-10	18	N35W70 3b層 110608	灰陶	环力	(13.2)			回転ナデ、突堤 I 系	良好	灰白色	輪・灰オーリーフ。古 墳周囲の河原地	
31-11	18	N30W60 3b層 110608	青磁	罐			(5.6)	施釉、口跡、沈線	良好	灰白	施釉罐に目附 有り	
31-12	18	N30W70 3b層 110609	土製品	土器				ナデ、2mm以下の砂 粒を多く含む	良好	灰白～薄 灰白	長さ4.2cm幅1.6 cm厚さ1.5cm重 量8.54g	
32-1	18	N30W70 3b層 110607	瓦	軒丸瓦				ナデ、細砂粒を多く 含む	やや 不良	灰白色	軟質、出雲国分寺 2 号	
32-2	18	N25W60 3b層 No.2034 110606	瓦	軒丸瓦				ナデ、細砂粒を多く 含む	やや 不良	淡黄褐色	軟質、出雲国分寺 2 号	
32-3	18	N30W70 3b層 No.2047 110615	瓦	軒丸瓦				ナデ、砂粒を多く含 む	やや 不良	淡黄褐色	軟質、山田郡国分寺 3 号、印塚づざわ	
32-4	18	N30W70 3b層 110607	瓦	軒丸瓦				ナデ、細砂粒を少し 含む	やや 不良	灰白色	軟質、出雲国分寺 3 号	
32-5	19	N35W60 3b層 110606	瓦	丸瓦				白面・ナデ面、布 目仕組、系切り、ケ ズリ	良好	灰白	硬質、有段式 A、玉 頭屋形陶器 1.0m	
32-6	19	N35W70 3b層 No.2039 110606	瓦	大厚丸瓦			2.1	白面・ナデ面、布 目仕組、系切り、ケ ズリ	良好	灰白	硬質、有段式 A、玉 頭屋形瓦 1.2m	
32-7	19	N35W60 3b層 110607	瓦	丸瓦				白面・ナデケズリ、 端縁・ケズリ	良好	灰白～黑 色	軟質、有段式 B	
32-8	19	N40W60 3b層 No.2008 110606	瓦	丸瓦				白面・ナデ面、布 目仕組、系切り、ケ ズリ	良好	粉白～黑 色	軟質、端部	
32-9	19	N30W60 3b層 No.2032 110606	瓦	平瓦				白面・格子タキ 1.5門面、布目仕組、 系切り、ケズリ	良好	灰白	硬質	
32-10	19	N40W70 3b層 No.2037 110606	瓦	平瓦				白面・格子タキ 1.5門面、布目仕組、 系切り、ケズリ	良好	灰白	硬質	
32-11	19	N40W60 3b層 110606	瓦	丸瓦				白面・格子タキ 2, 離れ凹面・布目仕組、 系切り、ケズリ	良好	灰白	硬質	
32-12	19	N35W60 3b層 No.2016 110606	瓦	平瓦				白面・横タキ 1 面・横仕組、側縁・ ケズリ	良好	灰白	軟質、桶巻き作りカ ラ	
36-1	20	N35・0.70切溝理 % 360 100708	瓦	丸瓦				白面・横タキ 1 面・横仕組、側縁・ ケズリ	良好	灰白	硬質、箕端部	
36-2	20	N35・0.70切溝理 % 957.2 100901	瓦	丸瓦				ナデ、布目仕組、 系切り、ケズリ	良好	灰白	箕端部、無段式	
36-3	20	N30・0.70切溝理 % 1135 100921	瓦	平瓦				凸面・格子タキ 2, 離れ凹面・布目仕組、 系切り、ケズリ	良好	灰白	硬質、1mm以下の白 色砂粒を多く含む	
38-1	20	N45E15 7号溝 111013	土師器	足高台 付环				ナデ、横ナデ	良好	灰白		
38-2	20	N45E15 7号溝 2層 No.2273 110912	土師器	足高台 付环			(7.6)	ナデ、横ナデ	良好	灰白	硬質、桶巻き作りカ ラ	
38-3	20	N45E20 SX05 No.2300 111013	土師器	环	12.4	6.9	3.7	ナデ、回転ナデ、 系切り	良好	粉白・黒色砂 粒を多く含む	良好 色	
38-5	20	N45E20 SX05 No.2306 111013	瓦	平瓦				白面・横タキ面 1.5門面・布目仕組、 横筋	良好	灰白	桶巻き作りカ ラ	
38-6	20	N45E20 SX05 No.2310 111013	瓦	平瓦				白面・格子タキ 1.5門面・布目仕組、 側縁・ケズリ	良好	灰白～灰 色	軟質	

種別	實測 面積 面積	出土遺構名 出土地点	種別	器種	口径 (cm)	深度 (cm)	高さ (cm)	形態・手法の 特徴	地土	焼成	色調	備考
40-1	20	N25・047 号土坑 N6 809 100816	須恵器	鉢				回転ナデ	塑、1mm以下の白・ 黒色砂粒を多く含む	良好	灰褐色	
40-2	20	N25・047 号土坑 N6 839 100817	須恵器	高台付皿		(13.0)		ナデ、横ナデ	少少粘、3mm以下 の砂粒を含む	良好	淡黃褐色	
42-1	21	N40E10 1号墳・西壁サ ブフレ 48号土坑・1層 N6 854 100818	須恵器	蓋				ナデ、回転ナデ、 回転ケツリ	塑、2mm以下の白・ 黒色砂粒を多く含む	良好	灰褐色	内面擦痕、つまみ径 4.0cm
42-2	21	N40E10 1号墳・西壁サ ブフレ 48号土坑・1層 N6 090823	須恵器	蓋				ナデ、回転ナデ、 回転ケツリ	塑、1mm以下の白・ 黒色砂粒を多く含む	良好	灰褐色	
42-3	21	N40E10 1号墳・西壁サ ブフレ 48号土坑・1層 N6 090703	須恵器	蓋				ナデ、回転ナデ、 回転ケツリ	塑、砂粒を多く含む	良好	灰褐色	
42-4	21	48号土坑-1 100729	須恵器	蓋				回転ナデ	塑、1mm以下の白・ 黒色砂粒を多く含む	良好	灰褐色	
42-5	21	N40E5 SX032 サブト レ 48号土坑-1層 N6 100817	須恵器	蓋				回転ナデ	塑、白色砂粒を少 し含む	良好	明赤褐色	
42-6	21	N45E10 3号墳サ ブフレ 48号土坑-1 N6 1150 100924	須恵器	蓋				ナデ、回転ナデ、 回転ケツリ	塑、1mm以下の白・ 黒色砂粒を多く含む	良好	灰褐色	ボタン状つまみ径： 2.5cm
42-7	21	N45E10 4号坑-1 N6 7671 100808	須恵器	环		(13.0)		回転ナデ	塑、白・黒色砂 粒を僅かに含む	良好	灰褐色	
42-8	21	N45E10 9号トトレ 48 号坑 N6 190826	須恵器	环				回転ナデ	塑、白・黒色砂 粒を多く含む	良好	灰褐色	漆付着
42-9	21	N45E10 10号トトレ サブトレ 48号坑-1 N6 0958 100901	須恵器	高台付环	(14.2)	(9.2)	5.9	ナデ、回転ナデ	塑、白・黒色砂 粒を多く含む	良好	灰褐色	
42-10	21	N45E10 48号土坑-1 N6 777 100806	須恵器	高台付环		(7.6)		ナデ、回転ナデ	塑、2mm以下の白・ 黒色砂粒を多く含む	良好	灰褐色	
42-11	21	N40・048号土坑-1 N6 395 100709	須恵器	高台付环		(9.3)		ナデ、回転ナデ	塑、1mm以下の白・ 黒色砂粒を多く含む	良好	灰褐色	
42-12	21	48号土坑埋理-091020 埋土下削 091014	須恵器	高台付皿		14.8		ナデ、回転ナデ	塑、3mm以下の白・ 黒色砂粒を多く含む	良好	灰褐色	
		M40・01号机状遺構 サブトレ 48号坑-1 N6 100901	須恵器	高台付皿		(14.4)		ナデ、回転ナデ	塑、2mm以下の白・ 黒色砂粒と細砂粒を 少し含む	良好	灰褐色	
42-14	21	N40・01号机状遺構南 サブトレ 48号坑-1 N6 944 100831	須恵器	高台付皿	(16.5)			ナデ、回転ナデ	塑、白・黒色砂 粒を全体に含む	良好	灰褐色	
42-15	21	N45E10 1号土坑-1 N6 1410 100924	須恵器	高台付皿	(21.3)			ナデ、回転ナデ、 軸切り	塑、白色砂粒を少 し含む	良好	灰褐色	
42-16	21	N40E10 1号墳・西壁サ ブフレ 48号土坑埋理上 N6 090825	須恵器	蓋		10		ナデ、回転ナデ	塑、1mm以下の白・ 黒色砂粒を多く含む	良好	明赤色	内外面、断面漆付着
42-17	21	N40E5 48号土坑-1層 N6 812 100817	須恵器	环	(18.0)	(9.0)	3.2	回転ナデ	塑、白色砂粒を少 く僅かに含む	良好	灰褐色	軸用環
42-18	21	N45E10 9号トトレ 48 号坑-1層 N6 780 100806	須恵器	長颈瓶				回転ナデ、回転ケ ツリ	塑、繩砂粒を少し 含む	良好	灰褐色	漆付着
42-19	21	N40E5 SX032 サブト レ 48号土坑-1層 N6 813 100817	須恵器	瓶				回転ナデ、タッキ ナ	塑、白色砂粒を少 く含む	良好	灰褐色	外表面被り
		N40・01号机状遺構南 サブトレ 48号坑-1 N6 944 100831	須恵器	瓶				ナデ、回転ナデ、 回転ケツリ、タッ キナ	塑、1mm以下の白・ 黒色砂粒が僅かに 含む	良好	灰褐色	
42-21	21	N40E5 48号土坑-1層 N6 419 100817	須恵器	瓶				タッキナ、当其瓶 身	塑、3mm以下の白・ 黒色砂粒を多く含 む	良好	灰褐色	
42-22	21	N45E10 9号トトレ 48 号坑 N6 556 100802 N6 453	須恵器	瓶				平行タッキ、ガラ ジ、同様内側に当 其瓶、ナデ	塑、繩砂粒を少し 含む	良好	灰褐色	漆付着
42-23	21	N40E5 10号トトレ 48号坑-1層 N6 561 100802	土師器	皿	(11.8)	(13.0)	2.4	ナデ	塑、1mm以下の白・ 黒色砂粒を全く含 む	良好	灰褐色	
42-24	21	N40E5 48号土坑-1層 N6 423 100709	土製品	土瓶					塑、1mm以下の砂 粒を全く含む	良好	黒~淡黄 色	長さ：6.4cm幅：2.1 cm厚さ：0.6cm重量： 0.65kg容量：2420g
43-1	22	N40・0 48号土坑-1 N6 1116 100921	瓦	丸瓦				白面：ナデ凹面： 角付直面、折切り 縁、側縫端縫 ケツリ	砂粒を多く含む	少少 不良	灰褐色	軟質、無段式
43-2	22	N40・0 48号土坑-1 N6 1138 100924	瓦	丸瓦				白面：ナデ凹面： 角付直面、側縫端 縫ケツリ	砂粒を多く含む	少少 不良	灰褐色	軟質、広端部
43-3	22	N40E5 48号土坑-1層 N6 1154 100924	瓦	平瓦				白面：平行タッキ、 側縫端縫面、角付 直面、側縫端縫 ケツリ	2mm以下の黑色砂 粒を少し含む	良好	灰褐色	硬質
43-4	22	N40・0 48号土坑-1 N6 60 100614	瓦	平瓦				白面：櫛子タッキ、 側縫端縫面、角付 直面、側縫端縫 ケツリ	砂粒を多く含む	少少 不良	灰褐色	軟質
43-5	22	N40W5 SX034 N6 1114 100921	瓦	平瓦				白面：櫛子タッキ、 側縫端縫面、角付 直面、側縫端縫 ケツリ	2mm以下の砂粒を 多く含む	少少 不良	灰褐色	軟質、接端部
46-1	22	N45E15 49号土坑-2層 N6 2312 111013	須恵器	蓋		13.0		回転ナデ	塑、1mm以下の白・ 黒色砂粒を多く含 む	良好	灰褐色	口徑部

番号	写真 図版	出土遺構名 出土年月日	種別	器種	口径 (cm)	高さ (cm)	用途・手の 特徴	施土	焼成	色調	備考	
46-2	22	49号土坑2層110928	土窓	环		6.1	ナデ、輪ナデ、回転切り	灰、褐色砂粒を多く含む	良好	浅黄褐色		
46-3	22	N45E15 49号土坑1層 110825	土窓	环		6.0	ナデ	灰、4mmの石粒と 褐色砂粒を多く含む	良好	浅黄褐色		
46-4	22	N45E15 49号土坑2層 No.2295 111011	丸瓦	丸瓦			凸面：ナデ凹面： 布引痕、輪切端 縁：ケズリ	小切面、2mm以下の 砂粒を多く含む	やや不良	浅黄褐色～ 褐色	軟質、無段式	
46-5	22	N45E15 49号土坑2層 No.2297 111011	丸瓦	平瓦			凸面：横目タガキ 輪切端縁：ケズリ	灰、2mm以下の白・ 黒色砂粒を多く含む	やや不良	灰白色	軟質	
48-1	23	N40E5 3b層100624	須弥壇	壇			ナデ、回転ナデ	灰、白・黒色砂 粒を少し含む	良好	灰褐色	内面磨研、転用確	
48-2	23	N40E10 3b層No.221 100623	須弥壇	壇		(17.2)	ナデ、回転ナデ、 回転ナスリ、回転 切り	灰、2mm以下の白・ 黒色砂粒を多く含む	良好	灰褐色	転用確、研磨・墨痕 あり	
48-3	23	N40E10 3b層100922	須弥壇	环	(11.0)	8.0	4.2	ナデ、回転ナデ、 回転切り	灰、1mm以下の白 色砂粒を含む	良好	赤褐色	
48-4	23	N45E30 3層110805	須弥壇	高台付	(13.0)	8.1	4.4	ナデ、回転ナデ	灰、白色砂粒を少 し含む	良好	灰褐色	
48-5	23	N40E5 3b層100728	須弥壇	壇		6.3	回転ナデ、静止系 切り	灰、白色砂粒を少 し含む	良好	灰褐色	灯明皿型土器	
48-6	23	N40E5 3b層100625	須弥壇	跡			回転ナデ、波状文	灰、3mm以下の砂 粒を含む	良好	灰褐色	口縁部	
48-7	23	N45E10 3b層100805	須弥壇	造り		14.6	ナデ、回転ナデ	灰、砂粒を含む 不規	やや 良	灰～灰白	中世須弥壇	
48-8	23	N40E5 3b層No.142 100621	須弥壇	壇			ナデ、回転ナデ、 カキ目、立花文、 横目	灰、1mm以下の砂 粒を少し含む	良好	灰褐色	制御	
48-9	23	N45E10 4層No.507 3b No.492 100729	須弥壇	横カセ			回転ナデ、回転ケ ズリ	灰、黑色砂粒を少 し含む	良好	灰白色	漆付着	
48-10	23	N40W5 3b層100614	環	円面鏡			回転ナデ	灰、3mm以下の白 色砂粒を少し含む	良好	灰褐色		
48-11	23	N45W10 3d層 100701	環	円面鏡			回転ナデ	灰、1mm以下の白 色砂粒を少し含む	良好	灰褐色	透かしあり、脚底部	
48-12	23	N40E5 3b層100625	環	円面鏡			回転ナデ	灰、白・黒色砂 粒を多く含む	良好	灰褐色	透かしあり、脚底部	
48-13	23	N40E5 3b層100728	土窓	足高台 付			ナデ、横ナデ	灰、1mm以下の砂 粒を僅かに含む	良好	浅黄褐色		
48-14	23	N45E15 3層No.2245 110805	土窓	足高台 付外			小切面、4mmは下 の白・黒色砂粒を少 し含む	良好	灰褐色			
48-15	23	N45E15 3層No.2244 110805	土窓	足高台 付外			ナデ、回転ナデ	小切面、1mm以下の 砂粒を多く含む	良好	明赤褐色		
48-16	23	N45E10 3b層No.155 100622	土窓	転用		5.2	ナデ、横ナデ、回 転系切り	灰、砂粒を少し 含む	良好	浅黄褐色		
48-17	23	N40E5 3b層100624	土窓	环			ナデ	灰、砂粒を多く含 む	良好	浅黄褐色～ 黒褐色	内面付着有、羽口と して使用可	
48-18	23	中置古K N45E30 3b 層110829	昭輪	陶器			ハラケズリ、輪動	破面、崩れ物を僅 かに含む	良好	灰白～黒 褐色	帯：暗赤褐、黄難	
48-19	23	N45W5 3b層100625	中国	陶器			ハラケズリ、タダ 方向ナデ、突起2 箇	灰、2mm以下の白 色の砂粒を多く含 む	良好	紫灰褐色		
48-20	23	N40E5 3b層100625	灰動	双刀直 把			沈鉢：2条、回転ナ デ、ナデ、輪動	灰、砂粒を多く含 む	良好	灰白色	輪：灰オーバー、 東海OC	
49-1	24	N40・0 3b層No.113 100617	丸	軒丸瓦			灰、輪切端縁 ：ケズリ	灰、砂粒を少し含 む	やや不良	灰白～浅 黃褐色	軟質、其当面、出雲 國分寺2層、印鑑づ き法	
49-2	24	N40・0 3b層No.343 100701	丸	軒丸瓦			灰、輪切端縁 ：ケズリ	灰、砂粒を多く含 む	やや不良	灰白	軟質、其当面、出雲 國分寺2層、印鑑づ き法	
49-3	24	N40・0 3b層No.251 100624	丸	軒丸瓦			灰、輪切端縁 ：ケズリ	灰、砂粒を多く含 む	やや不良	淡黄色	軟質、其当面、出雲 國分寺2層、印鑑づ き法	
49-4	24	N40W10 3b層No.82 100617	丸	軒丸瓦			灰、輪切端縁 ：ケズリ	灰、砂粒を多く含 む	良好	浅黄褐色～ 褐色	軟質、其当面、出雲 國分寺2層	
49-5	24	N40E5 3b層No.197 100623	丸	軒丸瓦			灰、白色砂粒を多 く含む	灰、砂粒を多く含 む	良好	褐灰色	軟質、其当面、出雲 國分寺2層	
49-6	24	N40・0 3b層No.794 100806	丸	軒丸瓦			灰、輪切端縁 ：ケズリ	灰、砂粒を多く含 む	良好	褐灰色～灰 白色	軟質、其当面、出雲 國分寺2層	
49-7	25	N45E25 3層No.2244 110805	丸	軒丸瓦			凸面：ナデ凹面： 布引痕、輪切端 縁：ケズリ	灰、1mm以下の白 色の砂粒を多く含 む	やや不良	褐灰色～浅 黃褐色	丸瓦部、軟質	
49-8	25	N45E20 3層110804	丸	平瓦カ			凸面：平行タガキ 凹面：ナデ凹面： 布引痕、輪切端 縁：平引	灰、白・黒色砂 粒を多く含む	良好	灰～赤褐色	硬質	
50-1	25	N40E5 3b層No.135 100617 他No.228 No. 454 No.643	丸	丸瓦	大斜度 1.8m		凸面：ナデ凹面： 布引痕、輪切端 縁：ケズリ	灰、白・黒色砂 粒を全体に少し含 む	良好	灰褐色	軟質、有段式A、玉 縁部：5.7cm、通高 ：1.2cm段部長：0.9 cm	
50-2	25	N40・0 3b層No.253 100624	丸	丸瓦			凸面：ナデ凹面： ナデ、端縁：ケ ズリ	灰、2mm以下の砂 粒を多く含む	良好	灰白色	軟質、有段式B、玉 縁部：5.3cm、通高 ：1.0cm段部長： 0.11cm	
50-3	25	N40E10 3b層No.481 100729	丸	丸瓦			凸面：ナデ凹面： ナデ、端縁：ケ ズリ	灰、砂粒を多く含 む	良好	褐灰色	軟質、有段式B、玉 縁部：4.3cm	
50-4	25	N45W5 3b層No.50 100614	丸	丸瓦			凸面：ナデ凹面： ナデ、端縁：ケ ズリ	灰、白・黒色砂 粒を少し含む	良好	灰白色	軟質、有段式B、玉 縁部：4.7cm	
50-5	25	N40E10 3b層No.490 100729	丸	丸瓦			凸面：ナデ凹面： ナデ、端縁：ケ ズリ	灰、白・黒色砂 粒を少し含む	良好	灰白色	軟質、有段式B、玉 縁部	

標図 番号	写真 回数	出土遺構名 出土年月日	種別	器種	口径 (cm)	進深 (cm)	高さ (cm)	形態・手法の 特徴	地土	焼成	色調	備考
50-6	25	N40・13号剖面 No.258 110624	丸瓦	丸瓦				凸面：ナデ凹面； 有田瓦、側縫隙縦縫； ケズリ	砂、砂粒を多く含む る	やや 不良	灰白色	軟質、有段式B、玉 縁部長：5.8cm
50-7	25	N45E15.3層No.2276 110914	瓦	丸瓦				凸面：ナデ凹面； ナデ、側縫隙縦縫； ケズリ	砂、2mm以下の白・ 黒色砂粒を多く含む る	やや 不良	灰白 色	有段式B、軟質、玉 縁部長：3.5cm後期 段：1.2cm基盤部：0.5 cm、幅：33.9cm厚さ： 最大幅：17.0cm～最大 厚：1.6cm
50-8	26	N45E10.3b層No.146 100621	瓦	丸瓦				凸面：ナデ凹面； 有田瓦、側縫隙縦縫； ケズリ	砂、2mm以下の砂 粒を全体に含む る	やや 不良	灰白色	軟質、無段式
50-9	26	N45E10.3b層No.462 100729	瓦	丸瓦				凸面：ナデ凹面； 有田瓦	砂、白・黒色砂 粒を僅かに含む る	良好	灰白色	硬質
50-10	26	N40W10.3b層No.27 100614	瓦	丸瓦				凸面：ナデ凹面； 有田瓦、有切り縫、 側縫隙縦縫；ケ ズリ	砂、6mm以下の白 色砂粒を多く含む る	良好	灰白色	硬質、広端部
50-11	26	N45E10.3b層No.149 100621 N45E10.3b層No.126 100621	丸瓦	丸瓦				凸面：ナデ凹面； 有田瓦、有切り縫、 側縫隙ケズリ	砂、2mm以下の白・ 黒色砂粒を多く含む る	やや 不良	浅黃褐色	軟質、広端部
50-12	26	N45E10.3b層No.356・ 357 100702	瓦	丸瓦	最大幅 2.4cm			凸面：ナデ凹面； 有田瓦、側縫隙縦 縫；ケズリ	砂、2mm以上の砂 粒を多く含む る	やや 不良	灰白色	軟質、広端部
51-1	26	N45W10.3b層No.170 110623	瓦	平瓦				凸面：格子タタキ 11.5cm前；有切り縫、 側縫隙；ケズリ	砂、2mm以下の白 色砂粒を多く含む る	良好	灰白色	硬質、扶端部
51-2	26	N45W5.2b層No.49 100614	瓦	平瓦				凸面：格子タタキ 11.5cm前；ナデ、側 縫隙；ケズリ	砂、3mm以下の白 色砂粒を全体に少 し含む	良好	灰白色	硬質
51-3	26	N45E5.3b層No.159 100621	瓦	平瓦				凸面：格子タタキ 11.5cm前；ナデ、側 縫隙；ケズリ	砂、2mm以下の白 色砂粒を多く含む る	良好	灰白色	硬質
51-4	26	N45E15.3層No.2239 110805	瓦	平瓦				凸面：格子タタキ 11.5cm前；有切り 縫、側縫隙；ケズリ	砂、2mm以下の白 色砂粒を多く含む る	良好	灰白色	硬質
51-5	26	N45E10.3b層No.231・ 232・233 100623他	瓦	平瓦				凸面：格子タタキ 11.5cm前；有切り 縫、側縫隙；ケズリ	砂、1mm以下の砂 粒をとても多く含 む	良好	灰・橙色	硬質、広端部
51-6	26	N45E20.3層110804	瓦	平瓦				凸面：磚タタキ1 11.5cm前；有切り縫、 側縫隙；ケズリ	砂、白・黒色砂 粒を少し含む る	良好	灰白色	硬質、植巻き作り
51-7	26	N45W10.3b層No.23・ 24 100614	瓦	平瓦				凸面：磚タタキ1 11.5cm前；有切り縫、 側縫隙；ケズリ	砂、2mm以下の白 色砂粒を全体に多 く含む	良好	灰白色	硬質、扶端部
52-1	27	N45E20.3層110804	瓦	平瓦				凸面：格子タタキ 11.5cm前；有切り 縫、側縫隙；ケズリ	砂、白・黒色砂 粒を僅かに含む る	やや 不良	灰白～灰 色	軟質
52-2	27	N45W10.3b層No.303 100701	瓦	平瓦				凸面：格子タタキ 11.5cm前；ナデ、側 縫隙；ケズリ	砂、3mm以下の砂 粒を少し含む る	やや 不良	灰白～灰 色	軟質
52-3	27	N45E5.3b層No.162 110805	瓦	平瓦				凸面：格子タタキ 4.5cm前；ナデ、側 縫隙；ケズリ	砂、2mm以下の砂 粒を少し含む る	やや 不良	淡黃褐色	軟質
52-4	27	N45E23.3層No.2252 110805	瓦	平瓦				凸面：格子タタキ 4.5cm前；有切り 縫；ケズリ	砂、2mm以下の白 色砂粒を多く含む る	やや 不良	褐灰～浅 灰色	軟質
52-5	27	N40E5.3b層100624	瓦	平瓦				凸面：格子タタキ 4.5cm前；ナデ、側 縫隙；ケズリ	砂、細砂粒を多く 含む	やや 不良	褐灰 色	軟質
52-6	27	N45E10.3b層No.222 100623	瓦	平瓦				凸面：磚タタキ1 11.5cm前；ナデ、側 縫隙；ケズリ	砂、細砂粒を多く 含む	やや 不良	浅黃褐色 ～橙色	軟質
56-1	28	N45E15.73号層2層 N45E11.0912号層 2278・2279	須恵器	陶瓶	(8.8)			ナデ、回転ナデ、 格子タタキ	砂、白・黒色砂 粒を多く含む る	良好	灰白色	内面赤被り
56-2	28	N45E15.73号層2層 N45E11.0912号層 2277・2278	須恵器	高台付罐	(20.0)	(15.0)	3.7	ナデ、回転ナデ、 有切り縫	砂、1mm以下の白 色砂粒を多く含む る	良好	赤～橙色	
56-3	28	N45E15.77号層2層 2281・111061	土師器	罐				ナデ	砂、1mm以下の白 色砂粒を多く含む る	良好	灰白～浅 褐色	
58-1	28	N45E10.5X02サブト L-X03A-2層No.902 100825	須恵器	高台付罐	(8.5)			ナデ、回転ナデ、 ナデ	砂、白・黒色砂 粒を全体に含む る	良好	灰白色	
58-2	28	N45E10.5X02サブト L-X03A-2層No.896 100826	土師器	瓶	(9.0)			ナデ、ヘラケズ リ	砂、細砂粒を多く 含む	良好	浅黃褐色	
58-3	28	N45E10.54号土坑-1 W56.568 100802	生糞	糞			7.0	ナデ	4mm以下の石粒を 多く含む	良好	浅黃	前期、平底
58-4	28	N45E10.54号土坑-1 W56.496 100729	生糞	糞			(11.5)	ナデ、回転ナデ	砂、細砂粒を多く 含む	良好	灰白色	底外周赤被り、自然 輪付着
58-5	28	N45E10.54号土坑-1 W56.567 100802	生糞	糞	(22.4)			ナデ、ヘラケズ リ、ハケグ リ、ハケグ リ	砂、砂粒をとても多 く含む	良好	浅黃	口縁部保付着
58-6	28	N40E10.3層サブトレ M280.091104	須恵器	平底	(8.8)			回転ナデ	砂、砂粒を僅かに 含む	良好	明灰色	灰被り、口縁部
58-7	28	N40E5.51号土坑W 213.100623	須恵器	罐			4.8	回転ナデ、回転舟 切	砂、1mm以下の白 色砂粒を少し含む る	良好	灰白色	打明成型土器
58-8	28	N40E10.51号土坑理土 W56.100818	須恵器	环	(13.2)	(8.7)	4.4	ナデ、回転舟切	砂、白・黒色砂 粒を多く含む る	良好	灰白色	
58-9	28	N40E10.51号土坑理土 W56.100917	須恵器	环				ナデ、舟切	砂、細砂粒をわず かに含む	良好	灰白色	
58-10	28	N40E10.51号土坑理土 W56.100818	土師器	瓶				ナデ、砂ナデ、ヘ ラケズリ	砂、砂粒を多く含 む	良好	浅黃褐色	

被災 番号	買入 販賣場所 年月日	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	充填・手法の 特徴	施土	焼成	色調	備考
62-1	29 N25・0.55号土坑理土 No 1016 100902	須地窯	蓋	(15.8)	4.9	2.9	ナデ、回転ナデ、 回転カッタリ	密、1m以下との白 色砂粒を多く含む	良好	灰白～赤 灰色	輪状つまみ径：(4.9 cm)
62-2	29 N30・0.55号土坑理土 No 1042 100917	須地窯	蓋	15.8		3.0	ナデ、回転ナデ、 回転カッタリ	密、2mm以下の白 色砂粒を多く含む	良好	灰白	輪状つまみ径：4.7 cm
62-3	29 N25・0.55号土坑理土 No 0617 100902	須地窯	蓋	(16.0)		3.2	ナデ	2mm以下の砂粒を 多く含む	やや不良	灰白色	輪状つまみ径：4.4 cm
62-4	29 N30・0.55号土坑理土 No 373 100802 N35・0.55号土坑理土 No 884 100825	須地窯	蓋	14.7		2.5	ナデ、回転ナデ、 回転カッタリ	密、2mm以下の白 色砂粒を多く含む	良好	灰白	輪状つまみ径：4.8 cm
62-5	29 N35・0.55号土坑理土 No 1041 100917	須地窯	蓋	(14.8)		2.4	ナデ、回転ナデ、 回転カッタリ、系切 り版	密、1m以下との白 色砂粒を多く含む	良好	赤灰色	輪状つまみ径：4.0 cm
62-6	29 N30・0.55号土坑理土 No 1043 100917	須地窯	坪	(14.5)			ナデ、回転ナデ	密、白・黒の砂 粒を多く含む	良好	灰白色	
62-7	29 N30・0.55号土坑理土 No 373 100708	須地窯	坪	12.4	7.4	4.3	ナデ、回転ナデ、 回転カッタリ	密、砂粒を含む	やや不良	灰白色	
62-8	29 N30・S303南北サブ トレー5号土坑理土 No 983-1 100902	須地窯	高台付坪	(14.0)	(8.3)	4.1	ナデ、回転ナデ	密、2mm以下の白 色砂粒を多く含む	良好	灰白	
62-9	29 N35・0.55号土坑理土 No 1029 100917	須地窯	高台付坪	(14.6)	(8.5)	4.7	ナデ、回転ナデ	密、1.5mm以下の 白色砂粒を少し含む	良好	灰白	内面や研磨あり
62-10	29 N25・0.55号土坑理土 No 649 100805	須地窯	高台付坪	13.2	8.1	4.7	ナデ、回転ナデ、 回転カッタリ	密、白・黒の砂 粒を多く含む	良好	灰白	
62-11	29 N35・0.55号土坑理土 No 1025 100917	須地窯	直カ			11.3	回転ナデ、輪圧压 版、道具版	密、1m以下の白 色砂粒を多く含む	良好	灰白	使用痕カ
62-12	29 N30・0.55号土坑理土 No 376 100708	須地窯	蓋				回転ナデ、タキ子 カッタリ、直カ	密、1m以下の白 色砂粒を少し含む 直カ	良好	灰白	短間隔カ。内面付着 物あり
62-13	29 N30・0.55号土坑理土 No 576 100802他 652・654・1000・ 1001・1002・1006	須地窯	廣				回転ナデ、筋付きタ キ子カッタリ、直カ	密、白色砂粒を 多く含む	良好	灰白	
62-14	29 N30・0.55号土坑理土 No 367-1 100708	土師器	匣	(17.4)			穂ナデ、ハケ日、 ヘラカッタリ	粗、砂粒をとても 多く含む	良好	にぶい黄 褐色	外側付着
62-15	29 N30・0.55号土坑 No 1024	土師器	匣				穂ナデ、ハラカッ タリ	やや粗、砂粒を多 く含む	良好	にぶい黄 褐色	外側付着
62-16	29 N25・S303南北サブ トレー5号土坑理土 No 994、 55号土坑理土 No 1015- 100902 N30・0.55号土坑理 No 1045 100917	土師器	坪	(18.5)	8.6	5.7	ナデ、回転ナデ、 糸切り後ハラカッ タリ	密、0.5mm以下の 砂粒を確かに含む	良好	浅黄褐色 褐色	口縁外側浅い洗鍊、 外側付着
62-17	29 N35・0.55号土坑理土 No 890 100825 4 No 865 100818	土師器	皿	(19.4)	(12.5)	2.4	ナデ、穂ナデ、ミ ガキ、糸切り後機 ナデ	密、砂粒を確かに 含む	良好	浅黄褐色	
62-18	29 N30・0.55号土坑理 No 593 No 594 100804	土師器	皿				風化	砂粒を確かに含 む	良好	浅黄褐色	
62-19	29 N30・0.55号土坑理土 No 577 100802	土師器	移動式電				ナデ、ハケ日、ハ ラカッタリ	1mm以下の砂粒を 多く含む	良好	輕～黃褐 色	基底部分、内面鉛津 付着
63-1	28 N25・0.49号土坑理土 No 680 100805	須地窯	蓋				ナデ、回転ナデ、 回転カッタリ	密、2mm以下の白 色砂粒を多く含む	良好	灰白	輪状つまみ、つま み径：(2.2cm)
63-2	28 N25・0.49号土坑理土 No 679 100805	須地窯	蓋				ナデ、回転ナデ、 回転カッタリ	密、砂粒を確かに 含む	良好	灰白色	輪状つまみ
63-3	28 N25・0.49号土坑理土 No 678 100805	須地窯	長颈瓶				ナデ、回転ナデ、 直吹	1mm以下の砂 粒を多く含む	良好	灰白色	
63-4	28 N25・0.49号土坑理土 No 681 100805	土師器	匣				穂ナデ、ハケ日、 ヘラカッタリ	中粗粒、2mm以下 の砂粒を多く含む	良好	浅黄褐色	
64-1	30 N35・0.7号土坑理土 No 1022 100917	須地窯	蓋	(15.7)		3.0	ナデ、回転ナデ、 回転カッタリ	密、1m以下の砂 粒を多く含む	良好	灰褐色～ 褐色	輪状つまみ径：4.8 cm
64-2	30 N30・S303南北サブ トレー5号土坑理 No 999 100902	須地窯	蓋	(14.9)		3.9	ナデ、回転ナデ、 回転カッタリ	密、1m以下の白 色砂粒を多く含む	良好	灰白	輪状つまみ径：4.9 cm
64-3	30 N25・S303南北サブ トレー5号土坑理土 No 1018 100202 1004 100902ほか	須地窯	高台付坪	(14.4)	8.5	4.8	ナデ、回転ナデ、 直吹後ナデ	密、1m以下の白 色砂粒を含む	良好	赤灰色	
64-4	30 N25・S303南北サブ トレー5号土坑理土 No 1002 100902	須地窯	高台付坪	(14.2)	8.8	5.3	ナデ、回転ナデ、 回転カッタリ	密、2mm以下の砂 粒を含む	良好	赤灰色	
64-5	30 N35・0.7号土坑理 No 735 100806	須地窯	蓋				ナデ、回転ナデ、 回転カッタリ	密、1m以下の白 色砂粒を多く含む	良好	灰白	
64-6	30 N30・0.7号土坑理 No 10092 100806	須地窯	盤	(8.0)	2.6	2.0	横ナデ	密、砂粒を確かに 含む	良好	輕～灰 色	明灯型土器
64-7	30 N45W5.7号土坑理土 No 1095 100921	土師器	移動式電			3.8	横ナデ	密、砂粒を確かに 含む	良好	にぶい黄 褐色	
64-8	30 N35・0.7号土坑理 No 1136 100921	土製品	移動式電				ヘラ削り	粗、砂粒を多く含 む	良好	にぶい黄 褐色	底部
65-1	31 N40W10.4号No 912 100827	須地窯	环身	9.2			回転ナデ、回転ケ スリ	1mm以下の砂 粒を確かに含む	良好	灰白	
65-2	31 N40W10.4号No 924 100827	土師器	高台カ	(17.2)			ナデ、回転ナデ、 直吹	粗、白の砂粒を 多く含む	良好	褐色	
65-3	31 N25・0.4号No 686 100805	土師器	匣	12.8			穂ナデ、ハケ日、 ヘラカッタリ	密、砂粒を含む	良好	浅黄褐色	二重口縁
65-4	31 N30・0.5号 4号No 586 100802	須地窯	蓋	(16.2)		3.2	ナデ、回転ナデ、 回転カッタリ	密、1.5mm以下の 白色砂粒を多く含 む	良好	暗赤灰色 み付：2.1cm	実底つまみ、つま み径：2.1cm
65-5	31 N40E20・4号 11号No 110928	須地窯	蓋				ナデ、回転ナデ、 回転カッタリ	密、1m以下の白 色砂粒を確かに含 む	良好	灰白	実底つまみ径：1.9 cm
65-6	31 N45E10・4号 1号No 510 100729	須地窯	蓋				ナデ、回転ナデ	密、砂粒を少し 含む	良好	灰白	実底つまみ、つま み径：2.5cm

種別	土工種類	出工年月日	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	形態・手法	胎土	焼成	色調	備考
65-7	31	N30・0 4番 № 587 100802	須恵器	蓋	18.5			ナデ、回転ナデ、回転カズリ、洗練	肥、2mm以上の砂粒を多く含む	良好	灰～赤褐色	宝珠状つまみカ
65-8	31	N40・0 丹刑状遺構南 サブレ SX04-1 磁 100901	須恵器	蓋				ナデ、回転ナデ	肥、白・黒色細砂粒を多く含む	良好	灰	輪状つまみ、内面研磨
65-9	31	N40・0 丹刑状遺構南 サブレ SX04-1 磁 100901	須恵器	蓋				ナデ、回転ナデ	肥、細砂粒を僅かに含む	良好	灰白色	ボタン状つまみ径： 2.0cm
65-10	31	N40ESX02 サブレ SX04-1 磁 100817	土師器	蓋				ナデ	肥、細砂粒を僅かに含む	良好	浅黄色	ボタン状つまみカ
65-11	32	N40ESX02 サブレ SX04-1 磁 100817	須恵器	环	(11.9)			回転ナデ	肥、白色砂粒を多く含む	良好	灰白色	
65-12	31	N40W10 4 磁 № 237 100623	須恵器	环	(13.3)	(10.0)	4.9	ナデ、回転ナデ、 回転系切り	肥、2mm以上の白色砂粒を全く含む	良好	灰	
65-13	32	N40E20 4 磁 110928	須恵器	环	(13.0)	(7.2)	2.9	ナデ、回転ナデ、 静・焦り切り	肥、2mm以上の白・ 灰色砂粒を多く含む	良好	灰～灰白色	
65-14	31	N30・0 4 磁 № 580 100802	須恵器	环	10.2	6.8	3.7	ナデ、回転ナデ、 回転系切り	肥、2mm以下の黑・ 白色砂粒を多く含む	良好	灰白色	
65-15	32	N30・0 4 磁 № 591 100802	土師器	高台付环	(10.2)	(6.0)	3.3	ナデ、横ナデ	肥、細砂粒を少し含む	良好	浅黄褐色	
65-16	32	N45E10 4 磁 № 522 100730	須恵器	高台付环	(12.4)	(7.4)	4.2	ナデ、回転ナデ	肥、2mm以上の黑・ 白色砂粒を多く含む	良好	灰	
65-17	31	N45E10 5 SX04-1 磁 100924	須恵器	盖	(19.0)			回転ナデ	肥、白色砂粒を少し含む	良好	灰	
65-18	32	N45E10 4 磁 № 528 100730	須恵器	高台付环	(18.2)	(14.4)	2.4	ナデ、回転ナデ、 泡りりナデ	肥、2mm以下の白・ 灰色砂粒を多く含む	良好	灰	
65-19	31	N30・0 4 磁 № 579 100802	須恵器	高台付环	17.5	11.9	2.9	ナデ、回転ナデ、 回転系切り	肥、2mm以下の黑・ 白色砂粒を多く含む	良好	灰	
65-20	32	N40E25 4 磁 110928	須恵器	高台付 盖				ナデ、回転ナデ	肥、白色砂粒を多く含む	良好	灰	
		N30・0 N30X2 南支 サブレ 4 磁 100912 N35・0 4 磁 № 883 100825						ナデ、回転ナデ	肥、1mm以下の白・ 灰色砂粒を少し含む	良好	灰白色	外面灰被り、自然釉 付着
65-22	32	N30・0 4 磁 100802	須恵器	廣口壺				回転ナデ、回転系 切り	肥、白色砂粒を少 し含む	良好	灰	漆付着
65-23	32	N30・0 4 磁 № 584 100802	須恵器	長颈瓶			(8.3)	ナデ、回転ナデ、 回転系切り	肥、白・黒色砂粒を 少し含む	良好	灰	漆付着
65-24	32	N45E10 4b 磁 № 1156 10924	須恵器		(8.1)			ナデ、回転ナデ	肥、白色砂粒を 多く含む	良好	暗赤灰色	
65-25	32	N45E15 4 磁 № 2282 111011	須恵器	瓶				ナデ、回転ナデ	肥、2mm加藤白色 砂粒を多く含む	良好	灰	底外面重ね焼き痕
65-26	32	N45W10 4 磁 100625	須恵器	瓶				回転ナデ、系切りカ ズリ	肥、細砂粒を少し 含む	良好	灰	打明成型土器
65-27	32	N40W10 4 磁 100827	須恵器	瓶				回転ナデ、静止系 切り	肥、白色砂粒を 多く含む	良好	灰	打明成型土器
65-28	32	N40W5 4 磁 100829	須恵器	高环カ				回転ナデ	肥、白色砂粒を 多く含む	良好	灰	円形の透かし、孔径： 1.0cm
65-29	32	N40W10 4 磁 № 925・ 926 100827	須恵器	廣カ				回転ナデ、平行タ タメ	肥、1mm以下の白・ 灰色砂粒を多く含む	良好	灰	転用歴
65-30	32	N45E10 4 磁 № 495・ 498 100729	須恵器	長颈瓶カ				回転ナデ、回転カ ズリ	肥、細砂粒を少し 含む	良好	灰	漆付着
65-31	32	N45E15 4 磁 № 2289 111010	須恵器	廣カ	(13.0)			回転ナデ	肥、1mm以上の白・ 灰色砂粒を多く含 む	良好	灰	
65-32	32	N40E5 4 磁 № 427 100709	須恵器	廣カ	(19.3)			回転ナデ	肥、1mm以下の白・ 灰色砂粒を多く含む	良好	灰	頂部外面ハラ撒き （11）
66-1	33	N45E10 5 SX02 南支 サブレ SX04-1 磁 100817	土師器	盖	(18.0)			ナデ	肥、細砂粒を僅かに 含む	良好	浅黄褐色	外面部赤
66-2	33	N40E20 4 磁 110928	土師器	高台付盖	(15.0)			赤彩	肥、細砂粒を極端 に含む	良好	浅黄褐色	
66-3	33	N40W10 4 磁 № 243 100624	土師器	廣	(13.0)			燒ナデ、ハケ目、 洗練	肥、砂粒を多く含む	良好	浅黄褐色	
66-4	33	N45W5 4 磁 100715	土師器	廣				ナデ、ハケグザリ	肥、砂粒を多く含む	良好	浅黄褐色	
66-5	33	N45E10 5 SX02 南支 サブレ SX04-1 磁 100817	土師器	廣				燒ナデ、ハケグザリ	肥、砂粒を多く含む	良好	浅黄褐色	
66-6	33	N45E10 5 SX04-1 磁 100817	土師器	廣				燒ナデ	肥、砂粒を多く含む	良好	浅黄褐色	外面部保着
66-7	33	N45E10 4 磁 № 1021 641-1 100805	土師器	廣	(15.5)		11.9	燒ナデ	肥、1mm以下の砂粒を 多く含む	良好	灰～黒色	内面部漆部漆着、 外面部保着
66-8	33	N40W10 4 磁 № 236 100623	土師器	环	(12.2)	(6.3)	3.8	ナデ、回転系切り	肥、1mm以下の砂 粒を少し含む	良好	橙色	外面部赤
66-9	33	N45E10 4 磁 100729	製塩土器					布目刷	肥、細砂粒を僅かに 含む	良好	黄褐色	
66-10	33	N45E15 4 磁 № 2284 111011	土製品	移動式窯				ナデ、ハケグザリ	肥、砂粒をとても多 く含む	良好	黄褐色	に赤い黄 褐色
66-11	33	N40W5 4 磁 № 244 100624	瓦	平瓦				白彩・施子タタキ、 施白砂門面・布目 刷、系切り、燒接 接縫グザリ	肥、1mm以下の白色 砂粒を多く含む	良好	灰	硬質
66-12	33	N45W10 4 磁 № 165 100623	瓦	平瓦				白彩・施子タタキ、 施白砂門面・布目 刷、系切り、燒接 接縫グザリ	肥、1mm以下の白色 砂粒を多く含む	良好	灰	硬質

種別	育苗 圃場	出土過橋名 出土年月日	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	用途・手法 特徴	施土	焼成	色調	備考
69-1	34	N30W60.5 番No 2073 110615	須地窓	蓋	14.4	2.5		ナデ、回転ナデ、回転カズリ	底、1m以上との白、黒色砂粒を多く含む	良好	灰褐色	輪状つまり径：4.4 cm、外面灰被り
69-2	34	N35W70.5 番No 2053 110615	須地窓	高台付 窓カ				ナデ、回転ナデ	底、白・黒色砂粒を多く含む	良好	灰褐色	内面漆付着
69-3	34	N30W60.5 番No 2080 110615	須地窓	高台付皿		(17.7)		回転ナデ	底、1m以上との白、黒色砂粒を多く含む	良好	灰褐色	内面研磨・漆膜、転用鏡
69-4	34	N40W60.5 番No 2067 110615	須地窓	跡カ				回転ナデ	底、白色細砂粒を多く含む	良好	灰褐色	把手付カ
69-5	34	N30W70.5 番No 2061 110615	須地窓	長脚窓				回転ナデ、棘り皿	底、1m以上との白、黒色砂粒を少し含む	良好	灰褐色	内面漆付着
69-6	34	N30W70.5 番No 2060 110615	須地窓	高窓				ナデ、回転ナデ	底、2mm以下の白、黒色砂粒を多く含む	良好	灰褐色	漆付着
69-7	34	N25W70.5 番No 2046 110606	須地窓	高窓		(14.4)		回転ナデ、棘り皿	底、1m以上との白、黒色砂粒を少し含む	良好	灰褐色	外表面被り
69-8	34	N35W70.5 番No 2051 110615	須地窓	高窓		10.5		ナデ、面取り	底、細砂粒を僅かに含む	良好	浅黄褐色～淡赤褐色	
69-9	34	N35W70.5 番No 2097 110804	土師窓	高窓				ナデ	底、2mm以下の砂粒を少し含む	良好	淡褐色	
69-10	34	N35W60.5 番No 2215 110804	土師窓	高窓				ナデ、面取り	底、細砂粒を僅かに含む	良好	浅黄褐色～赤褐色	外表面被り
71-1	34	N35.0.5 番No 869 100825	須地窓	蓋	(17.3)	12.6		ナデ、回転ナデ、回転カズリ	底、3mmの白色砂粒を少し含む	良好	灰褐色	輪状つまり径：4.3 cm
71-2	34	N45W10 東西サブトレ 5番 100924	須地窓	蓋				ナデ、回転ナデ、回転カズリ	底、1m以上の白、黒色砂粒をとても多く含む	良好	灰褐色	輪状つまり
71-3	34	N40E10 灰色粘質土 090907	須地窓	高台付皿	(18.8)	(12.0)	3.5	回転ナデ	底、白色細砂粒を少し含む	良好	灰白色	
71-4	34	N25.0.5 番No 753 100806	須地窓	高台付仔	(8.1)			ナデ、回転ナデ	底、1m以下の白、黒色砂粒を多く含む	良好	灰褐色	
71-5	34	N40E10 黄褐色灰白色土 091116	須地窓	仔	(13.2)	(8.2)	3.9	ナデ、回転ナデ、回転カズリ	底、白・黒色砂粒を少し含む	良好	灰褐色～明青灰褐色	
71-6	34	N25W5.5 番No 1103 100921	須地窓	仔	(11.0)	(8.0)	4.9	ナデ、回転ナデ	底、1m以下の白、黒色砂粒を少し含む	良好	灰褐色	漆付着
71-7	34	N40E10 灰色粘質土 091117	須地窓	仔	(14.0)			ナデ、回転ナデ	底、1m以下の白、黒色砂粒を少し含む	良好	灰褐色	
71-8	34	N40.0.5 番No 413 100709	須地窓	高台付 窓カ		(13.2)		ナデ、回転ナデ、棘り皿、切切りカ	底、1m以下の白色砂粒を多く含む	良好	灰褐色～赤褐色	底外側墨書き「□」
71-9	34	N40E5.5 番 100924	須地窓	蓋				回転ナデ	底、白・黒色砂粒を確かに含む	良好	灰褐色	
71-10	34	N40E10.6 番 100727	須地窓	蓋				回転ナデ	底、1m以上の白、黒色砂粒を多く含む	良好	灰褐色	
71-11	34	N35.0.5 番 100726	土師窓	仔				ナデ、回転カズリ	底、細砂粒を僅かに含む	良好	浅黄褐色	漆付着
71-12	35	N45W5.5 番No 1137 100823	土師窓	高窓				ナデ、面取り	底、3mm以下の砂粒を多く含む	良好	浅黄褐色	低脚
71-13	35	N40W5.5 番No 933 100823	土師窓	蓋	(28.0)			ナデ、ハラケカズリ	底、2mm以下の砂粒を多く含む	良好	浅黄褐色	
71-14	35	N40.0.5 番No 241 100623	瓦	軒丸瓦					砂粒を多く含む	良好	青褐色	軟質、出雲国分寺2号、瓦当面
71-15	35	N35.0.5 番No 361 100708	瓦	丸瓦				凸面：ナデ凹面：布引口瓶、側縫隙 縫隙カズリ	底、細砂粒を少し含む	やや不良	灰白色	軟質、広端部
72-1	35	西脇杏区ハイド 111013	須地窓	窓カ				回転ナデ	底、細砂粒を少し含む	良好	灰褐色	墨書き
72-2	35	N35.0.5 番調査区埋 100701	須地窓	仔				ナデ、回転ナデ	底、1m以上の白、黒色砂粒を多く含む	良好	灰褐色	
72-3	35	N40W5.5 クランク1番 1153 110924	須地窓	長脚窓				回転ナデ	底、細砂粒を僅かに含む	良好	灰褐色	漆付着
72-4	35	N35.0.5 番調査区埋 100701	須地窓	仔				ナデ、回転ナデ、静止系切り	底、1m以下の砂粒を少し含む	良好	灰褐色	
72-5	35	ハイド 100826	須地窓	仔				ナデ、回転ナデ、静止系切り	底、1m以下の白、黒色砂粒を多く含む	良好	灰褐色	
72-6	35	西脇杏区ハイド 111011	日本 陶器	山茶碗カ				回転ナデ、研磨痕カ	底、細砂粒を種類かに含む	良好	灰褐色	東海丸、内面赤色頭 料付着
72-7	35	N35.0.5 番炭土 100630	日本 陶器	蓋カ				タガ方向の平行タ タガ、蓋カ	底、1m以下の白、黒色砂粒を多く含む	良好	青灰～赤褐色	珠洲丸
74-1	35	トレント P2 100616	土師窓	仔	(6.0)			ナデ、構ナデ、回 転ナデ、回転系切り	底、2ミリ以下の砂 粒を多く含む	良好	灰褐色	
74-2	35	トレント P2 100616	土師窓	仔	(8.1)	(2.0)	2.4	ナデ、系切り	底、1.3ミリ以下の砂 粒を多く含む	良好	淡黄褐色	
74-3	35	トレント P2 100616	土師窓	足高台 肩仔				ナデ、構ナデ	底、2ミリ以下の砂 粒を多く含む	良好	淡黄褐色	
74-4	35	トレント P2 100616	土師窓	柱状高台 肩仔		4.9		ナデ、構ナデ、回 転系切り	底、1.3ミリ以下の砂 粒を多く含む	良好	淡黄褐色	

第3表 出雲国府跡出土玉作関連遺物観察表

博団 番号	写真 回数	出土遺跡名 出土年月日	石材	器種	製作段階	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
15-18	16	2層 100610	カド石 平玉			1.6	1.2	0.5	1.50	緑色の石材を使用。横円形
15-19	16	東隅倉区 2層 110715	メノウ 平玉			1.2	1.4	0.65	1.57	楕円形、白メノウ製
15-20	16	2層 100611	メノウ 平玉			1.1	0.85	0.55	0.55	楕円形、白メノウ製
15-21	16	2層 100610	メノウ 平玉			3.6	1.0	0.7	1.52	楕円形、白メノウ製
15-22	16	N45E10 2層 100728	カド石 平玉			1.7	1.4	0.8	2.87	楕円形、ぐすんだ赤
15-23	16	西隅倉区 1・2層 110602	メノウ 平玉	成品		2.0	1.7	1.0	4.36	楕円形、白メノウ製
15-24	16	2層 100617	メノウ 平玉	成品		2.2	1.8	1.0	5.94	楕円形、白メノウ製
15-25	16	西隅倉区 2・2層 110603	鈴石 玉石			1.9	2.0	0.4	250	円筒で側面を研削している
15-26	16	2層 100607	鈴石	調整鉋片		2.2	2.2	0.9	4.22	垂直側面を打削して剖離成形
22-9	17	N35W70 75号溝 2層 110624	水晶	範制		3.5	3.2	2.2	24.06	側縁から裏面に通撃。石核か
33-9	19	N35W60 3層 No.2029 110603	水晶 丸玉	成品		1.4	1.4	1.4	1.88	尖端を研削。無穿孔。
33-10	19	N35W70 3層 110609	水晶 平玉	成品		1.2	1.4	0.7	1.59	石英製か。不整形
33-11	19	N35W70 3層 110609	メノウ 平玉	成品		1.4	1.1	0.7	1.44	楕円形、白メノウ製
38-4	20	N45E20 S30% 2・3層 111013	鈴玉	石核		8.0	9.8	5.1	340	側縁から裏面に通撃。背面は裏面
44-1	22	N40E28 48号土坑 1層 100617	鈴石 玉石			11.0	1.25	0.4	1.02	半分欠損。
44-2	22	N40・0.48号土坑 4層 100709	カド石 平玉			1.55	1.4	0.5	1.64	緑色の石材を使用。横円形
44-3	22	48号子2号土坑 091020	鈴玉	原石		13.6	10.2	9.5	1368.10	大型の角擦
44-4	22	N45E10 S30% 2・3層 1151 10924	細粒花 鈴石	鈴石		43.7	18.1	14.5	13750.00	尖端部。3面に作業面
53-2	27	N45W5.3層 100622	水晶	原石		4.0	3.6	2.6	45.31	六角柱状の原石
53-3	27	N40・0.3層 100624	水晶 丸玉	素材		2.1	2.3	1.3	7.55	側面成形時に欠損している
53-4	27	N45W10 3層 100707	水晶 丸玉	鍛打あり		2.0	1.8	1.4	5.66	被削状を打死鍛打
53-5	27	N40E3 3層 100625	メノウ 平玉			1.9	1.6	1.1	5.01	楕円形、白メノウ製
53-6	27	N40E3 3層 100624	メノウ 平玉			2.1	2.1	0.9	5.78	椭形、白メノウ製
53-7	27	N40E5 3層 100622	貝殻 珍石	小粒		1.6	1.2	0.5	1.30	楕円形、黒色貝殻製
53-8	27	N45W3 3層 100625	カド石 平玉			1.15	1.0	0.4	0.70	楕円形、赤褐色
62-20	29	N25・0.49号土坑理土30 100620	貝殻	珍石		1.6	1.3	0.3	0.90	楕円形、黒色貝殻製
63-5	28	N25・0.49号土坑理土30 100805	水晶	原石		3.1	2.7	0.9	97.2	大型品、楕円形
67-1	33	N30・0.4層 548 100802	水晶	原石		5.5	2.6	1.6	31.21	八角柱状の原石
67-2	33	N40E10 サブトレ 4層 100818	水晶 丸玉	調整		1.5	2.0	0.9	3.31	鍛打後に両面穿孔。穿孔時に欠損
67-3	33	N30・0.4層 100707	カド石 平玉			1.2	1.15	0.5	0.80	緑色の石材を使用。円形
67-4	33	N40W5.4層 100819	貝殻 珍石			1.8	1.4	0.4	1.57	楕円形、黒色貝殻製
67-5	33	N30・0.4層 100802	貝殻 珍石			1.95	1.5	0.4	1.95	楕円形、黒色貝殻製
71-18	35	N40E5 5層 100726	水晶	原石		3.2	2.4	2.0	18.69	六角柱状の原石
71-19	35	N40E5 5層 100726	鈴石 珍石			1.7	1.3	0.5	1.36	楕円形

第4表 出雲国府跡出土金属製品観察表

博団 番号	写真 回数	出土遺跡名 出土年月日	種別	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
53-1	27	N45W5.3層 No.281 100625	銅製品	方頭大刀	5.3	3.6	0.1~0.3	44.46	柄頭未完成

第5表 出雲国府跡出土金属器生産関連遺物観察表

機器番号	発掘回数	出土品跡名	出土年月日	種別	胎土	色調	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	メタル度	備考
18.5	16	14号井-2層	2171 110715	羽口	赤、3mm以下の白色砂粒を多く含む	浅黄緑～黒色		2.2	279.60			内径：1.3cm外径：3.8cm
18.6	16	14号井-2層	2175 110715	楕形鋸沿津			5.1	6.0	1.6	46.31	M(○)	
20.9	17	7号窯2150	110706	楕形鋸沿津			7.2	9.4	2.1	115.21	H(○)	
22.10	17	7号窯-1層	2195 110723	楕形鋸沿津			6.9	9.3	2.2	184.12	M(○)	
22.11	17	N30W60.70号窯-1層	110624	楕形鋸沿津			5.2	5.9	2.9	72.48	H(○)	
28.5	18	N30W60 Ph12	110617	鋸沿			2.2	2.8	0.9	15.68	L(●)	
33.1	19	N30W70.3層	110607	鋸沿	赤、砂粒を多く含む	明黄緑～灰白色				19.93		器高：2.8cm
33.2	19	N30W60.3層	110609	鋸沿			2.8	2.7	0.9	10.07	特L(●)	
33.3	19	N30W60.3層	110607	鋸沿			0.9	2.4	0.7	2.92	H(○)	
33.4	19	N30W60.3層	110621	鋸沿			0.8	1.5	0.8	6.20	L(●)	
33.5	19	N30W70.3層	110610	楕形鋸沿津			2.8	4.2	1.4	15.46	鉄化(△)	
33.6	19	N30W70.3層	110608	楕形鋸沿津			7.2	6.7	4.5	290.30	L(●)	
33.7	19	N40W70.3層	110606	楕形鋸沿津			7.4	7.6	3.5	207.36	H(○)	
33.8	19	N30W60.3層	110606	楕形鋸沿津			6.6	6.9	2.3	115.56	H(○)	
58.11	28	N40.10号窯サット	110901	羽口	赤、3mm以下の砂粒を多く含む	浅黄緑～灰白色				2.8	88.0	内径：2.0cm外径：4.5cm
67.6	33	N25.4号窯	100804	楕形鋸沿津			3.2	4.0	2.3	23.62	H(○)	
67.7	33	N40.4号窯	100827	楕形鋸沿津			6.0	7.7	2.5	99.0	鉄化(△)	
71.16	35	N40.5号窯	100709	羽口	赤色砂粒を少し含む	灰白～浅黄緑色	5.4	6.6	1.9	68.73		内径：1.2cm外径：3.2cm
71.17	35	N25.5号窯	100917	楕形鋸沿津			7.4	8.7	3.0	252.0	M(○)	
72.8	35	西阿佐区ハイド	111017	楕形鋸沿津			6.4	7.7	2.5	120.0	M(○)	

第6表 出雲国府跡出土金属器生産関連遺物集計表

地区	遺物名	内窯窯口													
		2号窯	3号窯	5号窯	14号窯	(4号窯)	7号窯	7号窯	8号窯	9号窯	10号窯	11号窯	12号窯		
		合数	重量(g)	点数	重相(g)	点数	重相(g)	点数	重相(g)	点数	重相(g)	点数	重相(g)		
楕形鋸沿津	L(●)	1	290.30												
	M(○)	1	192.24												
	H(○)	1	92.42	18	1,159.15	6	265.84					2	255.88		
	鉄化(△)	10	707.66	1	53.66							1	72.48		
鋸沿津	M(○)				1	14.00									
	H(○)	3	27.24	10	123.25							20	29.59		
	鉄化(△)	4	18.58	72	385.47	15	49.36					12	27.24		
	L(●)											1	11.69		
鋸沿	L(●)														
	10号窯(●)														
	鋸沿														
	H(○)														
1号窯	L(●)	1	16.65	76	1,159.97	6	77.63	4	321.79	11	35.46	5	84.82		
	10号窯	33	157.41	99	604.25	18	160.45	6	10.34	355	263.39	25	78.92		
	10号窯(●)												35	160.35	
	1号窯(●)				1	7.95									
10号窯	羽口				2	30.43									
	羽根(●)				2	57.94	1	30.04							
	羽根(△)				11	51.31									
	羽根(△)羽根(●)				1	3.76							1	1.72	
1号窯(●)	(50)	43	504.54	307	4,604.39	40	655.98	12	381.57	607	329.78	31	426.48		
	内窯窯口												64	782.44	
	地盤														
	(50)														
地区	遺物名	5号窯	6号窯	7号窯	Pt1	6号窯	7号窯	Pt2	8号窯	9号窯	10号窯	11号窯	12号窯	計	
		合数	重量(g)	点数	重相(g)	点数	重相(g)	点数	重相(g)	点数	重相(g)	点数	重相(g)	重量(g)	
		L(●)												290.30	
		M(○)												614.43	
楕形鋸沿津	H(○)													26	1,738.02
	鉄化(△)													11	761.32
	M(○)													1	14.00
	H(○)	1	1.05	5	5.88	1	12.73	5	17.79			2	21.40	53	411.35
鋸沿津	鉄化(△)	1	56.19	117	1,028.32									121	529.86
	L(●)													1	1.14
	10号窯(●)													1	10.07
	L(●)													2	21.68
鋸沿	L(●)													1	2.92
	H(○)													5	56.19
	1号窯	1	1.31	4	3.94	2	12.42	5	14.47	3	8.81	3	15.66	789	1,496.52
	10号窯													1	7.95
羽口	羽根(●)													1	6.12
	羽根(△)													3	87.98
	羽根(△)羽根(●)													11	51.31
	羽根(△)羽根(●)													1	1.72
羽根	羽根(△)													1	3.76
	(50)	2	2.36	9	9.82	3	25.15	11	50.72	51	30.61	11	213.25	1,151	8,009.40

遺物名	第47号坑													
	2a期		2b期		3期		4期		4a期		5期			
	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)		
M (C)			1	31.37					2	268.21				
陶型陶冶序	(H, C)		2	141.16	2	94.93	4	140.17	2	73.49	1	56.67		
陶型陶冶序	(H, C)		2	99.03	2	168.03					1	97.66		
M (C)														
陶冶序	H (C)	2	47.83		10	179.99	17	317.45	2	3541	4	33.84		
陶冶序	H (C)	2	17.30		17	145.21	42	354.66			3	11.15		
陶冶	L (●)													
H (C)														
III		4	22.20		18	203.94	25	584.02	1	429	5	115.73		
动物		6	35.36		31	226.42	25	283.32				1	5.34	
竹席(席)								1	6.01					
竹席		3	11.08		2	181.6								
竹(竹)与竹席							2	21.06		4	22.78			
竹席								1	26.39					
合计	15	133.77	2	141.16	84	1.025.44	120	1.875.94	5	113.19	20	628.04	1	5.34
第48号坑														
遺物名	26号坑		47号坑		P010		48号坑		49号坑		73号坑			
	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)		
M (C)					1	109.77	1	222.34						
陶型陶冶序	(H, C)					1	71.92			1	16.90			
陶化(C)														
M (C)														
陶冶序	H (C)	4	106.90				2	33.48			2	30.83		
陶化(C)	3	10.61	1	15.22			8	68.05						
陶冶	L (●)													
H (C)														
III			1	18.41							2	104.07		
动物					1	3.84								
竹席(席)									1	2.26				
竹席														
竹(竹)与竹席														
竹席														
合计	3	10.61	6	140.53	1	1.84	12	283.22	2	224.60	1	16.90	4	134.90
第49号坑														
遺物名	53号坑		57号坑		48号坑		58号坑		69号坑		74号坑			
	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)		
M (C)											5	651.69		
陶型陶冶序	H (C)	1	36.18	2	86.33	4	184.08				20	901.83		
陶化(C)											5	364.72		
M (C)					1	9.85					1	9.85		
陶冶序	H (C)	3	46.32	8	117.98			2	19.98		56	972.01		
陶化(C)	2	3.45	6	29.84						81	632.70			
陶冶	L (●)							1	3.98	1	8.57	2	12.55	
H (C)											1	1.22		
III		2	68.33	5	88.86				1	38.00	64	1.247.85		
动物		4	13.35	14	87.76	1	1.76	2	186.3	1	16.16	85	690.18	
竹席(席)											1	6.01		
竹席									1	3.00		34.50		
竹(竹)与竹席					1	2.18					7	46.02		
竹席											1	2.39		
合计	1	36.18	14	219.96	98	518.37	11	1.76	6	45.59	3	62.73	339	5.622.07

第7表 出雲国府跡 47号土坑出土金属器生産関連遺物集計表

47号坑	A		B		C		D		E		F		总计	
	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)		
陶冶序	[鍛化(C)]	2	5.06	3	0.29				15	16.10	3	0.99	2	0.55
陶冶序									2	8.78				
47号坑		2	5.06	3	0.29	81	0.00	17	24.88	3	0.99	2	0.55	
47号坑	G		H		I		J		K		L		总计	
	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)		
陶冶序	[鍛化(C)]	6	0.87	10	4.51	2	1.30	2	1.92	2	4.04	47	35.63	
陶冶序		3	4.38	1	4.45							6	17.61	
47号坑		9	5.25	11	8.96	2	1.30	2	1.92	2	4.04	53	53.24	



47号土坑

第8表 出雲国府跡出土玉作関連遺物・石器集計表

品目	原石		剥削		素材		調整加工		削打		手工作業	
	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)
内調査区												
1 級									1	37.60		
2a 級	6	111.67	14	196.27					49	187.39		
3 級	22	574.36	24	361.50			4	22.90	43	153.80		1 1.59
5 級	1	9.71	2	38.52								
14 号用印			1	15.62					2	10.50		
14 号用印 (外此表記)									307	32.00		
74 号磨			3	27.55					4	14.59		
75 号磨	3	86.19										
62 号土坑	7	61.58										
63 号土坑	7	54.30										
Pt10	1	8.20										
磨土	2	50.89							3	125.66		
抹									1	0.09		
抹集品												
計	37	960.94	44	639.46	0	0	4	22.90	409	524.01	0	0 1 1.59
外調査区												
1 級									2	6.48		
2a 級	23	322.03	5	58.35			10	46.04	67	86.80		
2b 級	1	68.94					1	7.59	5	5.76		
3 級	21	408.26	14	189.05	1	2.96			23	51.71	2	10.87
4 級			2	27.65					15	33.39		
4a 級	9	164.51							3	9.60		
4b 級			1	27.99			1	1.99				
5 級	1	18.69	1	40.28					5	9.14		
76 号磨			3	26.63								
47 号土坑 (外此表記)									8	1.62		
48 号土坑	1	18.54			1	9.01			2	6.01		
SM05									1	0.55		
53 号土坑									1	2.90		
116号民遺物									3	35.53		
57 号土坑 (外此表記)	1	7.51										
废土	3	178.89					1	5.93	1	0.57		
埋炭土	1	14.42	2	17.40					2	5.36		
計	63	1,301.79	28	389.35	2	11.97	13	61.55	139	255.42	2	10.87 0 0
合計	190	2,162.73	72	1,026.81	2	11.97	17	84.45	549	817.05	2	10.87 1 1.59
丸塗												
品目	石材		調整		削打あり		完成品		統計			
点数	重さ(g)	点数	重さ(g)	点数	重さ(g)	点数	重さ(g)	点数	重さ(g)	点数	重さ(g)	点数
西調査区												
1 級									1	37.60		
2a 級									70	499.69		
3 級							1	3.88	95	1,118.03		
5 級									3	48.23		
14 号用印 (外此表記)									3	26.12		
74 号磨									307	32.00		
75 号磨									7	42.14		
62 号土坑									3	86.19		
63 号土坑									1	65.58		
Pt10									1	8.20		
废土									5	176.59		
抹									1	0.09		
抹集品												
計	0	0	0	0	0	0	1	3.88	496	2,194.76		
東調査区												
1 級									3	6.48		
2a 級			2	24.10					107	517.32		
2b 級									9	82.29		
3 級	3	17.15			1	5.66			66	685.66		
4 級			1	3.31					18	64.35		
4a 級									12	174.11		
4b 級									2	29.98		
5 級									7	68.11		
76 号磨									3	28.63		
47 号土坑 (外此表記)									8	1.62		
48 号土坑									4	33.56		
77 号磨									1	0.55		
53 号土坑									3	2.90		
116号民遺物									3	35.53		
57 号土坑 (外此表記)									1	7.51		
废土	3	17.15	3	27.41	1	5.66	0	0	254	1,981.17		
合計	3	17.15	3	27.41	1	5.66	1	3.88	752	4,175.93		

地区	原石		石核		剥削		調整剥削		剥削		平均		完成品		粗品		
	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	
内湖地区	2a 稚		1	19.62			5	18.21			5	18.21					
	3 稚						12	156.80			13	176.42					
	3 稚						1	6.60			1	6.60					
	3 稚						1	0.76			1	0.76					
	14.4月15日 (未完成品)						19	10.70			19	10.70					
	14.4月15日 (未完成品)									7	31.02						
	磨土									7	31.02						
	計	0	0	1	19.62	0	0	0	0	45	224.09	0	0	46	243.71		
米国地区	2a 稚			1	64.33		2	9.93	24	70.29			27	144.55			
	2b 稚	1	39.91						3	13.56			4	53.47			
	3 稚			2	82.40				14	110.77			16	199.17			
	4 稚								4	15.91			4	15.91			
	4a 稚								1	10.91			1	10.91			
	5 稚				1	15.93			4	12.09			5	28.02			
	49号土坑	1	1,368.10						2	8.66			3	1,376.76			
	SX05			1	340.00								1	340.00			
	50号土坑								1	2.49			1	2.49			
	14.4月15日 (未完成品)						1	7.13	3	45.53			4	52.66			
	磨土								2	46.28			2	46.28			
	埋土								2	6.42			2	6.42			
	計	2	1,408.01	4	406.73	1	15.93	3	17.06	60	342.91		70	227.01			
TSS				21	1,408.01	5	506.35	1	15.93	31	17.06	106	567.07	0	0	117	2374.42
	(合計)																
カサ石	原石		石核		剥削		調整剥削		剥削		平均		完成品		粗品		
点数	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	
内湖地区	2a 稚	2	24.54			4	41.55	9	48.08	1	1.50			16	115.67		
	3 稚	2	271.40	1	393.66			1	10.12	9	256.60			13	931.78		
	14.4月15日 (未完成品)								29	13.64			29	13.64			
	75号土						2	12.99	1	2.23			3	15.22			
	磨土			2	46.23				6	16.78			8	63.01			
	計	4	295.94	3	439.89	0	0	7	64.66	54	337.33	1	1.50	0	0	69	1,139.32
米国地区	1 稚								1	28.12				1	28.12		
	2a 稚	2	56.53				1	15.27	9	49.15	1	2.87		13	123.82		
	2b 稚	2	88.05					1	3.64	1	2.74		4	94.61			
	3 稚			6	736.60				11	126.39	1	0.89	1	0.70	19	866.58	
	4 稚			1	30.90				4	6.04			5	36.94			
	4a 稚								2	32.38			2	32.38			
	5 稚								4	9.35			4	9.35			
	48号土坑			1	30.96				3	53.11	1	1.64		5	85.21		
	28号土								1	10.74			1	10.74			
	SX05	1	120000										1	120000			
	23号土	1	560000										1	560000			
	14.4月15日 (未完成品)			1	41.49				1	1.33			2	42.82			
	磨土						1	18.27	2	22.15			3	40.41			
	計	8	804.58	7	778.09	3	141.41	3	46.47	41	365.45	4	8.14	1	0.70	45	2,164.88
	(合計)	10	1,120.52	10	1,217.98	3	141.41	10	111.13	95	762.78	5	9.64	1	0.70	134	3,304.70
メノウ	原石		剥削		平均		剥削		平均		完成品		馬打丸		粗品		
点数	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	
内湖地区	2a 稚	1	24.69			13	81.31			1	4.36			15	110.36		
	3 稚	3	50.89		1	7.27	8	42.44			1	1.44			13	102.04	
	14.4月15日 (未完成品)						5	5.14					5	5.14			
	74号土						1	0.66					1	0.66			
	計	4	75.58	0	0	1	7.27	27	129.55	0	0	2	5.8	0	0	34	218.62
米国地区	1 稚	1	9.94	1	18.82			2	15.51					2	18.51		
	2a 稚						13	57.05	7	29.77	5	15.36	1	4.91	28	135.85	
	2b 稚					1	3.30	1	2.05				2	2.41			
	3 稚	4	291.62	3	168.38			8	20.05	1	19.99	1	5.01			15	500.25
	4 稚			2	41.16			2	1.94				4	47.10			
	4a 稚			1	68.89			4	10.50				2	29.51			
	5 稚				1	27.47							1	2.74			
	53号土坑	1	2.19										1	2.19			
	53号土坑	1	1.72										1	1.72			
	14.4月15日 (未完成品)	3	183.94										3	183.94			
	磨土	1	85.72			1	26.29						2	112.63			
	埋土							3	5.52				1	5.52			
	計	11	575.13	7	299.21	3	32.33	31	136.40	8	49.76	6	20.37	1	4.91	67	1,118.11
	(合計)	15	650.71	7	299.21	4	39.60	58	265.95	8	49.76	8	26.17	1	4.91	101	1,336.11

石英	原石			粗粒			原石			粗粒			粗粒			
	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	
西湖地区	2a型	1	11.56	1	1.46		48号十块			1	13.750.00		1	13.750.00		
	3型	2	62.88	2	6.28		埋炭土			1	1.230.00		1	1.230.00		
	5型	1	1.91	1	1.91		T55			1	640.00		1	640.00		
	64号十块	1	36.41	1	3.64		合計			1	640.00		1	13.750.00		3) 15.620.00
	合計	6	92.76	6	9.276											

黒曜石	原石			粗粒			原石			粗粒			粗粒			
	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	
西湖地区	2a型	1	5.04	1	3.91	4	8.95			1	8.24		1	8.24		
	2b型	1	5.04	3	9.11	3	9.11			1	0.85		1	0.85		
	3型	1	1.76	1	1.76					1	1.47		1	1.47		
	76号薄	1	13.03	1	13.03					1	9.09		1	9.09		
	採集品	1	5.04	28	55.33	10	33.57									
合計																

老の地	石器			鉄器			骨器			玉器			石器		
	(64号十块)	(48号十块)	(3号)	点数	重量(g)										
東湖地区	2b型			1											
	3型			1											
	4型			1											
	48号十块			1											
	合計			1											
合計															

黒色頁岩	頁岩			頁岩			頁岩			頁岩			頁岩			
	平玉	半玉	半玉	点数	重量(g)											
西湖地区	2a型	1	1.55	1	12.11	2	13.66									
	3型			1	3.78			1								
	76号薄			1	1.61			1								
	合計	0	0	3	6.94	1	12.11	4	19.05							
				4		2		4		4		4		4		
東湖地区																
	2a型	4	6.11	2	4.72			6	10.83							
	4型			1	45.29			1	45.29							
	53号十块	1	10.08					1	10.08							
	57号十块	2	96.10					2	96.10							
	埋炭土	2	3.22					2	3.22							
合計																
合計																

鍾石	鍾石			鍾石			鍾石			叩打			不明な製品			石核			粗粒		
	平玉	半玉	半玉	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)
西湖地区	2a型	3	5.98	2	3.88	1	2.94			1	65.80		7	76.56		3	5.98				
	3型			1	2.61	1	2.21			1	380.00		3	265.55		3	69.68				
	75号薄			1	0.90											1	0.90				
	合計	3	5.98	3	4.78	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	65.80	22	1,256.76			
				11		1				1	400.00		3	384.21		3					
東湖地区																					
	2a型	1	2.00	1	2.21																
	4型	2	1.57																		
	5型	1	1.36																		
	48号十块	2	2.66																		
	49号十块	1	97.20																		
合計																					
合計																					
合計																					
合計																					
合計																					

第9表 王墓国府跡出土陶磁器集計表

第10表 出雲国府跡出土瓦集計表

種別	分類	内調査区										西調査区							
		1組		2組		3組		4組		5組		6組		7組					
		破片数	調査数	重量(g)	破片数	調査数	重量(g)	破片数	調査数	重量(g)	破片数	調査数	重量(g)	破片数	調査数	重量(g)			
軒丸瓦	出雲國分寺(2組)	3			2			860			3			3	0	860			
	3組				2			840						2	0	840			
	不明(破質)				2			120						0	0	0			
	不明(軟質)													2	0	120			
	合計	0	0	0	0	0	0	1,820	0	0	0	0	0	7	0	1,820			
平瓦	輪巻き							240						1	0	240			
平瓦	1枚作り	1	540	1	150	7	1	1,040						9	1	1,730			
	1枚作り(2組)				5			250						7	0	260			
	1枚作り(3組)				2			50						3	0	250			
	輪タタキ				3			450						10	0	550			
	輪タタキ(2組)				3			350						3	0	2,250			
平瓦	1枚作り	1	1	1	2	1	280	4	960					3	0	340			
	1枚作り(1組)				1									6	1	1,360			
	1枚作り(2組)				1									0	0	0			
	1枚作り(3組)				1									0	0	0			
	1枚作り(4組)				1									0	0	0			
	1枚作り(5組)				1									0	0	0			
	1枚作り(6組)				1									0	0	0			
	1枚作り(7組)				1									2	0	360			
	1枚作り(8組)				1									1	0	180			
	1枚作り(9組)				1									0	0	0			
	1枚作り(10組)				1	1	120							0	0	0			
	1枚作り(11組)				1									4	1	910			
	1枚作り(12組)				1			730						17	0	860			
	1枚作り(13組)				2			580						1	0	120			
	1枚作り(14組)				1			120						0	0	0			
	1枚作り(15組)				1									0	0	0			
	1枚作り(16組)				1									0	0	0			
	1枚作り(17組)				1									0	0	0			
	1枚作り(18組)				1									0	0	0			
	1枚作り(19組)				1									0	0	0			
	1枚作り(20組)				2			390						2	0	390			
	不明(軟子)(破質)				2	1	160	4	390	1	40			7	1	390			
	不明(軟子)(軟質)				1									36	5	5,645			
平瓦	1枚作り	1	280	4	540	26	5	4,380	4	365	1	80		0	0	0			
	1枚作り(2組)													0	0	0			
	1枚作り(3組)													0	0	0			
平瓦	1枚作り							100						1	0	100			
平瓦	1枚作り													6	0	498			
	1枚作り(2組)													25	2	9,580			
	1枚作り(3組)													2	0	26,753			
丸瓦	有段式(1組)	2	0	820	54	8	5,950	172	10	18,778	8	0	920	3	0	280			
	有段式(2組)							510					1	40	3	0	550		
	有段式(3組)							80	1	1	160			2	1	240			
丸瓦	無段式													0	0	0			
	無段式													0	0	0			
丸瓦	不明	1	70	3	300	20	1	1,420	1	60				25	1	1,850			
	不明	1	50	15	2	1,680	87	5	8,500	1	150	4	500	108	7	10,920			
	不明	2	0	120	18	2	1,980	110	31	10,510	3	1	410	5	0	540			
	不明	3	0	0	18	0	500	150	4,270	3	140	8	410	179	0	5,320			
	不明	4	0	0	18	0	500	154	4,310	3	0	140	8	0	410	183	0	5,360	
	合計	0	0	0	18	0	500	154	0	4,310	3	0	140	8	0	410	183	0	5,360

種別	分類	実測値(%)														
		1群			2群			2群			4群					
		頭(個)	脚(個)	重量(g)	頭(個)	脚(個)	重量(g)	頭(個)	脚(個)	重量(g)	頭(個)	脚(個)	重量(g)			
糞丸虫	出雲型(分母)				570		3	340	15	2,630	4	2,200	1	60		
	1群															
	不明 (無理)										1	90				
	不明 (有理)				1	40					1	1,160	1	40		
	合計	0	0	0	2	0	610	1	0	180	27	0	3,890	5	290	
平足	特異型							1	104	1	180	1		280		
	糞タキラ															
	糞タキラ 日研四				3	360					15	2	2,871	4	1,400	
	糞タキラ 日研四							1	520	7	1	3,130	2	700		
	糞タキラ 日研四										5	1	574			
	糞タキラ 日研四-2															
	不明 糞タキラ (無理)				5	240	2	340	22	1,460				2	100	
	不明 糞タキラ (無理)					1	40				22	1	4,050	1	180	
平足	1枚作合															
	筋子1										4	650				
	筋子2				3	1	1,140	1	100	7	1	2,240				
	筋子3										1	210				
	筋子4				1	100					2	1	500			
	筋子5				1	90										
	筋子6				1	40										
	筋子7									2	360					
	筋子9									1	100					
	筋子10															
	筋子11									1	1	30				
	筋子12									2	340					
	筋子13									1	160					
	筋子15									3	270					
	筋子16								1	120						
	筋子18															
	筋子19															
	筋子21									2	140	1	180			
	不明 糞タキラ (無理)				1	80	7	1	560	2	280	21	1	4,340	2	400
	不明 糞タキラ (無理)				2	140	1	140	5	720	50	1	6,460			
平足	1枚作合															
	筋子9											3	319			
	筋子9-2											2	300			
	平足筋子9-2 (無理)													1	120	
平足	1枚作合															
	ナダ															
	ナダ															
	1枚作合															
	タキラ-平型 (無理)													1	50	
	タキラ-平型 (無理)				1	200	37	6	3,520	17	1	4,400	190	10	19,240	
	タキラ-平型 (無理)				2	140	1	140	5	720	50	1	6,460			
	合計	4	0	420	61	8	6,520	30	1,394	383	21	45,224	14	1	3,180	
丸足	有理式															
	A. 硬脚1				1	40	1	40	3	250	6	2	3240			
	硬脚1										6	860				
	硬脚2															
	硬脚2				1	1	100				3	3	940			
	硬脚2				2	180	8	1	700	1	80	26	3	1,900		
	硬脚2				4	340	16	2	5,510	4	1	590	189	25	25,140	
	硬脚2				7	0	560	26	4	2,350	8	1	870	230	33	32,080
	不明				18		220				16	260	1	5		
	不明				3	1	100	119	1	3,100	25	0	690	600	0	21,380
	合計	1	0	100	119	1	3,100	25	0	690	600	0	1,678	6	0	1,530

種別	分類	東調西(区)												東調西(区)			計				
		45-50				51-60				71-80				81-90			合計				
		瓶内数	瓶数	重量(g)	瓶内数	瓶数	重量(g)	瓶内数	瓶数	重量(g)	瓶内数	瓶数	重量(g)	瓶内数	瓶数	重量(g)	瓶内数	瓶数	重量(g)		
軒丸瓦	出雲屋分身	2	1	2	3	0	160							25	0	3,780	28	0	4,640		
	3	0												0	0	0	2	0	940		
	4	0												1	0	90	1	0	90		
	(破損)																13	0	1,240		
	不明																15	0	1,360		
	(破損)																	39	0	5,110	
	合計	0	0	0	3	0	160	0	0	0	0	0	0	39	0	5,110	46	0	2,529		
平丸	輪登子	縦タタキ												1	91		4	0	657		
	1枚作り	縦タタキ	2	1	2	3	0	160						3	300	25	3	4,951	34	4	6,681
	2	0												10	1	4,350	17	1	5,110		
	(破損)													5	1	574	8	1	824		
	不明													2	60	33	0	2,200	43	0	2,760
	(破損)													3	1	330	28	2	4,720		
	合計	0	0	0	3	0	160	0	0	0	0	0	0	48	2	6,970					
平丸	輪登子	縦タタキ												4	0	650	7	0	990		
	1枚作り	縦タタキ	2	1	2	3	0	160						11	2	2,340	17	3	3,600		
	2	0												1	0	210	1	0	210		
	(破損)													1	0	90	1	0	90		
	不明													1	0	40	1	0	40		
	(破損)													1	0	40	1	0	40		
	合計	0	0	0	3	0	160	0	0	0	0	0	0	4	0	650	5	0	990		
平丸	1枚作り	筋子	1	1	1	2	0	160						1	91		1	0	100		
	2	0												1	0	100	1	0	280		
	3	0												6	0	0	1	1	120		
	4	0												1	0	210	2	1	350		
	5	0												2	0	140	6	1	1,070		
	6	0												1	0	160	18	0	1,620		
	7	0												3	0	210	4	0	330		
	8	0												1	0	120	1	0	120		
	9	0												0	0	0	0	0	0		
	10	0												1	0	180	1	0	180		
	11	0												1	0	180	1	0	180		
	12	0												3	0	320	5	0	710		
	13	0												32	2	5,580	39	3	6,170		
	14	0												1	0	30					
	15	0												1	60	58	1	7,410	94	6	13,055
平丸	1枚作り	筋子	1	1	1	2	0	160						1	66	4	0	385	4	0	385
	2	0												2	0	300	2	0	300		
	(破損)													1	0	120	2	0	220		
平丸	1枚作り	手行	1	1	1	2	0	160						1	66	4	0	385	4	0	385
	2	0												2	0	300	2	0	300		
	(破損)													1	0	120	2	0	220		
平丸	1枚作り	手行	1	1	1	2	0	160						1	120	22	1	1,760	28	1	2,258
	2	0												4	0	260	18	25,650	364	20	35,230
	(破損)													4	0	220	2	0	220		
	3	0												1	0	20	7	900	261	18	28,820
	4	0												2	0	460	222	29	28,820		
	5	0												3	0	380	1	0	160		
	6	0												2	0	460	222	29	28,820		
	7	0												2	0	690	281	41	37,180		
	8	0												2	0	45	37	0	530		
	9	0												1	0	160	1,605	835	2	28,099	
	10	0												0	0	0	39	1	1,605		
	11	0												0	0	0	0	0	0		
	12	0												14	0	320	8	0	220		
	13	0												37	1	1,560	797	2	27,549		
	14	0												37	1	1,560	797	2	27,549		
	15	0												14	0	320	8	0	220		
	16	0												37	1	1,560	797	2	27,549		
	17	0												37	1	1,560	797	2	27,549		
	18	0												37	1	1,560	797	2	27,549		
	19	0												37	1	1,560	797	2	27,549		
	20	0												37	1	1,560	797	2	27,549		
	21	0												37	1	1,560	797	2	27,549		
	22	0												37	1	1,560	797	2	27,549		
	23	0												37	1	1,560	797	2	27,549		
	24	0												37	1	1,560	797	2	27,549		
	25	0												37	1	1,560	797	2	27,549		
	26	0												37	1	1,560	797	2	27,549		
	27	0												37	1	1,560	797	2	27,549		
	28	0												37	1	1,560	797	2	27,549		
	29	0												37	1	1,560	797	2	27,549		
	30	0												37	1	1,560	797	2	27,549		
	31	0												37	1	1,560	797	2	27,549		
	32	0												37	1	1,560	797	2	27,549		
	33	0												37	1	1,560	797	2	27,549		
	34	0												37	1	1,560	797	2	27,549		
	35	0												37	1	1,560	797	2	27,549		
	36	0												37	1	1,560	797	2	27,549		
	37	0												37	1	1,560	797	2	27,549		
	38	0												37	1	1,560	797	2	27,549		
	39	0												37	1	1,560	797	2	27,549		
	40	0												37	1	1,560	797	2	27,549		
	41	0												37	1	1,560	797	2	27,549		
	42	0												37	1	1,560	797	2	27,549		
	43	0												37	1	1,560	797	2	27,549		
	44	0												37	1	1,560	797	2	27,549		
	45	0												37	1	1,560	797	2	27,549		
	46	0												37	1	1,560	797	2	27,549		
	47	0												37	1	1,560	797	2	27,549		
	48	0												37	1	1,560	797	2	27,549		
	49	0												37	1	1,560	797	2	27,549		
	50	0												37	1	1,560	797	2	27,549		
	51	0												37	1	1,560	797	2	27,549		
	52	0												37	1	1,560	797	2	27,549		
	53	0												37	1	1,560	797	2	27,549		
	54	0												37	1	1,560	797	2	27,549		
	55	0												37	1	1,560	797	2	27,549		
	56	0												37	1	1,560	797	2	27,549		
	57	0												37	1	1,560	797	2	27,549		
	58	0												37	1	1,560	797	2			

種別	分類	西側地区												東側地区											
		14号井			14号井(水洗過濾)			74号井			75号井			63号土坑			61号土坑								
		掘行数	掘数	重量(g)	掘行数	掘数	重量(g)	掘行数	掘数	重量(g)	掘行数	掘数	重量(g)	掘行数	掘数	重量(g)	掘行数	掘数	重量(g)						
軽丸瓦	出雲國分寺之類										1		740												
軽平瓦	(出雲國分寺之類)												1	570											
	合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,310	0	0	0	0	0	0						
平瓦	1枚作今	不明	織笠タキ (被質)					1	120	1	40														
		織笠タキ (被質)						1	100	3	300														
平瓦	1枚作今	織子1									1	70													
		織子2																							
		織子10						1	460																
		織子12	1	340							1	240	1	140											
		織子15																							
		織子19																							
		不明織子	織笠タキ (被質)								1	120													
			織笠タキ (被質)																						
平瓦	1枚作今	平打																							
		平打	(被質)																						
平瓦	1枚作今	タタキ不明	(被質)					3	1	440	4	370													
		タタキ不明	(被質)																						
	合計	8	0	1,070	1	0	50	6	1	1,120	15	0	1,520	11	0	140	0	0	0						
丸瓦	3段式	被質																							
		被質																							
丸瓦	半周	被質	3	230																					
		被質	4	850	1	0	56	3	320	2	160	1	220												
	合計	7	0	1,080	1	0	56	3	0	320	2	0	160	1	0	220	0	0	0						
不明		被質						1	5		1	5													
		被質	6	320					4	190	25	640					1	40							
	合計	6	0	320	1	0	5	4	0	190	26	0	645	0	0	0	1	0	40						
種別	分類	西側地区												東側地区											
		64号土坑			72号			沿路状況標			70号井			76号井			月形状況標								
掘行数	掘数	重量(g)	掘行数	掘数	重量(g)	掘行数	掘数	重量(g)	掘行数	掘数	重量(g)	掘行数	掘数	重量(g)	掘行数	掘数	重量(g)								
軽丸瓦	出雲國分寺之類					1	0	740																	
	不明					0	0	0										1	60						
軽平瓦	(出雲國分寺之類)					1	0	570																	
	合計	0	0	0	2	0	1,310	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	60						
平瓦	1枚作今	不明	織笠タキ (被質)			2	0	160																	
		不明	織笠タキ (被質)			3	0	540									1	40							
平瓦	1枚作今	織子1				1	0	70								1	80								
		織子2				0	0	0				1	380												
		織子10				1	0	460																	
		織子12				3	0	720																	
		織子15				0	0	0																	
		織子19				0	0	0																	
		不明織子	織笠タキ (被質)			1	0	120				1	180												
		不明織子	織笠タキ (被質)			8	0	900				1	240												
平瓦	1枚作今	平打	タタキ不明	(被質)		0	0	0																	
平瓦	1枚作今	タタキ不明	(被質)			0	0	0									1	20							
	合計	0	0	0	10	1	930						1	20											
丸瓦	3段式	被質				0	0	0				1	2	680											
		被質				0	0	0				1	2	200											
丸瓦	半周	被質				3	0	230																	
		被質				11	0	1,600				2	180												
	合計	0	0	0	14	0	1,836	0	0	0	4	4	1,060	0	0	0	0	0	0						
不明		被質				2	0	10						1	10										
		被質	1	5	37	0	1,195	1	0	20	1	50	2	100	3	150									
	合計	1	0	5	39	0	1,205	1	0	20	1	0	50	3	0	110	3	0	150						

種別	分類	東調査区														
		57号土坑			58号土坑			47号土坑			48号土坑(未洗浄)					
		破片数	個数	重量(g)	破片数	個数	重量(g)	破片数	個数	重量(g)	破片数	個数	重量(g)			
軒丸瓦	出雲國分寺 2期 子母口 (秋葉)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	40		
軒平瓦	出雲國分寺 2期 子母口 (秋葉)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	370	370		
	合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	40		
平瓦	1枚作り 子母口 (秋葉)	0	1	90								2	220	1	1	40
	不規 範タガ (秋葉)												3	370		
	合計	0	1	90												
平瓦	1枚作り 子母口 (秋葉)	0	1	90								1	1	820		
	不規 範タガ (秋葉)												1	250		
	合計	0	1	90												
平瓦	1枚作り 子母口 (秋葉)	0	1	90								1	660			
	不規 範タガ (秋葉)												1	280		
平瓦	1枚作り タタキ子母口 (秋葉)	0	1	90								5	300	6	540	
	合計	0	1	90								12	1	1,220		
丸瓦	焼成式 破片											1	1	400		
丸瓦	不規 破片											3	1	40		
丸瓦	不規 破片											6	1	580		
	合計	0	0	0	2	0	400	2	0	340	1	0	22	4	2	1,080
不規	焼片	1	7	9				1	0	40	2	82	1	15	13	400
	焼片	1	0	7	9	0	250	1	0	40	2	0	82	1	0	15
	合計	1	0	7	9	0	250	1	0	40	2	0	82	1	0	15
	合計	1	0	7	9	0	250	1	0	40	2	0	82	1	0	15
種別	分類	東調査区			東調査区			東調査区			東調査区					
		73号溝			74号溝			75号溝			76号溝					
		破片数	個数	重量(g)	破片数	個数	重量(g)	破片数	個数	重量(g)	破片数	個数	重量(g)			
軒丸瓦	出雲國分寺 2期 子母口 (秋葉)	5	0	260	6	0	1,000									
	不規 範タガ (秋葉)	1	0	60	1	0	60									
軒平瓦	出雲國分寺 2期 子母口 (秋葉)	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	570			
	合計	0	0	0	6	0	1,260	8	0	1,610						
平瓦	1枚作り 子母口 (秋葉)	4	1	340	6	1	500									
	不規 範タガ (秋葉)	5	0	420	10	0	960									
平瓦	1枚作り 子母口 (秋葉)	0	1	80	2	0	150									
	不規 範タガ (秋葉)	2	1	1,200	2	1	1,200									
	合計	0	0	0	1	0	460									
丸瓦	焼成式 破片	0	0	0	3	0	720									
丸瓦	不規 破片	1	0	340	11	0	340									
	合計	1	0	250	1	0	250									
不規	不規 子母口 (秋葉)	1	0	180	2	0	300									
	不規 子母口 (秋葉)	5	0	1,180	13	0	2,080									
平瓦	1枚作り 子母口 (秋葉)	1	0	280	1	0	280									
平瓦	1枚作り タタキ子母口 (秋葉)	1	0	20	1	0	20									
平瓦	1枚作り タタキ子母口 (秋葉)	1	0	60	15	0	1,100	25	1	2,030						
	合計	1	0	60	37	2	5,390	68	3	9,290						
丸瓦	焼成式 破片	1	2	680	1	2	680									
丸瓦	不規 破片	2	3	600	2	3	600									
丸瓦	不規 破片	3	0	142	6	0	372									
	合計	1	110	15	2	2,210	26	2	3,816							
不規	焼片	1	0	110	21	7	3,632	35	7	5,468						
	焼片	1	0	10	3	0	20									
	合計	1	0	110	39	0	1,214	76	0	2,469						
	合計	0	0	0	40	0	1,224	79	0	2,429						

図版



西調査区全景（南から）



西調査区 g-h ライン土層断面（南西から）

図版 2



平成 22（2010）年度 東調査区全景（西から）



平成 23（2011）年度 東調査区全景（東から）



西調査区 a-b ライン土層断面（南東から）

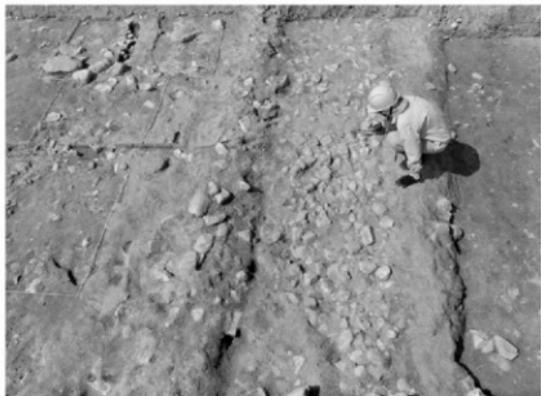


西調査区 g-h ライン土層断面（北東から）

図版 4



土坑1（東から）



碟敷遺構（南から）



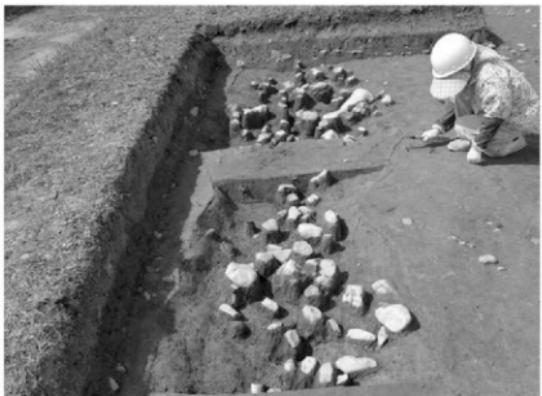
14号井戸2層上面（西から）



14号井戸4層上面（北西から）



74号溝検出状況（南から）



74号溝完掘状況（南から）

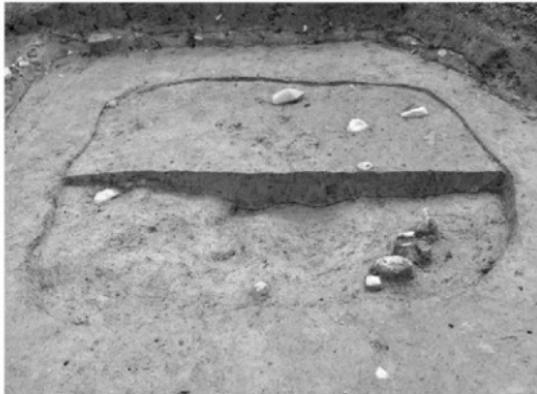
図版 6



75号溝、62号・63号土坑検出状況
(南から)



75号溝完掘状況（南から）



59号土坑（西から）



60号土坑（西から）



61号土坑、Pit12（南から）



64号土坑、Pit10、Pit11
(東から)

図版 8



76号溝（南から）



SX05（北から）



47号土坑（北から）



48号土坑（南東から）



48号土坑、井桁状遺構（南西から）

図版 10



48号土坑e-fライン土層断面、
51号土坑（南東から）



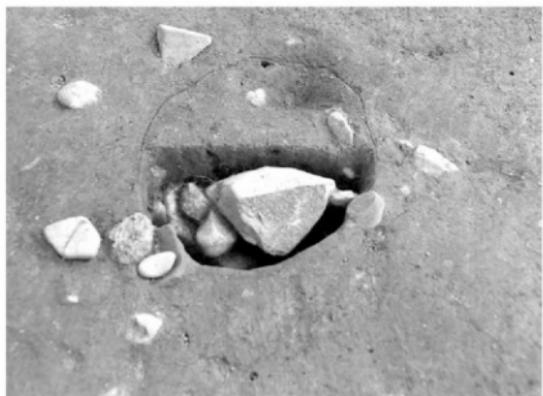
48号土坑e-fライン土層断面、
51号土坑（北東から）



48号土坑c-dライン土層断面、
51号土坑（東から）



49号土坑（南から）



Pit08（北から）



Pit09（北から）

図版 12



73号溝 a-b ライン土層断面（北東から）



77号溝（北から）



52号土坑（南東から）



井桁状遺構（北から）



井桁状遺構、57号・58号土坑
(北西から)

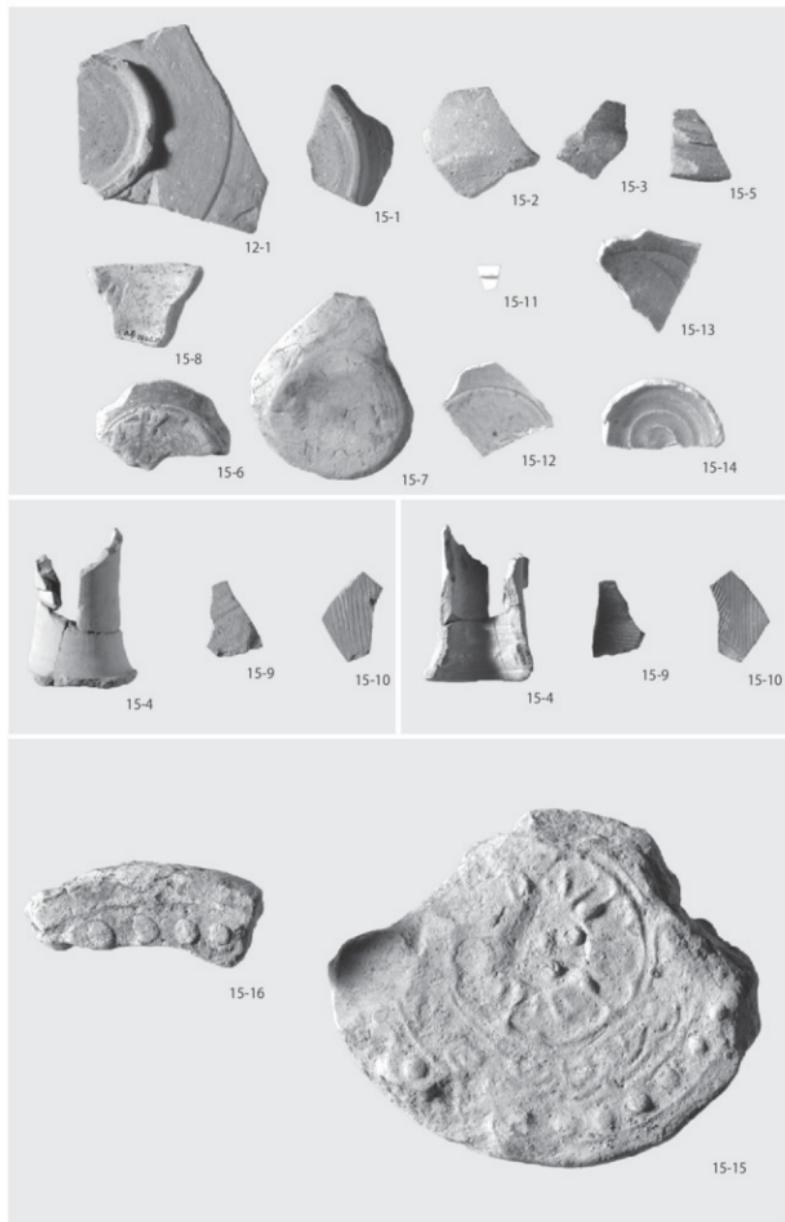
図版 14



第 55 トレンチ (南から)

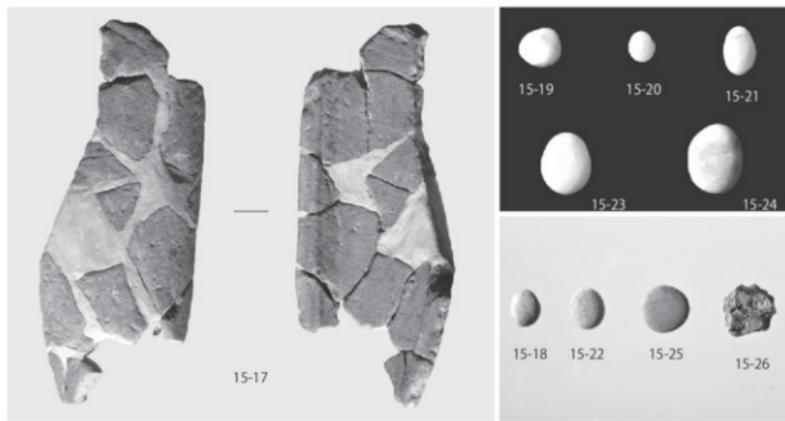


Pit 2 (西から)



水田溝 3、1・2 層出土遺物

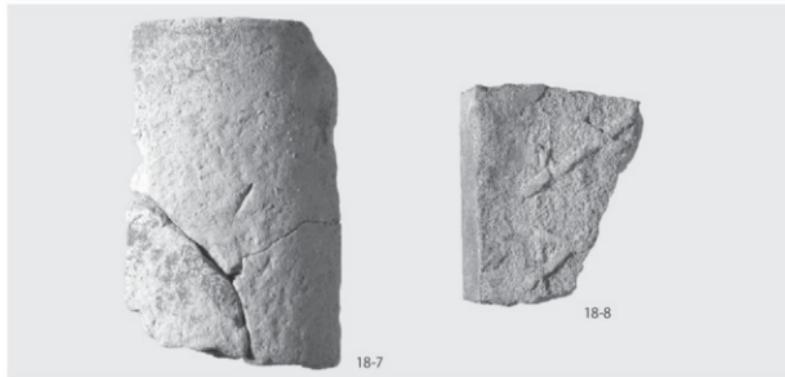
図版 16

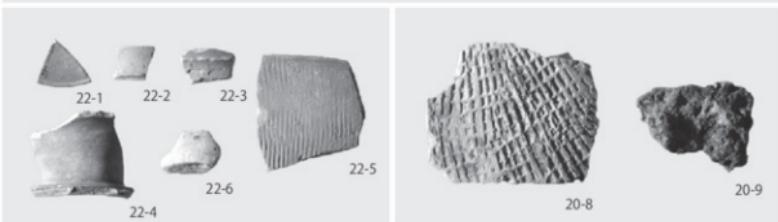
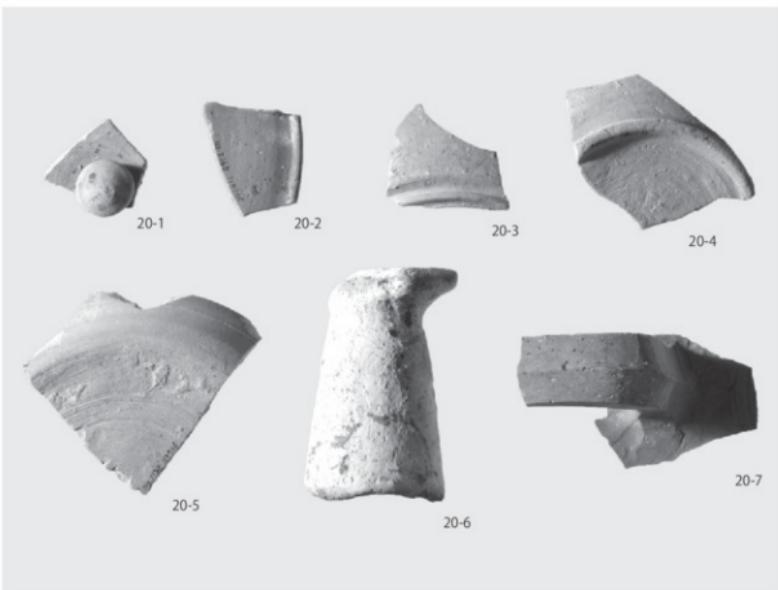


1・2層出土遺物



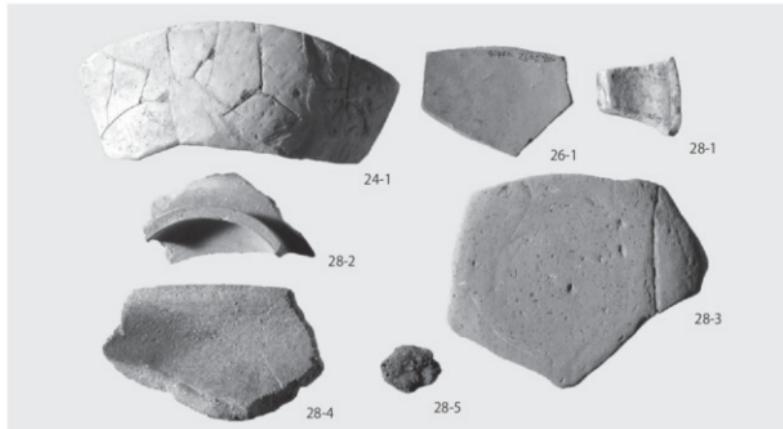
14号井戸出土遺物



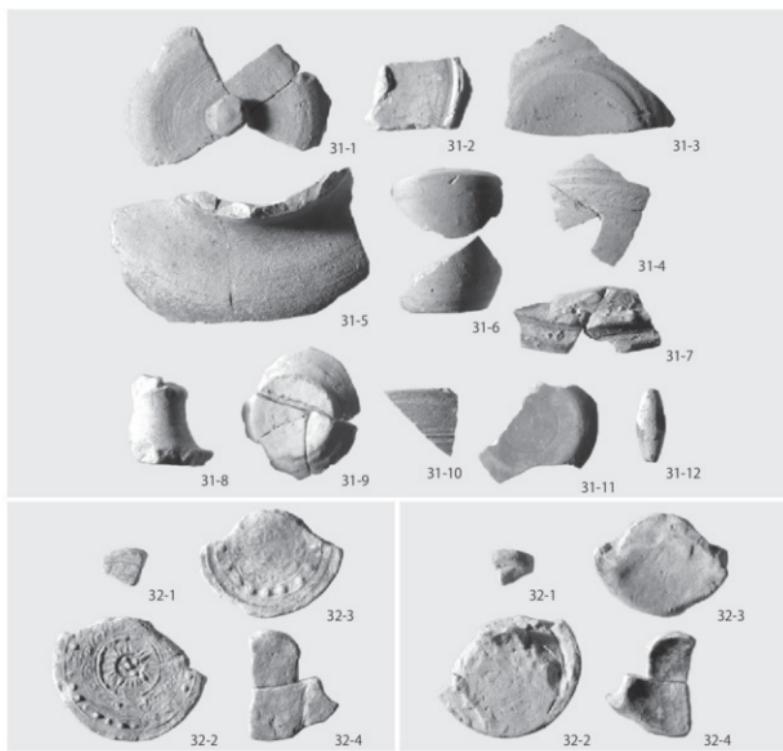


74号・75号溝出土遺物

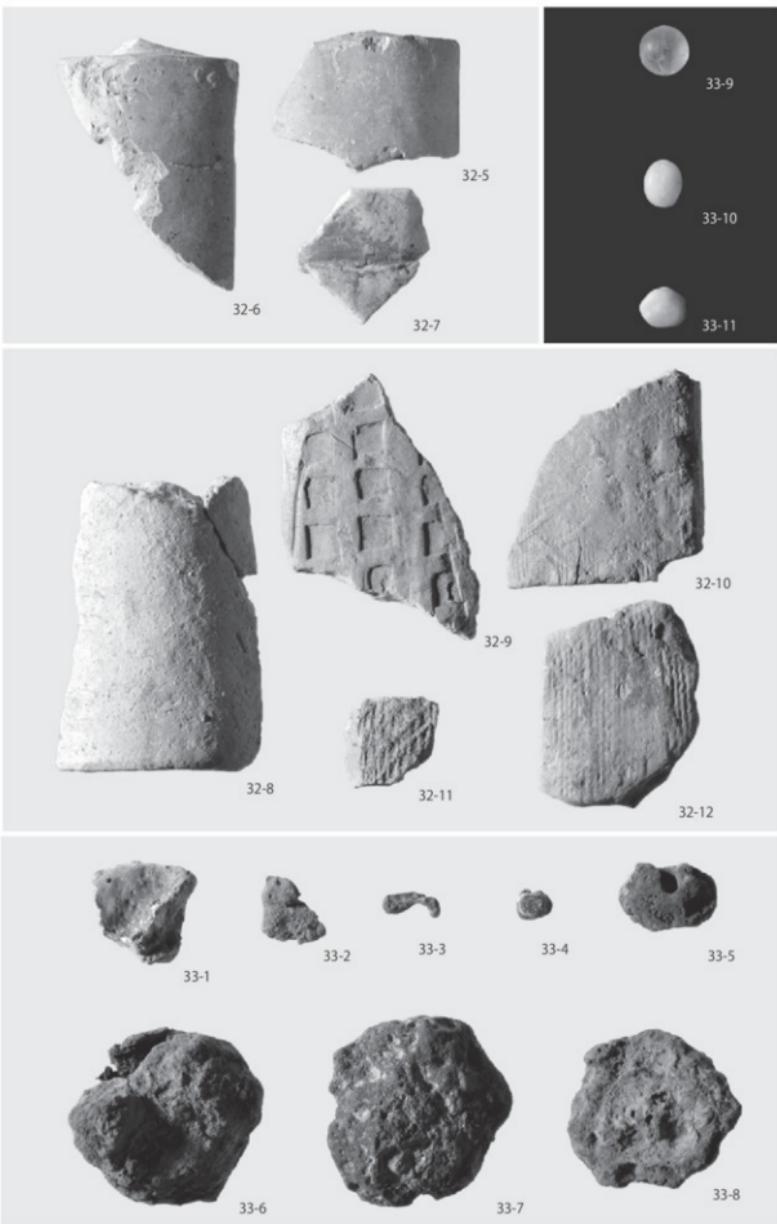
図版 18



59 ~ 61 号土坑、Pit 12 出土遺物

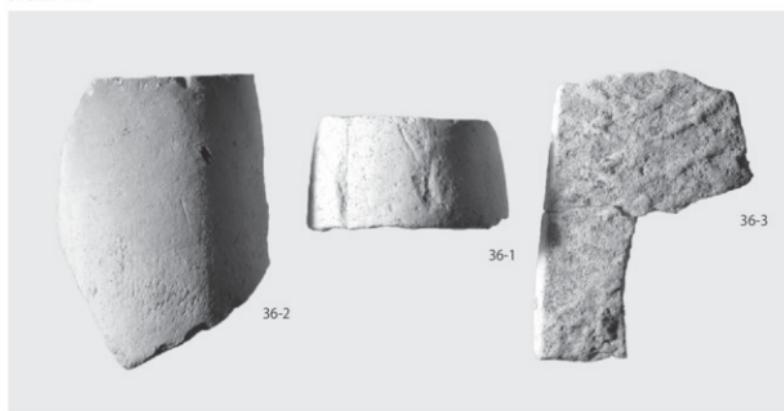


西調査区 3 層出土遺物 1

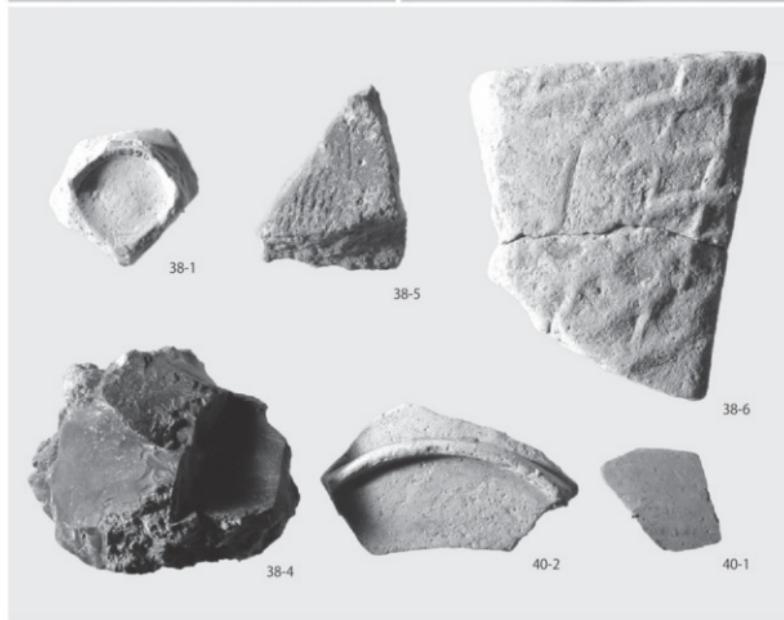
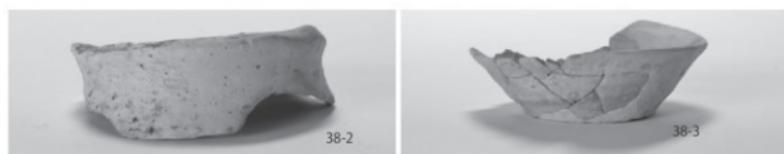


西調査区 3 層出土遺物 2

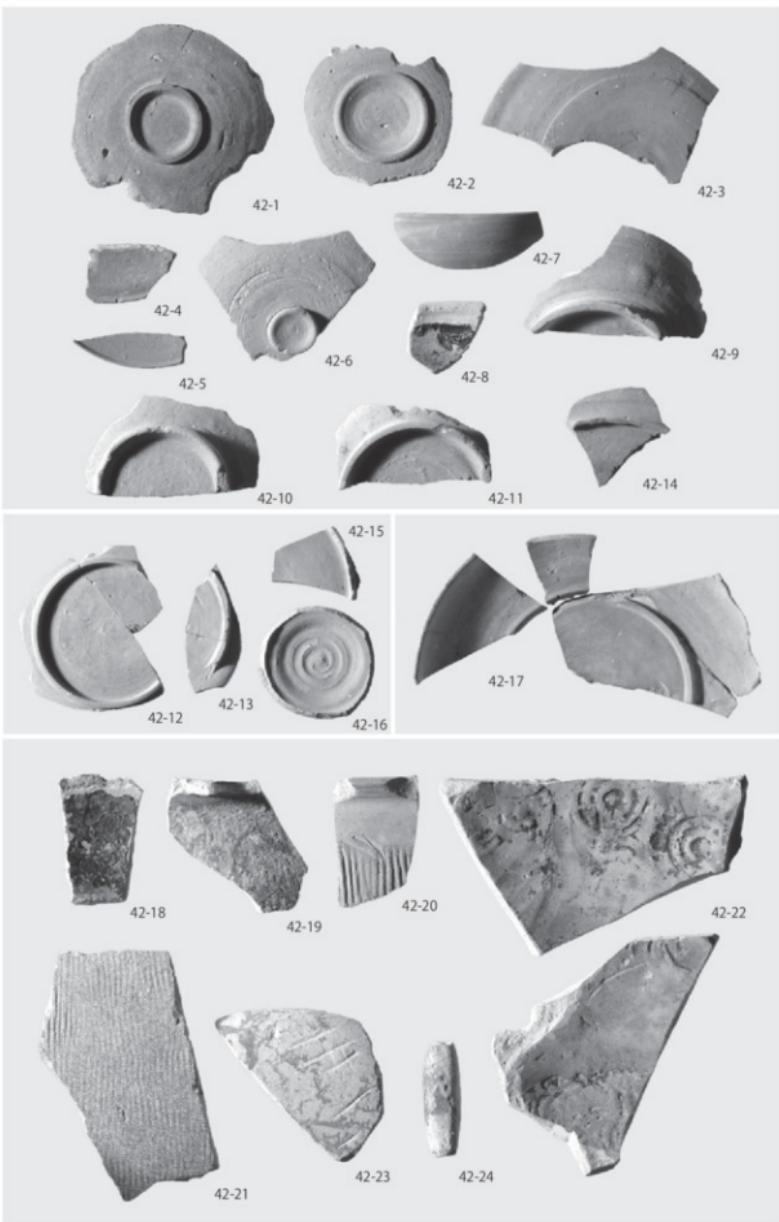
図版 20



70号溝出土遺物

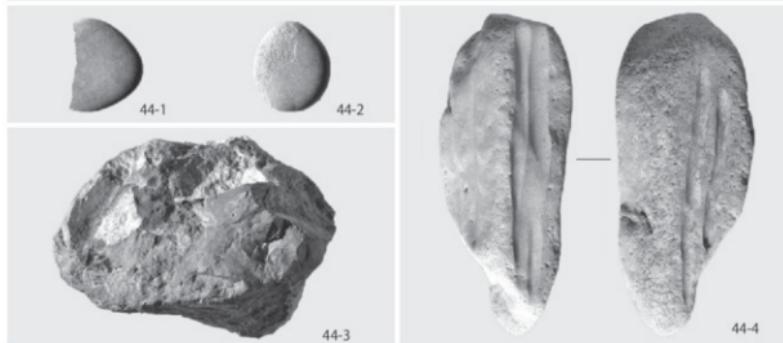
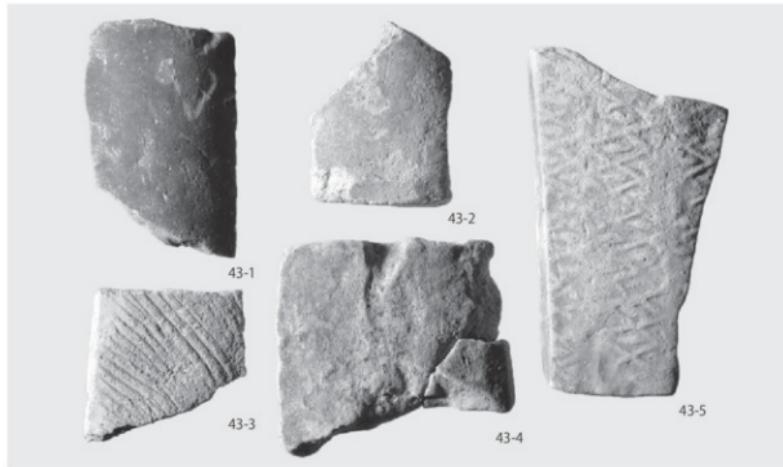


76号溝、SX05、47号土坑出土遺物



48号土坑出土遺物 1

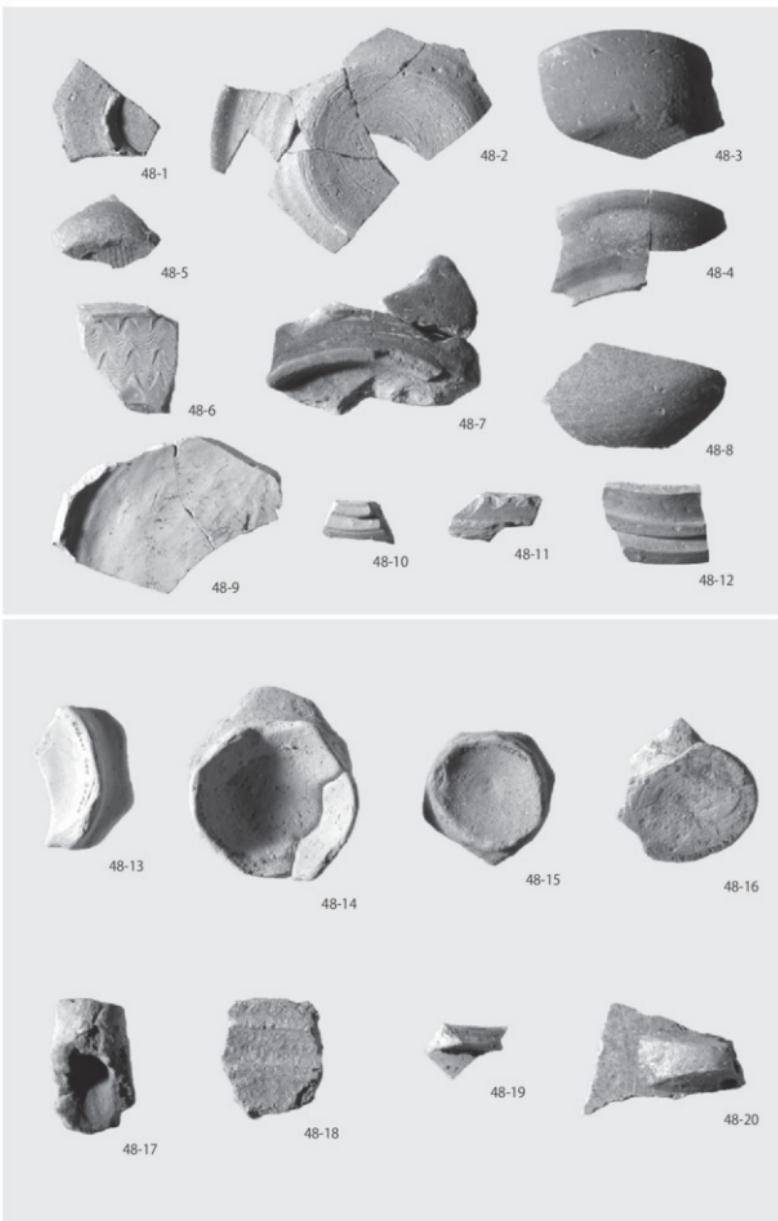
図版 22



48 号土坑出土遺物 2

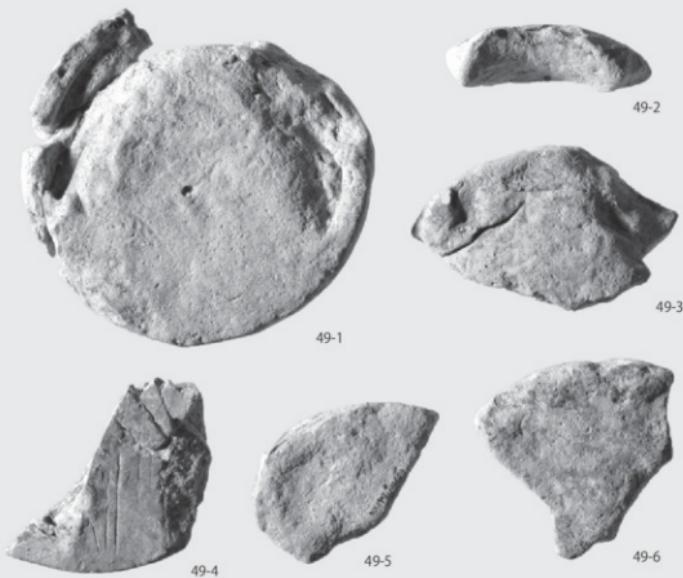


49 号土坑出土遺物



東調査区 3 層出土遺物 1

図版 24



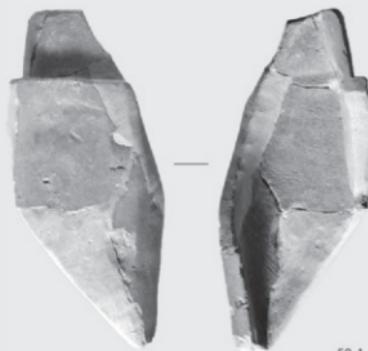
東調査区 3 層出土遺物 2



49-7



49-8



50-1



50-7



50-2



50-3



50-4

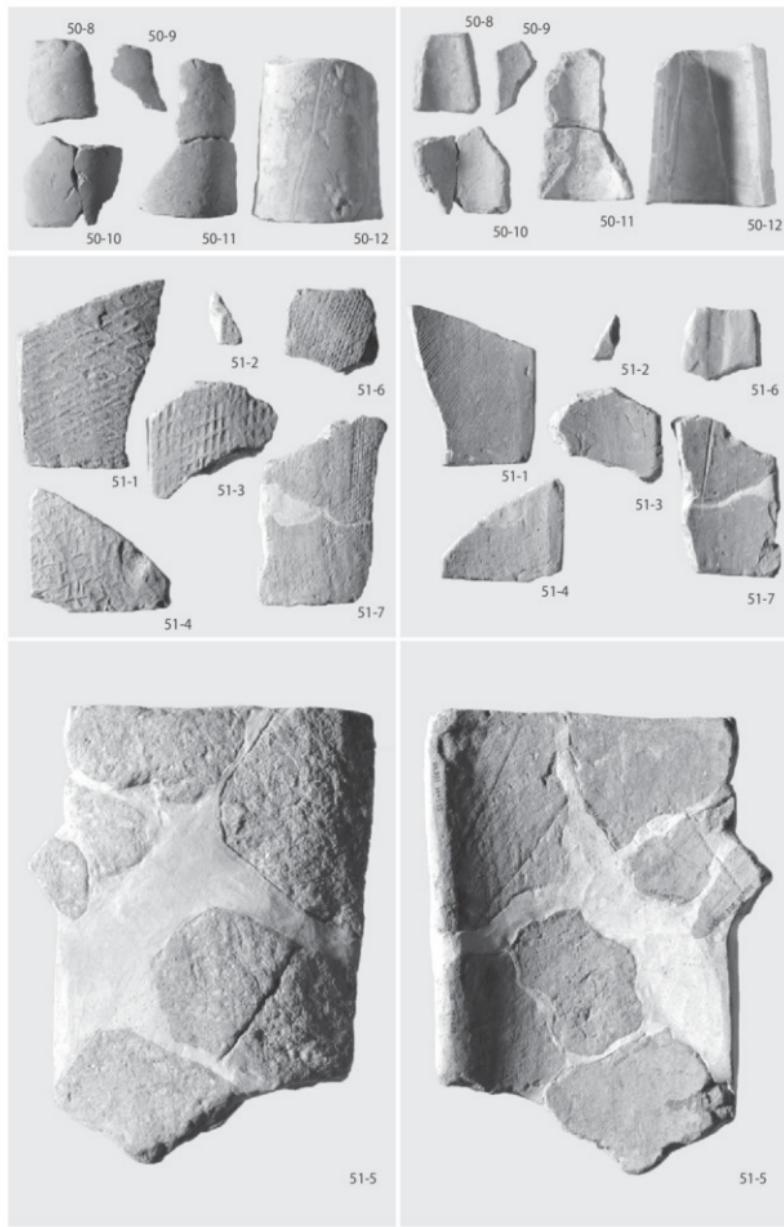


50-5

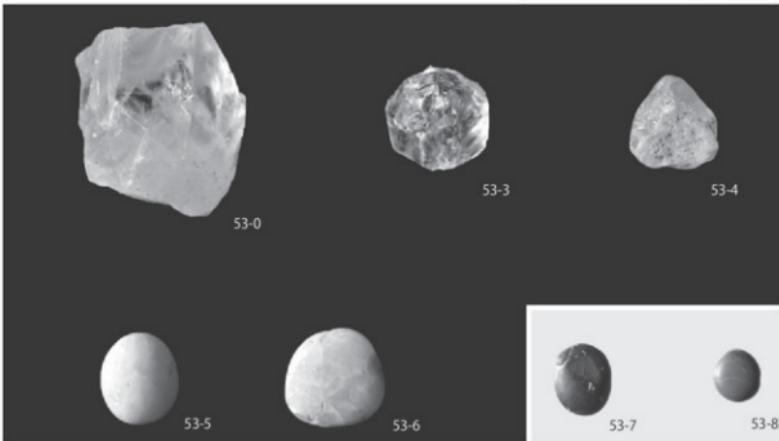
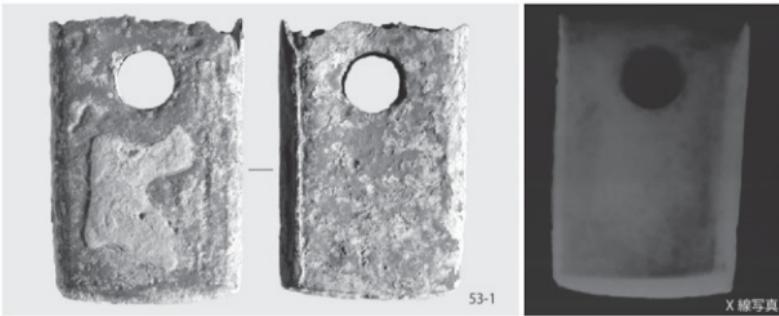
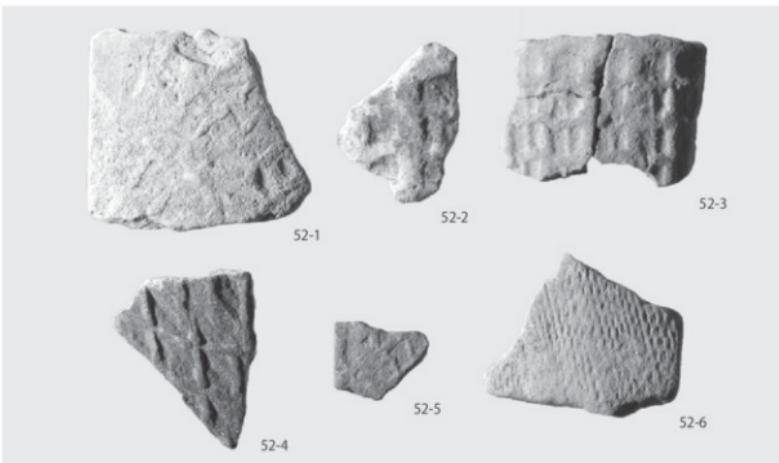


50-6

図版 26



東調査区 3 層出土遺物 4

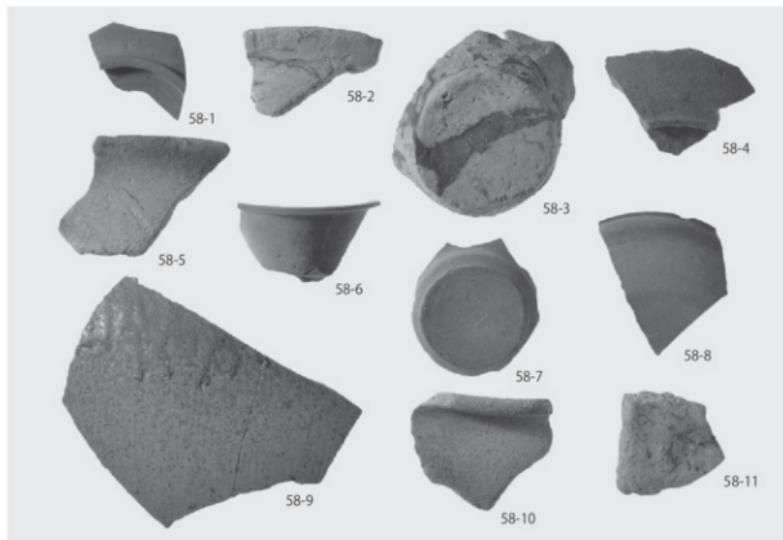


東調査区 3 層出土遺物 5

図版 28



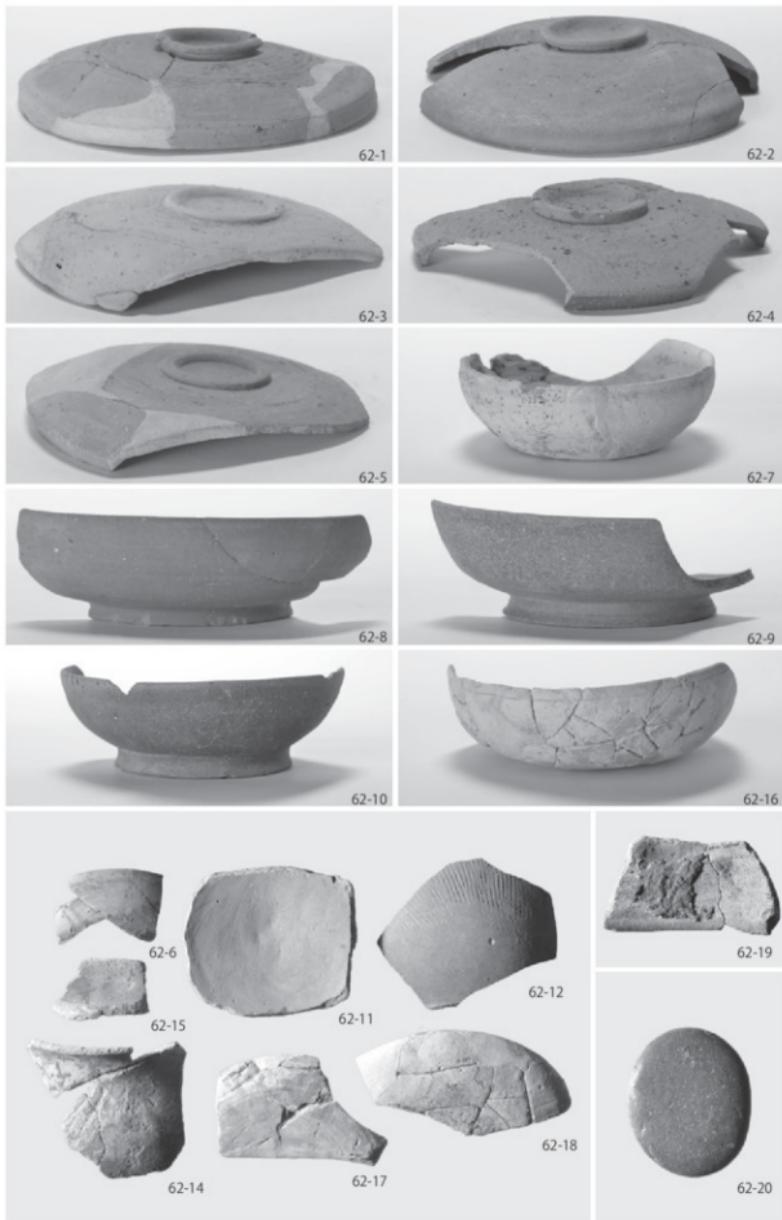
73号・77号溝出土遺物



50~53号土坑出土遺物



58号土坑出土遺物

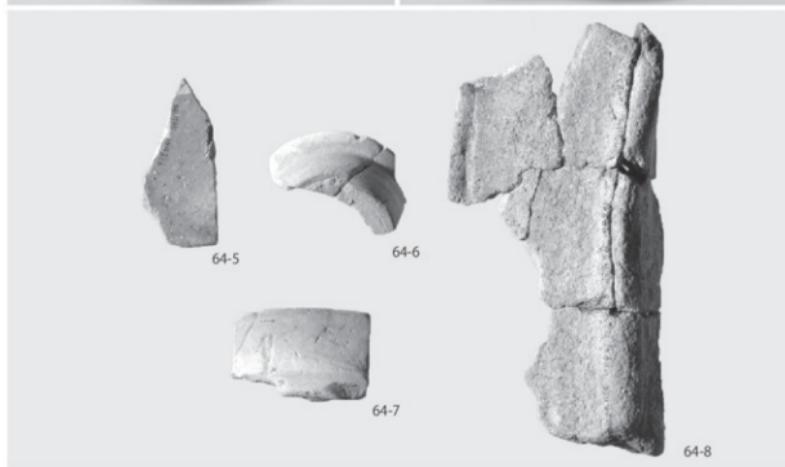
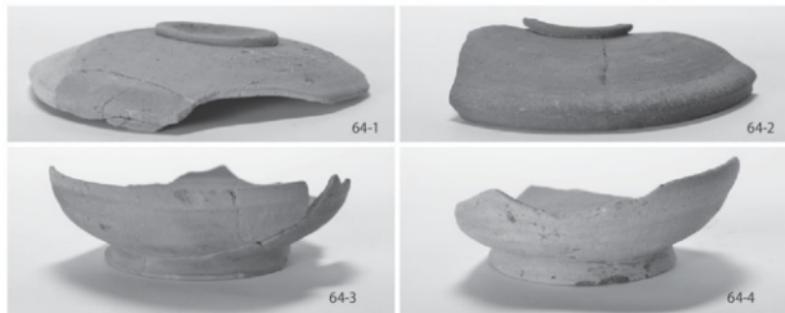


57号土坑出土遺物 1

図版 30



57号土坑出土遺物 2

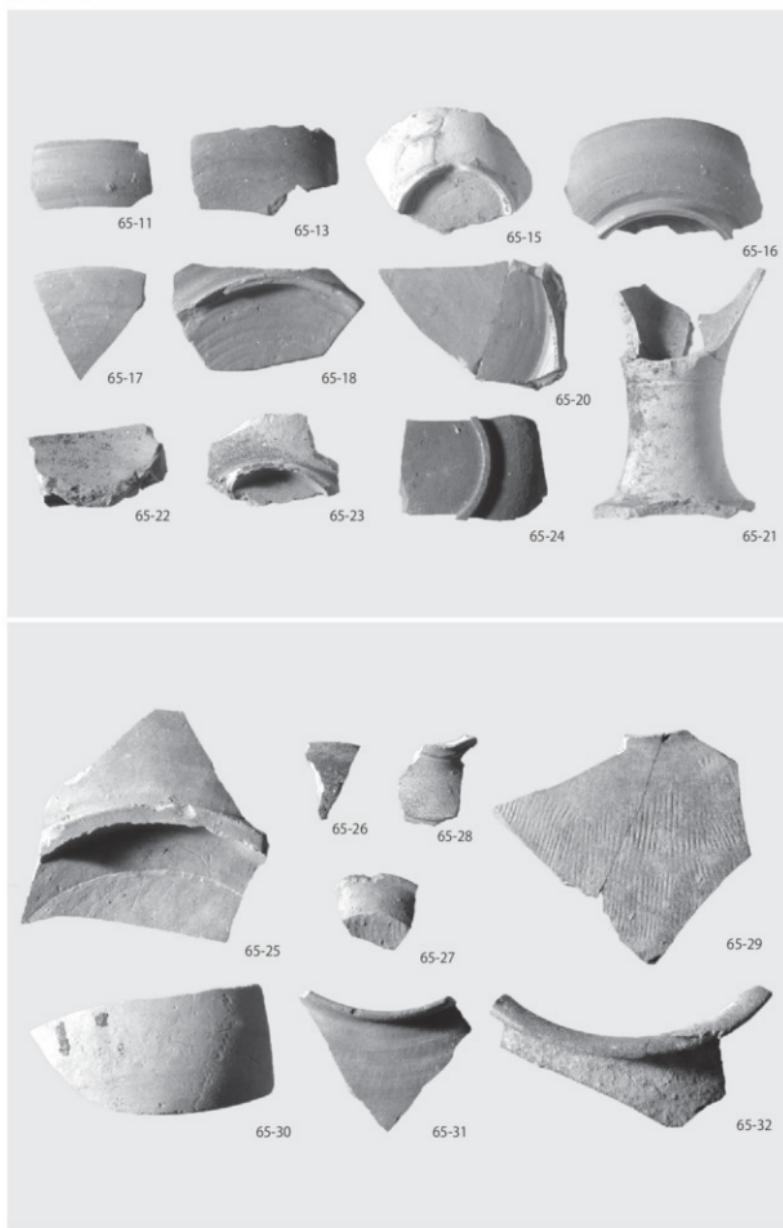


井桁状遺構出土遺物

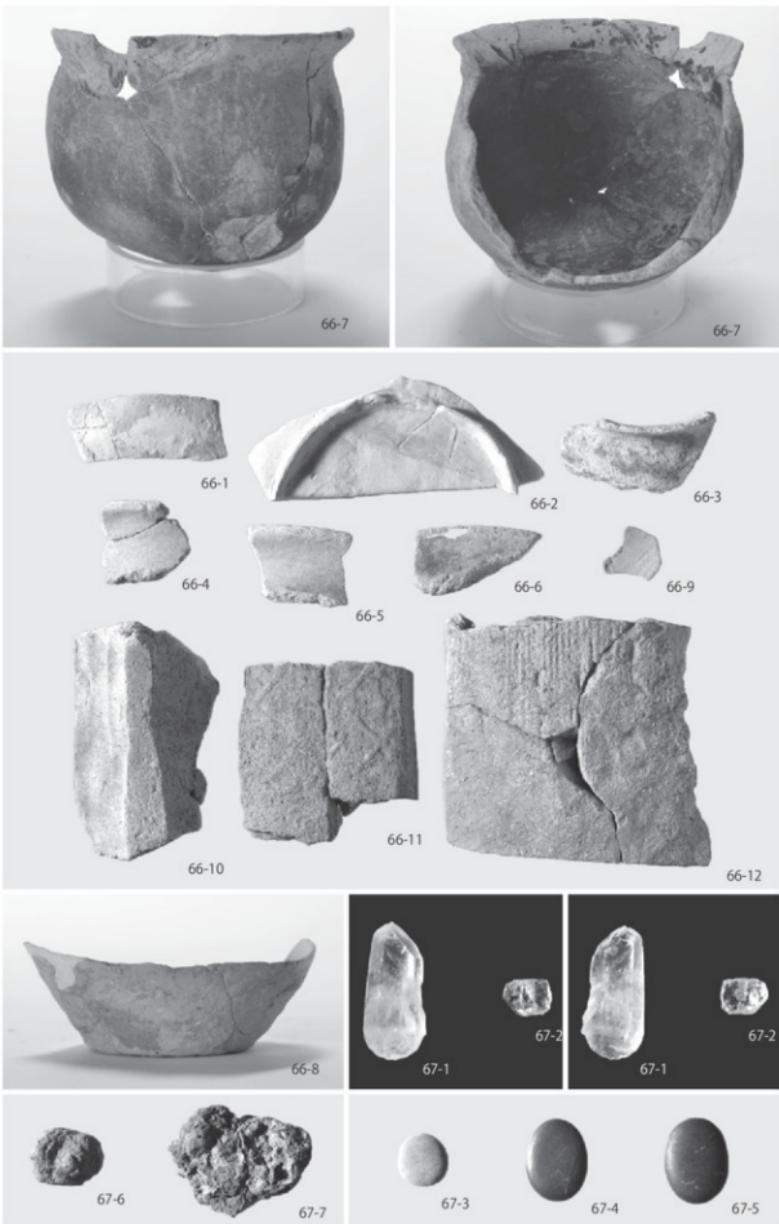


東調査区 4 層出土遺物 1

図版 32



東調査区 4 層出土遺物 2

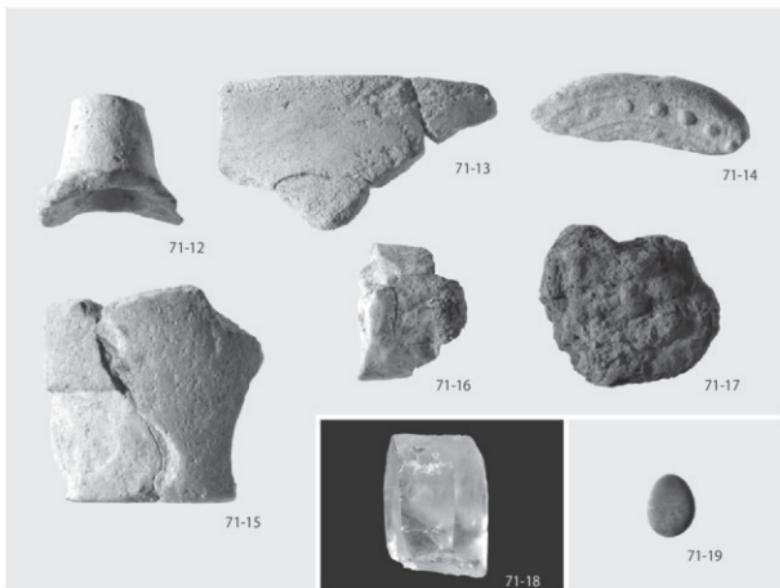


東調査区 4 層出土遺物 3

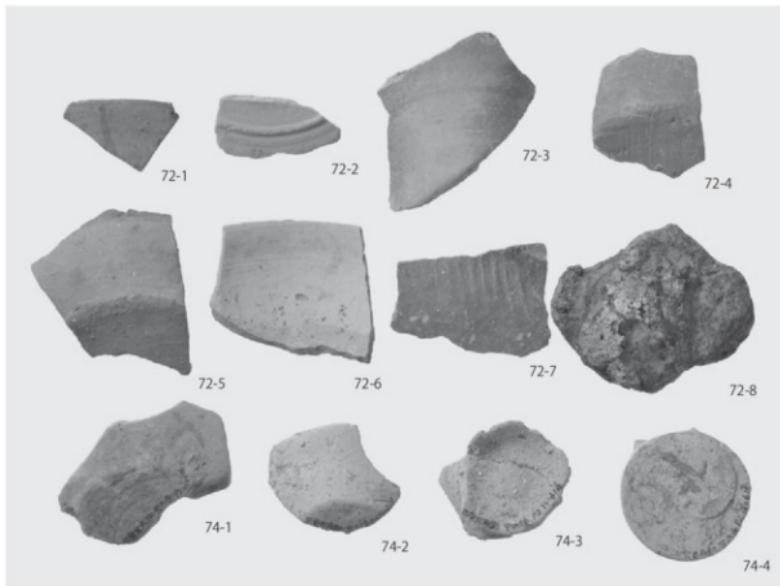
図版 34



西調査区 5 層、東調査区 5・6 層出土遺物



東調査区 5・6 層出土遺物



擾乱、廐土、第 55 トレンチ出土遺物

報告書抄録								
フリガナ	シセキイズモコクアト							
書名	史跡出雲国府跡 8							
シリーズ名	風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書							
シリーズ番号	21							
編著者名	稲田陽介、上山晶子、渡辺正巳							
編集機関	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター http://www.pref.shimane.jp/maizobunkazai							
所在地	〒 690-0131 島根県松江市打出町 33 番地 TEL 0852-36-8608(代) E-mail:maibun@pref.shimane.lg.jp							
発行年月日	平成 25(2013) 年 3 月 15 日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯※	東経※	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
イズモコクアト 出雲国府跡	シマネケン・ブスヒシオオカミタウ 島根県松江市大草町	32201	D285	35° 25' 35"	133° 06' 25" ~ 2011020	20100601 20101005 20110523 ~ 20111020	266m ² 307.25m ²	重要遺跡 内容確認
遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
出雲国府跡	官衙跡	古墳時代				須恵器、土師器		
		奈良時代 平安時代	溝 6 基、井戸 1 基、土坑 18 基、ピット 14 基				須恵器、土師器、 陶磁器、石器	
要約	島根県松江市大草町他に所在する史跡出雲国府跡の発掘調査。本書は平成 22・23(2010・2011) 年度にかけて実施した宮の後地区の調査成果を報告したものである。「国司館」の一角と推定される地点を調査し、国司館の西を画する溝跡、平安時代の井戸、整地作業の痕跡を検出した。各遺構は層位的に検出され、国司館の変遷を考える上で貴重な成果となった。さらに国司館の東に新たな区画溝を検出し、国司館の東にも何らかの施設が存在していた可能性が高まった。							

風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書 21

史跡出雲國府跡

— 8 —

- 発 行 平成 25 (2013) 年 3 月
発行者 島根県教育委員会
編 集 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
〒 690-0131 島根県松江市打出町 33 番地
mailto:maibun@pref.shimane.jp
<http://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/>
電 話 0852-36-8608(代)
印 刷 有限会社伊藤印刷

